

高崎市文化財調査報告書第420集

日高村主遺跡

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018

株式会社 高崎測量

高崎市教育委員会

株式会社 測研

例 言

- ・本書は、事務所建設に伴い事前調査された日高村主遺跡（高崎市遺跡番号 724）の発掘調査報告書である。
- ・本遺跡は、群馬県高崎市日高町字村主 581 番地 1 に所在する。
- ・発掘調査及び整理等作業は、高崎市教育委員会の指導・監督の下に、事業者と委託契約を締結した株式会社測研が実施した。
- ・発掘調査から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、事業主である株式会社高崎測量に負担して頂いた。
- ・発掘調査の体制は下記のとおりである。

高崎市教育委員会

株式会社 測研 高林 真人

- ・発掘調査期間は平成 30 年 4 月 9 日～平成 30 年 5 月 31 日、整理等作業期間は平成 30 年 6 月 1 日～11 月 30 日である。
- ・本書の執筆は、第 1 章を高崎市教育委員会文化財保護課、第 2 章～第 4 章を高林が行い、編集は高林が行なった。
- ・出土した遺物及び各種原図・写真などの記録類は高崎市教育委員会が保管している。
- ・本遺跡の発掘調査および報告書刊行にあたって、下記の方々・機関から御指導・御協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。（順不同・敬称略）

株式会社高崎測量 瑞穂建設株式会社 加藤空撮

凡 例











- ・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
- ・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
- ・断面図に付した数値（L＝）は、海拔を表す。
- ・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修 『新版標準土色帖（1998 年版）』を使用した。
- ・遺構には次の略号を使用した。

S I＝竪穴住居跡 S H＝方形周溝墓 S K＝土坑 S D＝溝跡 P＝ピット（小穴） p＝住居跡ピット

- ・遺構の実測図は、調査区全体図を 1/100、竪穴住居跡の平面・断面図を 1/60、住居跡炉跡の平面・断面図及びピット断面図を 1/30、方形周溝墓・溝跡の平面図を 1/80、断面図を 1/40、土坑の平・断面図を 1/40、ピットの平面図を 1/80 で掲載した。
- ・遺物の実測図は、土器は 1/3 を原則とし大型品を 1/6 で、土製品は 1/2 で、石器は 1/6 で、磨製石鏃・蛇紋岩原石は 1/2 で掲載した。
- ・遺物実測図の割れ口は、輪積み・積み上げ部分で割れていると判断したものは実線で表している。
- ・遺物写真は実測図とほぼ同寸となるように掲載した。
- ・出土した遺物の注記は、遺跡番号（724）・遺構名・出土層位などを記入した。
- ・本報告書で使用した地図は下記のとおりである。

◎国土地理院 地形図「前橋」 1/25,000 ◎高崎市都市計画基本図 1/2,500

- ・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。

赤彩		煤		釉薬範囲・灰釉陶器断面		須恵器断面					
切断痕		敲き痕		つぶれ痕		擦れ痕		赤色物質		自然面	

目次

例言・凡例・目次

第1章	調査に至る経緯	1
第2章	遺跡の位置と環境	1
第1節	遺跡の位置と周辺の地形	1
第2節	周辺の遺跡	1
第3章	調査方法と調査の経過	3
第1節	調査方法	3
第2節	調査の経過	4
第4章	確認された遺構と遺物	4
第1節	遺構の分布と基本土層	4
第2節	竪穴住居跡	6
第3節	方形周溝墓	20
第4節	土坑	22
第5節	溝跡	33
第6節	ピット	35
第7節	遺物包含層出土遺物	35
第8節	遺構外出土遺物	36
第9節	まとめ	37

挿図目次

第1図	周辺遺跡図・調査区位置図 (1/25,000・1/2,500)	2
第2図	グリッド配置図	3
第3図	調査区全体図・基本層序断面図	5
第4図	1号竪穴住居跡平面・断面図	7
第5図	1号竪穴住居跡出土遺物実測図	8
第6図	2号竪穴住居跡平面・断面図、 出土遺物実測図	9
第7図	3号竪穴住居跡平面・断面図、 出土遺物実測図	10
第8図	4号竪穴住居跡平面・断面図、 出土遺物実測図	11
第9図	5号竪穴住居跡平面・断面図①	12
第10図	5号竪穴住居跡平面・断面図②、 出土遺物実測図①	13
第11図	5号竪穴住居跡出土遺物実測図②	14
第12図	6号竪穴住居跡平面・断面図	15
第13図	6号竪穴住居跡炉跡平面・断面図、 出土遺物実測図①	16
第14図	6号竪穴住居跡出土遺物実測図②	17
第15図	6号竪穴住居跡出土遺物実測図③	18
第16図	7号竪穴住居跡平面・断面図、 出土遺物実測図	18
第17図	8号・9号竪穴住居跡平面・断面図、 8号竪穴住居跡出土遺物実測図	19
第18図	9号竪穴住居跡出土遺物実測図	20
第19図	1号方形周溝墓平面・断面図	21
第20図	1号方形周溝墓出土遺物実測図	22
第21図	1号～3号・12号・22号～24号土坑 平面・断面図	23
第22図	4号～9号・13号土坑平面・断面図	25
第23図	10号・11号・14号～18号土坑平面・ 断面図	27
第24図	19号～21号土坑平面・断面図、 土坑出土遺物実測図①	30
第25図	土坑出土遺物実測図②	31
第26図	3号溝跡平面・断面図①	32
第27図	3号溝跡平面・断面図②、 出土遺物実測図	33
第28図	ピット平面図、出土遺物実測図	34
第29図	遺物包含層出土遺物実測図	35
第30図	遺構外出土遺物実測図	36

表目次

第1表	ピット計測表	35
第2～第4表	遺物観察表	38

写真図版

第1章 調査に至る経緯

平成30年1月、土地所有者および施工責任者である株式会社高崎測量から、高崎市日高町において計画している事務所建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である新保田中11-1遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年1月11日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年2月19日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、弥生時代の竪穴住居跡を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「日高村主遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、平成30年3月15日に株式会社高崎測量と民間調査機関株式会社測研との間で契約を締結、また同日に株式会社高崎測量・株式会社測研・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

日高村主遺跡は、高崎市日高町に所在する弥生時代後期の集落跡を主体とする遺跡である。本遺跡の所在する高崎市は群馬県南西部に位置し、北東側に緩やかに弧を描く北西—南東方向に細長い形をしている。日高町は高崎市の北東側に位置しており、高崎中心市街地からは北東へ約5.5kmの場所にある。南北に細長い形をしており、北東部は前橋市との境をなす。本遺跡は日高町の北側に位置し、本遺跡の南西約30mの所に関越自動車道が北西—南南東方向に走り、北東約450mにはJR上越線、約80mの所には県道12号線（主要地方道前橋・高崎線）が関越自動車道と交差する方向に走る。

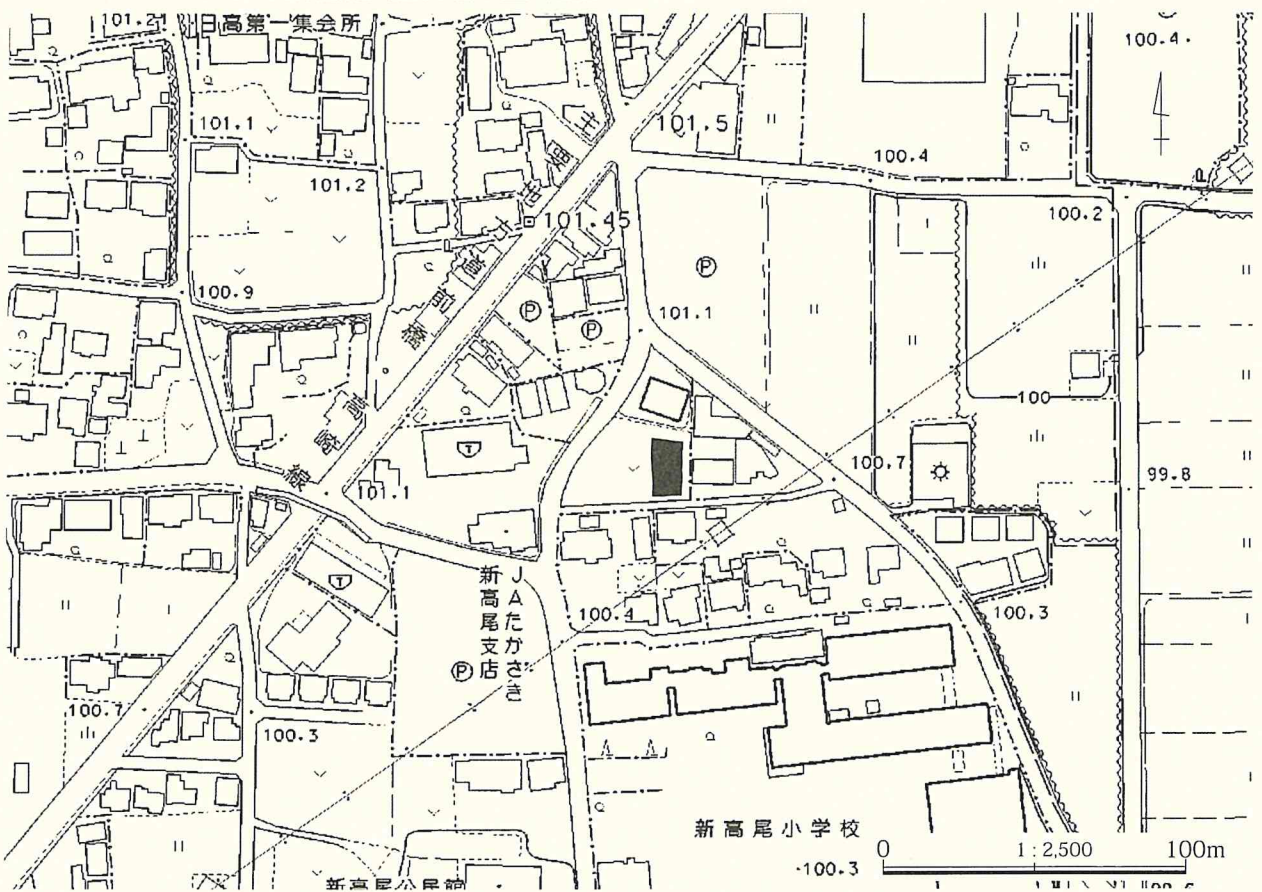
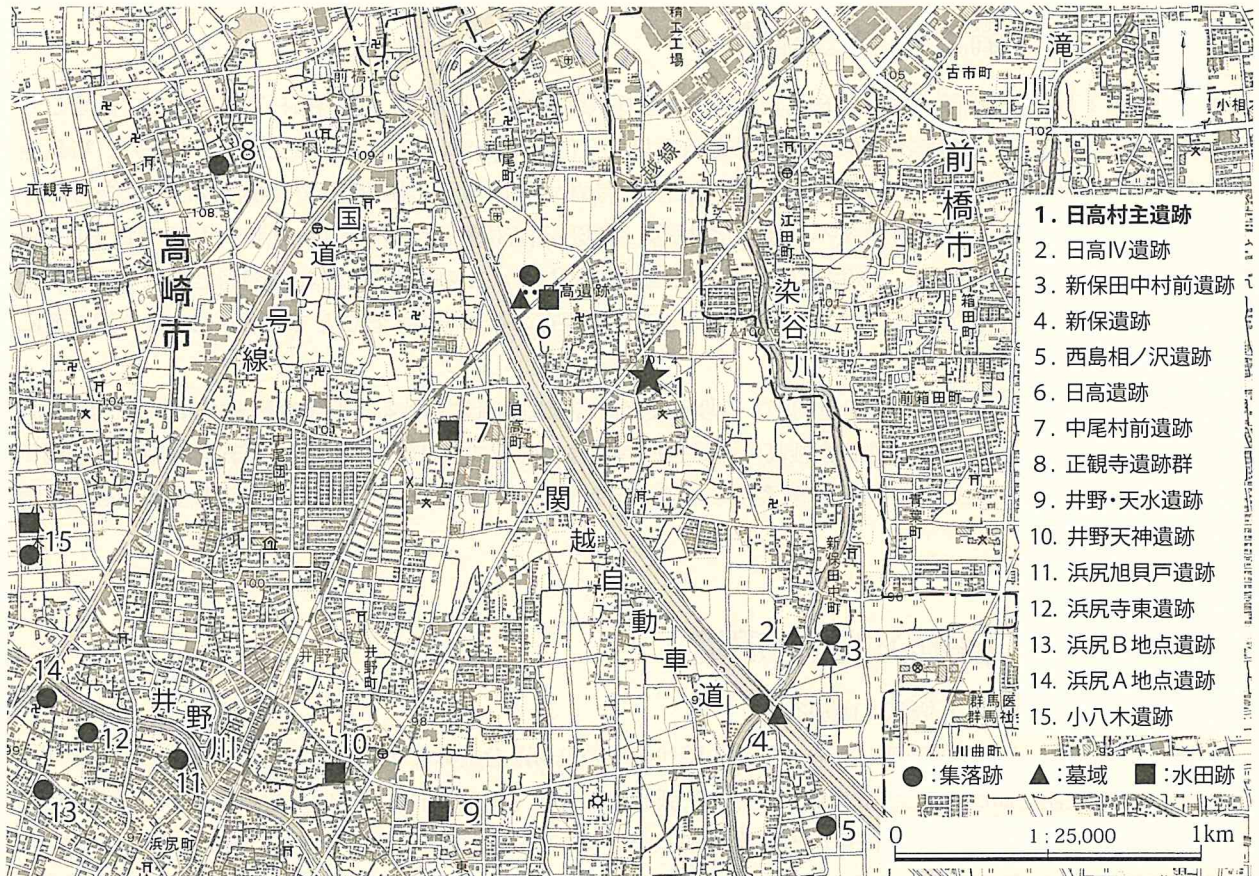
本遺跡は榛名山麓扇状地から南東方向に延びる前橋台地上に立地する。前橋台地は、南東側が相馬ヶ原扇状地を源とする井野川の周辺に形成された井野川低地に、北東側が旧利根川の氾濫原である広瀬川低地に挟まれており、南東端部は広瀬川が利根川に合流する伊勢崎市境平塚周辺となる北西—南東方向に長い舌状台地である。間を利根川が北西—南東方向に流れており、台地を北東側と南西側に二分している。

本遺跡は南西側の前橋台地上に立地しており、本遺跡の東側約500mの所に相馬ヶ原扇状地を源とし井野川へと合流する染谷川が南流している。本遺跡の現況は荒蕪地で、標高は約100mで概ね平坦である。

第2節 周辺の遺跡

日高村主遺跡の今回の発掘調査では、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡、弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓などが確認された。本遺跡周辺の地形は染谷川流域、井野川流域と、その間の微高地に分けられる。弥生時代中期～古墳時代初頭の集落跡、墓域、そして近くに浅間C軽石下水田跡で著名な遺跡である日高遺跡があることから水田跡を含めて、本遺跡周辺の遺跡を概観したい。

集落跡 染谷川流域では中期後半から新保遺跡（4）、新保田中村前遺跡（3）で集落が造られ始め、後期に至り大規模化し地域の中核をなす集落となるが、その後減少していき古墳時代初頭には途絶えてしまう。後期前半から西島相ノ沢遺跡（5）で集落が造られ、古墳時代初頭も継続する。井野川流域では中期後半から浜尻A地点遺跡（14）、浜尻B地点遺跡（13）で環濠集落が造られ、浜尻旭貝戸遺跡（11）、浜尻寺東遺跡（12）と合わさって大きな集落を形成していたと考えられるが、後期初頭で途絶えてしまう。後期前半に小八木遺跡（15）で竪穴住居跡1軒が確認されており、集落本体は別にあると考えられる。染谷川・井野川間では中期の集落は確認されていない。後期前半から正観寺遺跡群（8）で竪穴住居跡が出現し、後半～末期の地域の中核となる大規模集



第1図 周辺遺跡図・調査区位置図 (1/25,000・1/2,500)

落となる。約1 km南東の日高遺跡（6）でも後期後半から集落が造られ、ともに古墳時代初頭も継続する。 **墓域** 染谷川流域では日高IV遺跡（2）で後期から方形周溝墓が造られるが墓域は後期で途絶える。新保遺跡、新保田中村前遺跡では後期から周溝墓・土壙墓が造られ、墓域は古墳時代初頭も継続する。日高IV遺跡、新保遺跡、新保田中村前遺跡は隣接していることから一連の遺跡と考えられる。井野川流域では墓域は確認されていない。染谷川・井野川間では後期から日高遺跡で方形周溝墓が造られるが、墓域は後期で途絶える。 **水田跡** 染谷川流域では明確な水田遺構は確認されていないが、新保遺跡で水田に関連すると思われる後期の水路が確認された。井野川流域では小八木遺跡、井野・天水遺跡（9）、井野天神遺跡（10）で後期の水田跡が確認された。染谷川・井野川間では中期後半から後期にかけて日高遺跡で、後期に中尾村前遺跡（7）で水田跡が確認されている。

第3章 調査方法と調査の経過

第1節 調査方法

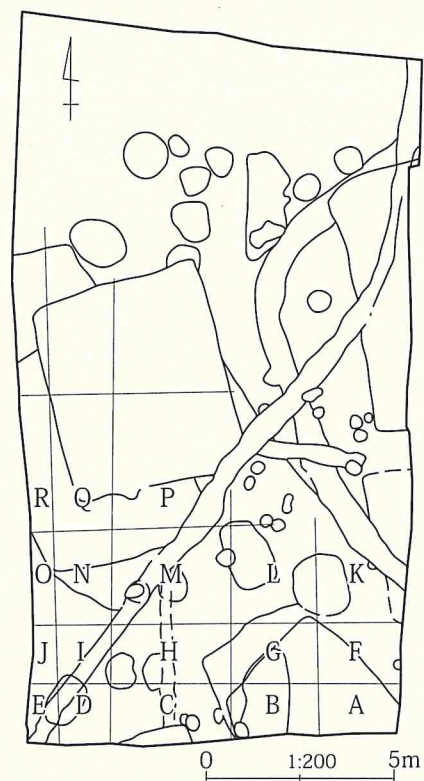
日高村主遺跡の発掘調査は、事務所建設に伴い現状が変更される建物部分において工事を行う前に実施した記録保存調査である。したがって、発掘調査範囲は南北17.9 m、東西10.3 mの長方形を呈する。発掘調査面積は約200㎡である。

表土掘削は、事前に実施された試掘調査の成果を基に遺物包含層（IV層、第4章基本層序参照）上面まで重機を用いて行ったが、この面では遺構覆土との違いを見分けることが出来なかったため再度重機を用いて基盤層（V層）上面まで掘削を行った。この際に出土した遺物は、表土及び遺物包含層（IV層）で取り上げた。

基盤層（V層）上面を人力で削り遺構確認作業を行った。調査区南側の約1/3は基盤層（V層）がほとんど見られず、大半は遺物包含層（IV層）が残っている状況であった。そのため土層観察用ベルトを格子状に設け任意のグリッドを設定し遺物包含層（IV層）を掘り下げ遺構確認を行った。グリッドは、調査区南東隅部を起点に西へA～E、北へ移動し西へ向かってF～Jと繰り返し、最終的にRまで区分した。出土した遺物は、グリッドごとに遺物包含層（IV層）及び確認面で取り上げた。

遺構の掘り込みは、遺構の形態を捉えることのできたものは形態・大きさに応じて適宜土層観察用のベルトを設定し、重複のため形態の不明瞭なものは、明らかな所から直交ないし中央ラインで土層観察用ベルトを設定し、土の堆積状況や遺物の出土状況に留意して行った。そのため、土層観察ベルトの位置がずれた遺構も見られる。遺物の取り上げは、遺構に伴うと判断したもの及び遺存状況の良いものは平面図作成又は座標値を測量して取り上げた。その他の遺物は遺構覆土一括で取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は光波測距儀を用いて全体図を1/50、遺構平面図・遺構断面図を1/20の縮尺で図化した。ピットは他の遺構と重複しているもののみ土層断面図を作成し、その他は土層注記・土層断面写真撮影後に完掘した。写真撮影は、35mm小型一眼レフカメラと約1800万画素のデジタルノンレフレックスカメラを併用して行った。35mmカメラはモノクローム・カラーリバーサルフィルムを使用し、ともに同一カットを3枚1単位で露出を変えての撮影を基本とした。デジタルカメラも同一カットの露出を変えて3枚1単位で撮影を行った。また、無線操縦のヘリコプター模型による空中写真撮影を実施し、ブローニー版中型カメラでモノクロームフィルム、約1800万画素デジタル一眼レフカメラで撮影を行った。



第2図 グリッド配置図

第2節 調査の経過

調査日誌抄

平成30年4月6日	事業者と打ち合わせ、発掘調査範囲の設定。	平成30年4月26日	溝跡の掘り下げ開始。
平成30年4月9日	表土掘削開始。	平成30年4月27日	4号～7号竪穴住居跡の掘り下げを開始。
平成30年4月10日	表土掘削終了、作業員雇用開始、遺構確認作業開始。	平成30年5月11日	8号・9号竪穴住居跡の掘り下げを開始。
平成30年4月11日	遺構確認作業終了、近世遺構の掘り下げ開始。	平成30年5月25日	ピットの半截開始。
平成30年4月12日	調査区南側の遺物包含層掘削開始。	平成30年5月30日	遺構精査・遺構測量終了、空中写真撮影実施、高崎市教育委員会担当者が来跡し調査終了を確認。
平成30年4月17日	高崎市教育委員会担当者が来跡し、調査状況を確認。	平成30年5月31日	調査範囲の埋め戻し実施、発掘調査器材の片付け・撤収を行い発掘調査に伴う全ての作業が終了。
平成30年4月19日	遺物包含層の掘削が終了、1号～3号竪穴住居跡・方形周溝墓・土坑の掘り下げを開始。		
平成30年4月24日	近世遺構の掘り下げ終了。		

第4章 確認された遺構と遺物

第1節 遺構の分布と基本土層

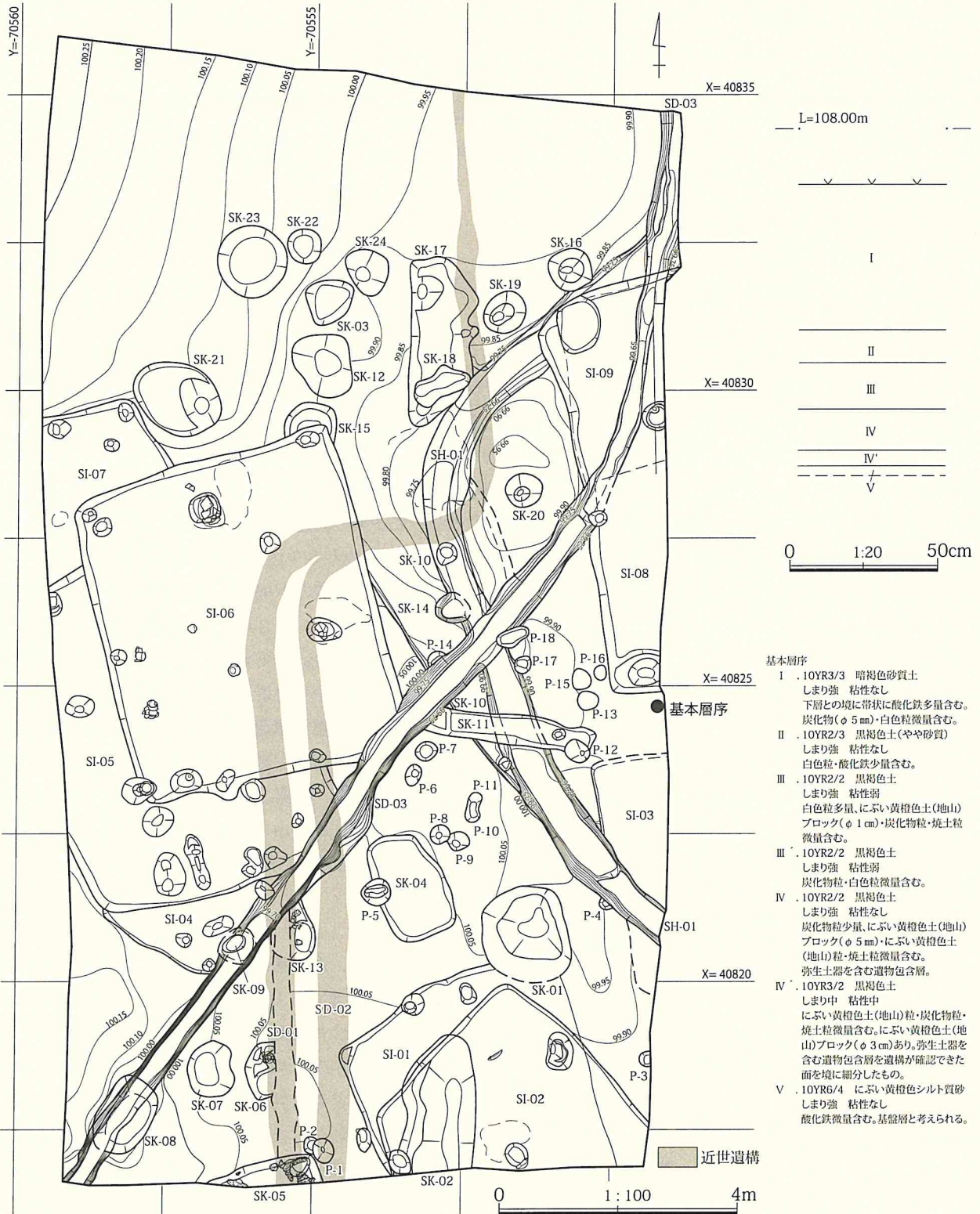
遺構分布 今回の日高村主遺跡の発掘調査では近世の溝跡2条（SD01・02）、古代と考えられる土坑2基（SK07・11）、古墳時代中期の土坑1基（SK21）、古墳時代中期以降と考えられる土坑2基（SK08・09）、古墳時代前期～中期と考えられる溝跡1条（SD03）、弥生時代終末～古墳時代初頭の方形周溝墓1基（SH01）、土坑2基（SK01・14）、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡1軒（SI03）、弥生時代後期の竪穴住居跡8軒（SI01・02・04～09）、土坑16基（SK03～06・10・12・13・15～20・22～24）、ピット18基（P01～P18）、弥生時代後期以前の土坑1基（SK02）が確認された。

近世の溝跡は1条（SD01）が調査区東西幅のほぼ中央をクランク状に屈曲して北一南方向に走り、もう1条（SD02）はSD01のクランク南側の約1m東側を並走しクランク部で合流する。溝跡からは近世瓦（軒棧瓦など）が出土したことから近世遺構と判断した。今回の発掘調査の主対象の時代とは異なるため遺構範囲のみを記録した。

古代の土坑は、調査区南西部に1基（SK07）、調査区南東部に1基（SK11）分布する。古墳時代中期の土坑は調査区北西部に1基（SK21）分布し、古墳時代中期以降の土坑は南西部に2基（SK08・09）が分布する。古代・古墳時代の土坑分布に傾向は見られない。古墳時代前期～中期の溝跡（SD03）は、調査区北東隅部と南西隅部を結ぶように走り、調査区内を北西側と南東側に二分している。

弥生時代末～古墳時代初頭の方形周溝墓（SH01）は、調査区東側で周溝の北西隅部付近が確認され、土坑は調査区南東部に1基（SK01）分布する。

弥生時代後期の8軒の竪穴住居跡の分布状況は3か所に分かれている。1つは調査区南東部で、2軒（SI01・02）が重複している。1つは調査区東側で、2軒（SI08・09）が重複する。1つは調査区西側で、4軒（SI04～07）が重複している。調査区北側では竪穴住居跡が確認されなかったことから、集落域の北限である可能性が高い。弥生時代中期～後期の竪穴住居跡（SI03）は調査区東側に分布し、SI08・09の南側に位置する。弥生時代後期の土坑は、竪穴住居跡のない場所に分布している。分布状況に傾向は見られな



第3図 調査区全体図・基本層序断面図

いが、調査区北壁際で土坑が確認されていない状況から、本調査区北側は活動範囲の外であったのではないかと
思われる。また、ピットも同様に竪穴住居跡のない場所に分布しているが調査区北半分には見られない。

弥生時代後期以前の土坑は、調査区南東部に分布する。弥生時代後期の竪穴住居跡の下から確認された。遺構
は南側の調査区外へと続いており、遺構の分布も南側に広がるものと思われる。

基本層序 I層は表土及び近代に改変を受けた土層である。表土掘削中にプラスチックごみや近世瓦をまとめ

て廃棄したごみ穴が見られた。この改変が所々で深く掘り込まれており、遺構確認面で攪乱として確認された。Ⅱ層は黒褐色土である。Ⅲ層以下の土よりわずかに明るく、白色粒を少量含む。Ⅲ層は黒褐色土である。φ 1 cmの白色粒を多量含む。また、炭化物・焼土粒及び土師器・須恵器片を微量含む。白色粒の量によってⅢ層を細分した。Ⅳ層は黒褐色土である。φ 5 mm～φ 1 cmの白色粒を含むがⅢ層よりも少ない。弥生土器及び土師器・須恵器を含む遺物包含層で、炭化物・焼土粒も含む。遺構確認面を境にⅣ層を細分した。Ⅴ層はにぶい黄褐色シルト質砂で、前橋泥流の基盤層である。

第2節 竪穴住居跡

今回の発掘調査では、9軒の竪穴住居跡が確認された。時期はいずれも弥生時代中期～後期と考えられる。

1号竪穴住居跡（第4・5図、写真図版1・10）

位置 調査区南東部。 **重複関係** 2号住居跡、1号・2号土坑と重複する。本遺構は1号土坑よりも古く、2号住居跡・2号土坑よりも新しい。 **遺存状態** 南壁が調査区外にあり、東壁は削平されたため遺存しない。

覆土 黒褐色土が基調で、炭化物・焼土粒を含む。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が4.11 m遺存、短軸が4.06 m遺存する。確認面からの深さは最深21 cmを測る。 **長軸方位** N-26°-W。 **壁・壁溝** 壁高は北壁で6 cm、西壁で18 cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 東壁際の2号住居跡と重複する部分で多量の白色粘土・黄橙色土ブロックが見られる範囲があったことから、貼床の可能性が高い。下層に遺構が存在する為か若干波打ったような起伏が見られる。

柱穴 4基確認された。p 1が西壁外側の中央寄り、p 2・p 3が北壁際の中央、p 4が東壁際の中央寄りで確認され、位置から柱穴と考えられる。平面形はp 1・p 3・p 4が楕円形、p 2が円形を呈する。規模はp 1が40 cm×23 cm、深さ39 cm、p 2が38 cm×36 cm、深さ36 cm、p 3が38 cm×26 cm、深さ26 cm、p 4が63 cm×47 cm、深さ56 cmを測る。 **炉** 確認できなかった。しかし、床面中央やや北寄りで確認された石が炉に伴うものであった可能性が高い。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は多く住居跡全域に偏りなく出土しているが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・土製品・石器が出土し、そのうちの弥生土器11点、土製勾玉1点、石器2点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式Ⅱ～Ⅲ期と思われる。石器は叩石・磨石である。 **備考** 約4 m×4.2 m規模と思われる竪穴住居跡である。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ～Ⅲ期にかけてと考えられる。

2号竪穴住居跡（第6図、写真図版2・10）

位置 調査区南東部。 **重複関係** 1号住居跡、2号土坑と重複する。本遺構は1号住居跡よりも古く、2号土坑よりも新しい。 **遺存状況** 南隅部・東隅部が調査区外にあり、上部は1号住居跡によって壊されている。

覆土 黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は西壁側が開いた隅丸台形状を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が3.91 m遺存、短軸が3.84 m遺存する。確認面からの深さは最深9 cmを測る。 **長軸方位**

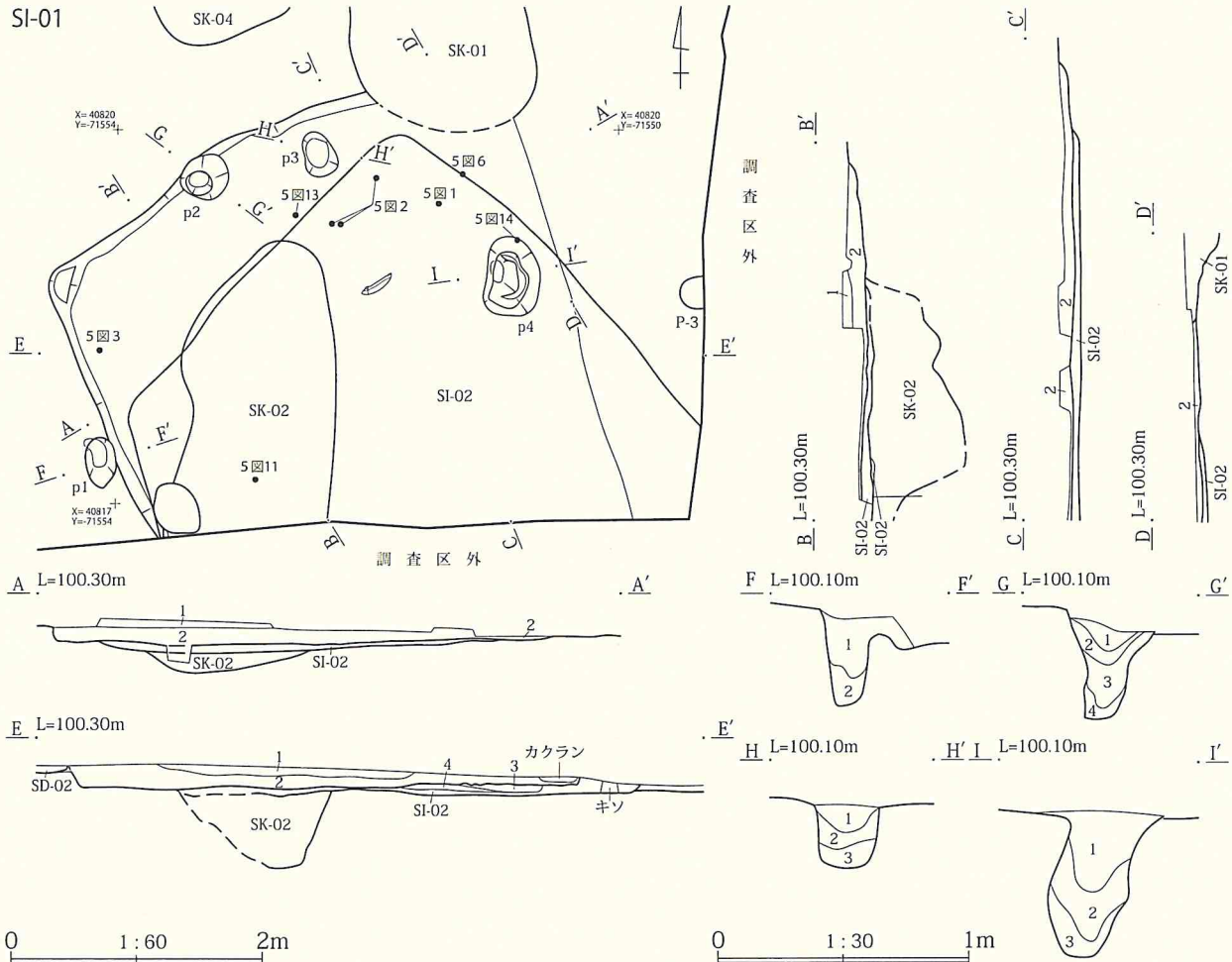
N-44°-W。 **壁・壁溝** 壁高は北壁で5 cm、東壁で8 cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 2号土坑上の一部で白色粘土による貼床が見られた。2号土坑周辺は若干起伏が見られるがその他は概ね平坦である。 **柱穴** 確認されなかった。 **炉** 調査区南壁際の床面ほぼ中央で確認された。北側に炭化物が広がり、南側に炉石が遺存する。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・剥片が出土し、そのうちの弥生土器4点を図示し得た。弥生時代後期の樽式と思われる。 **備考** 一辺約4 m前後の規模と思われる竪穴住居跡である。破片資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で1号住居跡よりも古いと思われる。

3号竪穴住居跡 (第7図、写真図版2)

位置 調査区東側。 **重複関係** 1号方形周溝墓と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 東側の大半が調査区外にあり、北壁・西壁南半分は削平され遺存しない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、炭化物・焼土粒を含む。

平面形と規模 平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が推定4.04 m、短軸が2.65 m 遺存する。確認面からの深さは最深8 cmを測る。 **長軸方位** N-9°-W。 **壁・壁溝** 壁高は西壁で8 cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。 **柱穴** 確認されなかった。

炉 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・剥片が出土し、そのうちの弥生土器



SI-01 AA' BB' CC' DD' EE'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm・φ 5 mm)・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄色土(地山)少量、焼土粒(φ 5 mm)微量含む。貼床。
4. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)多量・(φ 5 mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 5 mm)・白色粒微量含む。貼床。

SI-01 p1 FF'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)少量、酸化鉄微量含む。

SI-01 p2 GG'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・酸化鉄微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)・焼土粒微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)微量含む。

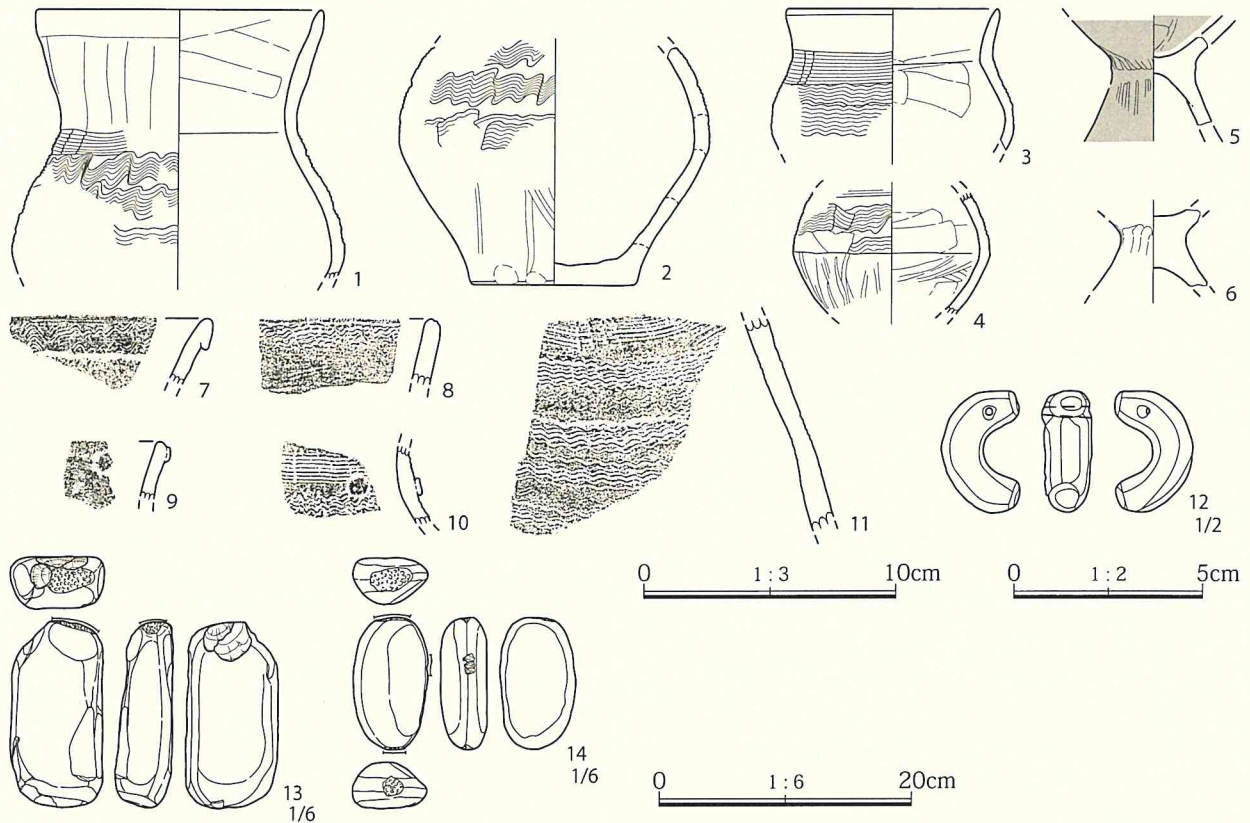
SI-01 p3 HH'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)少量、炭化物(φ 3 mm)・焼土粒・酸化鉄微量含む。

SI-01 p4 II'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR2/1 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)少量含む。

第4図 1号竪穴住居跡平面・断面図



第5図 1号竪穴住居跡出土遺物実測図

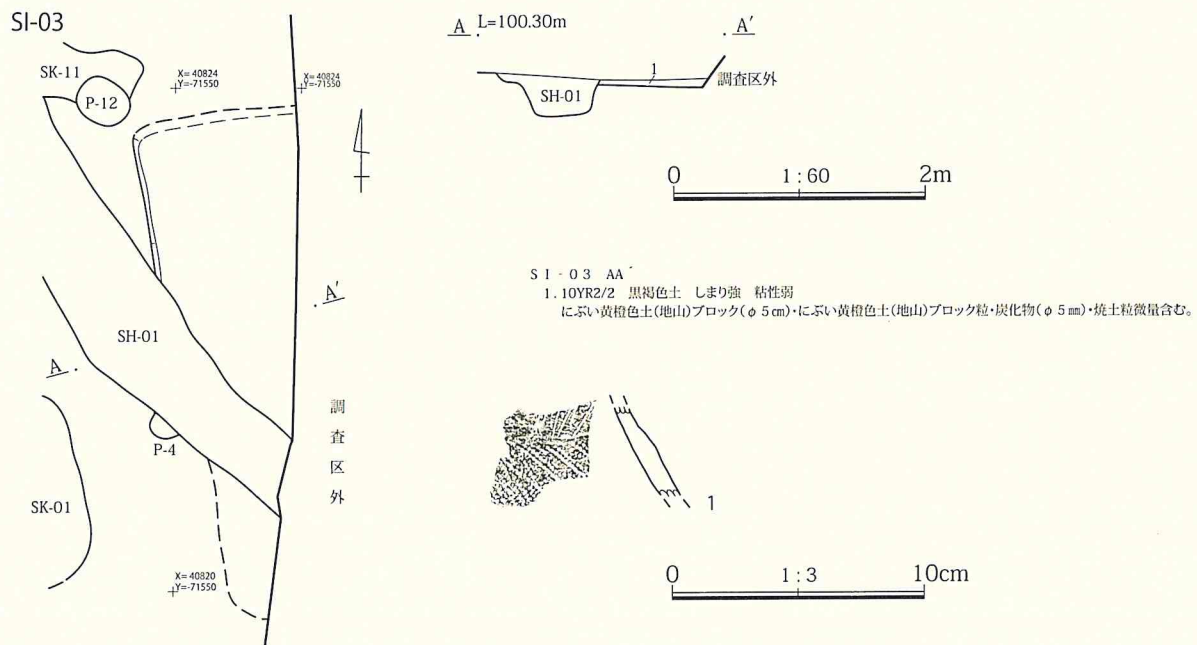
1点を図示し得た。縄文が施されていることから、弥生時代中期の遺物と考えられる。**備考** 確認された平面形が隅丸方形を呈すると思われることから、一辺4mほどの竪穴住居跡と判断した。破片資料であるが出土遺物から、本遺構の帰属時期は弥生時代中期～後期にかけてと考えられる。

4号竪穴住居跡 (第8図、写真図版2・5・10)

位置 調査区西側。**重複関係** 5号住居跡・9号土坑・3号溝跡と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 東西隅部を結んだ北側半分が5号住居跡によって、南東壁は3号溝跡によって壊されている。**覆土** 黒褐色土が基調で白色粒を含む。**平面形と規模** 確認された南西壁が直線状で端部が丸みを帯びることから、平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。規模は上端幅で長軸が2.26m遺存、短軸が2.23m遺存する。確認面からの深さは最深10cmを測る。**長軸方位** N-59°-W。**壁・壁溝** 壁高は南西壁で8cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 若干の起伏が見られるが、概ね平坦である。**柱穴** 4基確認された。p1が東隅部側、p2～p4が南隅部側に位置する。位置・規模からp1～p3が柱穴と考えられる。平面形はp1・p2が楕円形、p3・p4が不整形を呈する。規模はp1が34cm×26cm、深さ41cm、p2が55cm×26cm、深さ28cm、p3が21cm×20cm、深さ14cm、p4が28cm×24cm、深さ11cmを測る。**炉** 確認されなかった。**その他の施設** 確認されなかった。**遺物出土状況** 遺物量は少なく、散見される程度である。**遺物** 古式土師器(S字甕)・弥生土器・剥片が出土し、そのうち弥生土器3点を図示し得た。古式土師器は流れ込んだ遺物と考える。**備考** 南西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、一辺2.3mほどの小型の竪穴住居跡と判断した。破片資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で5号住居跡よりも古いと思われる。

5号竪穴住居跡 (第9～11図、写真図版3・5・10)

位置 調査区西側。**重複関係** 4号・6号・7号住居跡、3号溝跡と重複する。本遺構は6号住居跡・3号

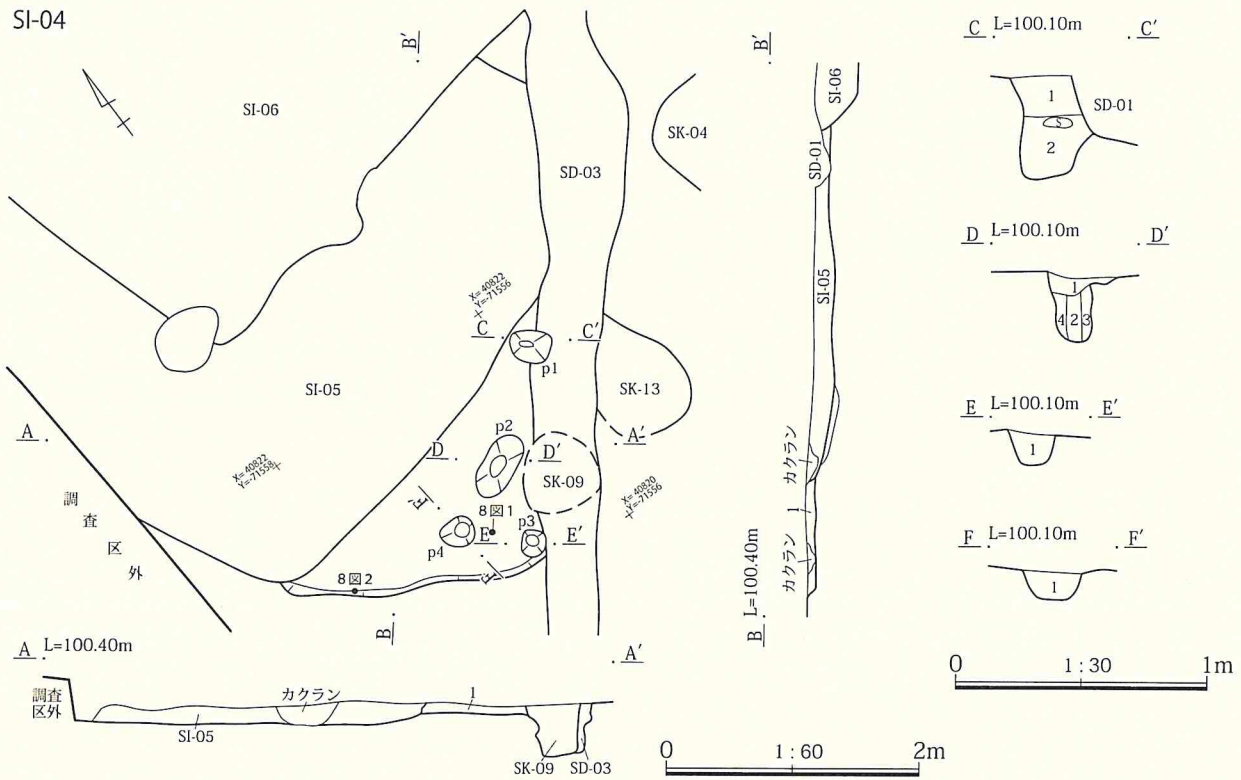


第7図 3号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

深さ 30cm、p 5 が 50cm×36cm、深さ 17cm、p 6 が推定 39cm×25cm、深さ 35cm、p 7 が 23cm残存×23cm、深さ 19cm、p 8 が推定 46cm×31cm、深さ 48cm、p 9 が 29cm残存×47cm、深さ 70cm、p 10 は推定 55cm×52cm、深さ 68cm、p 11 は 55cm×48cm、深さ 44cm、p 12 は 59cm×45cm、深さ 35cm、p 13 は 49cm×38cm、深さ 49cm、p 14 は 41cm×20cm残存、深さ 36cmを測る。 **炉** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は多く、赤彩が施された土器片も多量出土している。 **遺物** 弥生土器・土製品が出土し、そのうち弥生土器 27 点、土製紡錘車 1 点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期と思われる。 **備考** 確認された平面形態及び床面・ピットの状況から、約 6 m×4.5 m の竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけて、遺構の重複関係から 4 号・7号住居跡よりも新しいと考えられる。

6号竪穴住居跡 (第12図～15図、写真図版3～5・10・11)

位置 調査区西側。 **重複関係** 5号・7号住居跡、15号土坑、3号溝跡と重複する。本遺構は3号溝跡より古く、5号・7号住居跡、15号土坑よりも新しい。 **遺存状態** 南東隅部が3号溝跡によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、上層は白色粒を多量含む。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は上端幅で長軸が 5.73 m、短軸が 4.71 mを測る。確認面からの深さは最深 35cmを測る。 **長軸方位** N-15°-W。 **壁・壁溝** 壁高は東壁・西壁が 30cm、南壁・北壁が 18cm～20cmを測り、壁はいずれも外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 概ね平坦である。 **柱穴** 8基確認された。p 1・p 2が南壁際の中央寄り、p 4が南壁際の南西隅部寄り、p 5が西壁際の中央寄り、p 6・p 9が西壁際の北西隅部寄り、p 7が住居跡中央部の北東隅部側、p 8が北壁際の北東隅部寄りに位置する。位置・規模から全て柱穴と考えられる。p 6とp 9は隣接することから柱の付け替えが行われた可能性がある。平面形は p 1・p 2・p 6・p 8が楕円形、p 4・p 5が円形、p 7・p 9が不整形円形を呈する。規模は p 1が 28cm×20cm、深さ 9cm、p 2が 40cm×22cm、深さ 56cm、p 4が 23cm×23cm、深さ 36cm、p 5が 27cm×26cm、深さ 34cm、p 6が 25cm×20cm、深さ 31cm、p 7が 36cm×34cm、深さ 34cm、p 8が 40cm×26cm、深さ 24cm、p 9が 35cm×30cm、深さ 47cmを測る。 **炉** 2基確認され、炉 1 は北壁際の北壁中央付近、炉 2 は東壁際の東壁中央やや南寄りに位置する。共に周囲に多量の炭化物、炉内に灰が堆積している。炉 1 の平面形は隅丸方形を呈する。規模は 53cm×46cm、深さ 6cmを測り、南側に炉石が遺存する。炉の直上に第 13 図 4 が置かれたような状態で出土している。炉 2 の平面



SI-04 AA' BB'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ 3mm・粒)・酸化鉄微量含む。

SI-04 p1 CC'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)微量含む。鏝(φ 10cm)あり。

SI-04 p2 DD'

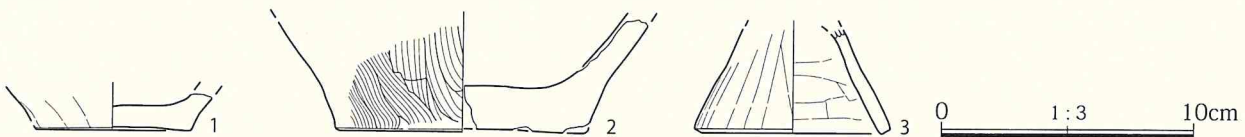
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。柱痕か。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
4. 10YR3/3 暗褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄微量含む。

SI-04 p3 EE'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 5mm)微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)あり。

SI-04 p4 FF'

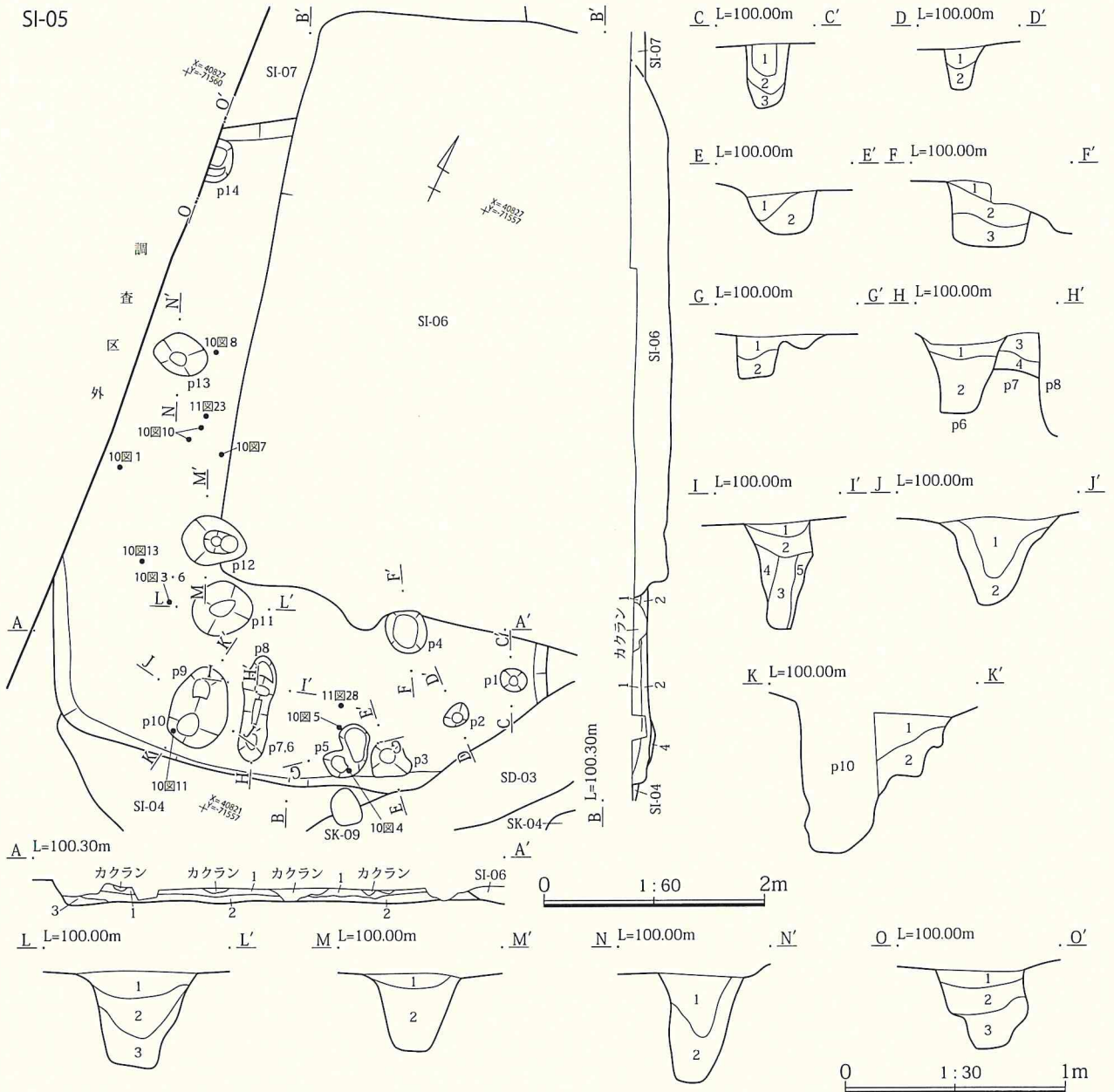
1. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、炭化物粒・白色粒微量含む。



第8図 4号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

形は楕円形を呈する。規模は 59cm×39cm、深さは 6cm を測る。炉 1 と同様に、炉直上に第 13 図 4 と同一個体と思われる第 13 図 3 が置かれたような状態で出土している。 **その他の施設** 南壁際の南西隅部寄りに位置する p 3 が、底面近くからほぼ完形の鉢(第 14 図 30) が出土していることから、貯蔵穴の可能性が考えられる。平面形は楕円形を呈し、規模は 54cm×38cm、深さは 31cm を測る。 **遺物出土状況** 弥生土器の出土量は非常に多く、また微量の石器・剥片・自然石が出土している。覆土下層から床面にかけても多くの弥生土器が出土し、出土位置に特に偏りは見られない。ほぼ完形の遺存状態の良い土器のほか、赤彩が施された土器も非常に多く出土している。第 13 図 3・4 は同一個体と考えられる土器が 2 か所の炉の上から出土している状況から、何らかの意図があって置かれたものと思われる。 **遺物** 弥生土器・石器・剥片・自然石が出土し、そのうち弥生土器 39 点、石器 6 点、原石 1 点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器Ⅱ期～Ⅲ期であるが、Ⅲ期の土器が主体である。第 13 図 10、第 14 図 17・30 はほぼ完形品である。石器は打製石斧・スクレイパー・磨製石鏃未成品・敲石・砥石で、原石は蛇紋岩と思われる。 **備考** 本遺構は約 5.7m×4.7m の隅丸長方形で、炉を 2 基有する竪穴住居跡である。出土遺物は樽式Ⅱ期～Ⅲ期であるがⅢ期が主体となっていることから、本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅲ期と考えられる。

SI-05



SI - 05 AA' BB'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・炭化物(φ 1 cm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土(φ 3 mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・炭化物(φ 1 cm)・白色粒微量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・白色粒微量含む。
4. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。貼床。

SI - 05 p1 CC'

1. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)少量、白色粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒上部に多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)微量含む。

SI - 05 p2 DD'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・焼土(φ 5 mm)微量含む。
炭化物(φ 1 cm)あり。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒少量含む。

SI - 05 p3 EE'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。炭化物(φ 1 cm)あり。

SI - 05 p4 FF'

1. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物(φ 5 mm)微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)微量含む。

SI - 05 p5 GG'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

SI - 05 p6・p7 HH'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 5 mm)・白色粒微量含む。
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)あり。
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・炭化物粒・白色粒・酸化鉄微量含む。
4. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。

第9図 5号竪穴住居跡平面・断面図①

SI - 05 p 8 II'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。炭化物(φ 1 cm)あり。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。柱痕み。
4. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)微量含む。炭化物(φ 1 cm)あり。
5. 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)微量含む。炭化物(φ 1 cm)あり。

SI - 05 p 9 KK'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物(φ 1 cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 1 cm)・焼土粒・酸化鉄微量含む。

SI - 05 p 10 JJ'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)あり。

SI - 05 p 11 LL'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)あり。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)微量含む。

SI - 05 p 12 MM'

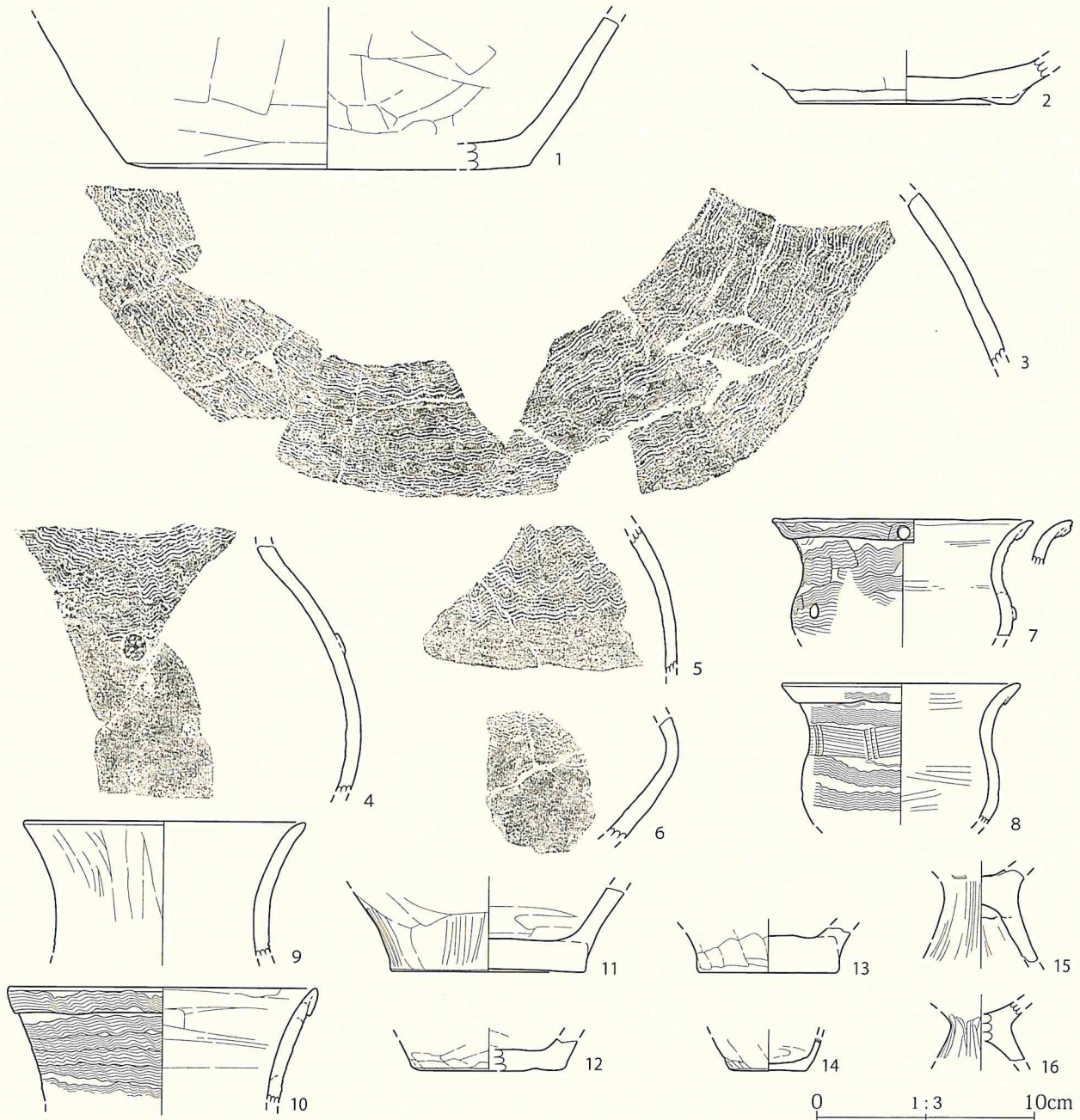
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・白色粒微量含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、炭化物粒微量含む。

SI - 05 p 13 NN'

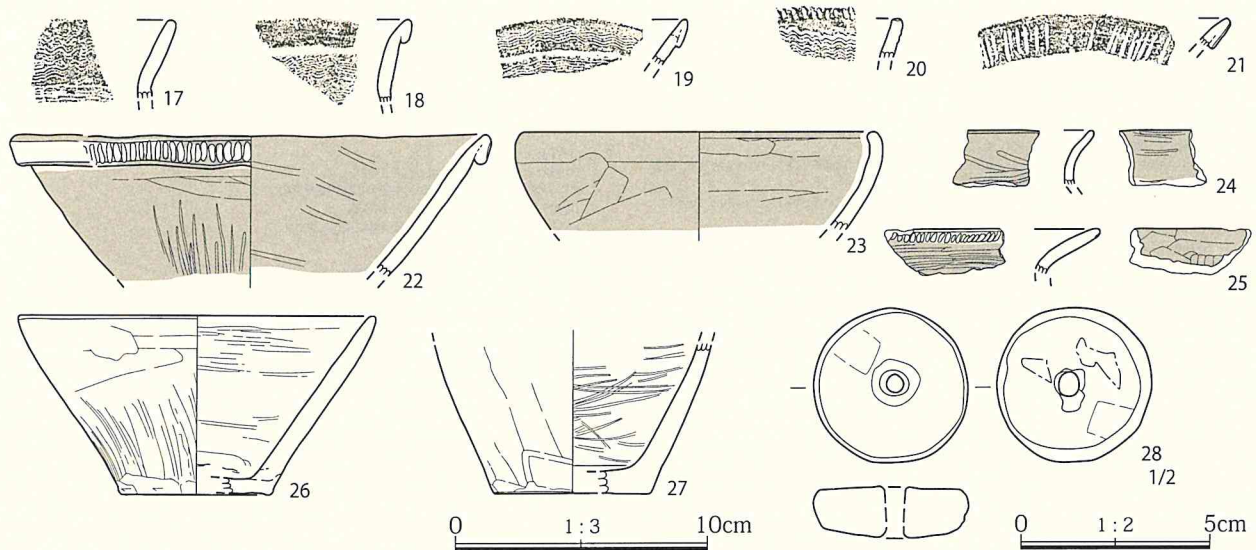
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・焼土粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

SI - 05 p 14 OO'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
2. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)多量、にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。



第 10 図 5号竪穴住居跡平面・断面図②、出土遺物実測図①



第11図 5号竪穴住居跡出土遺物実測図②

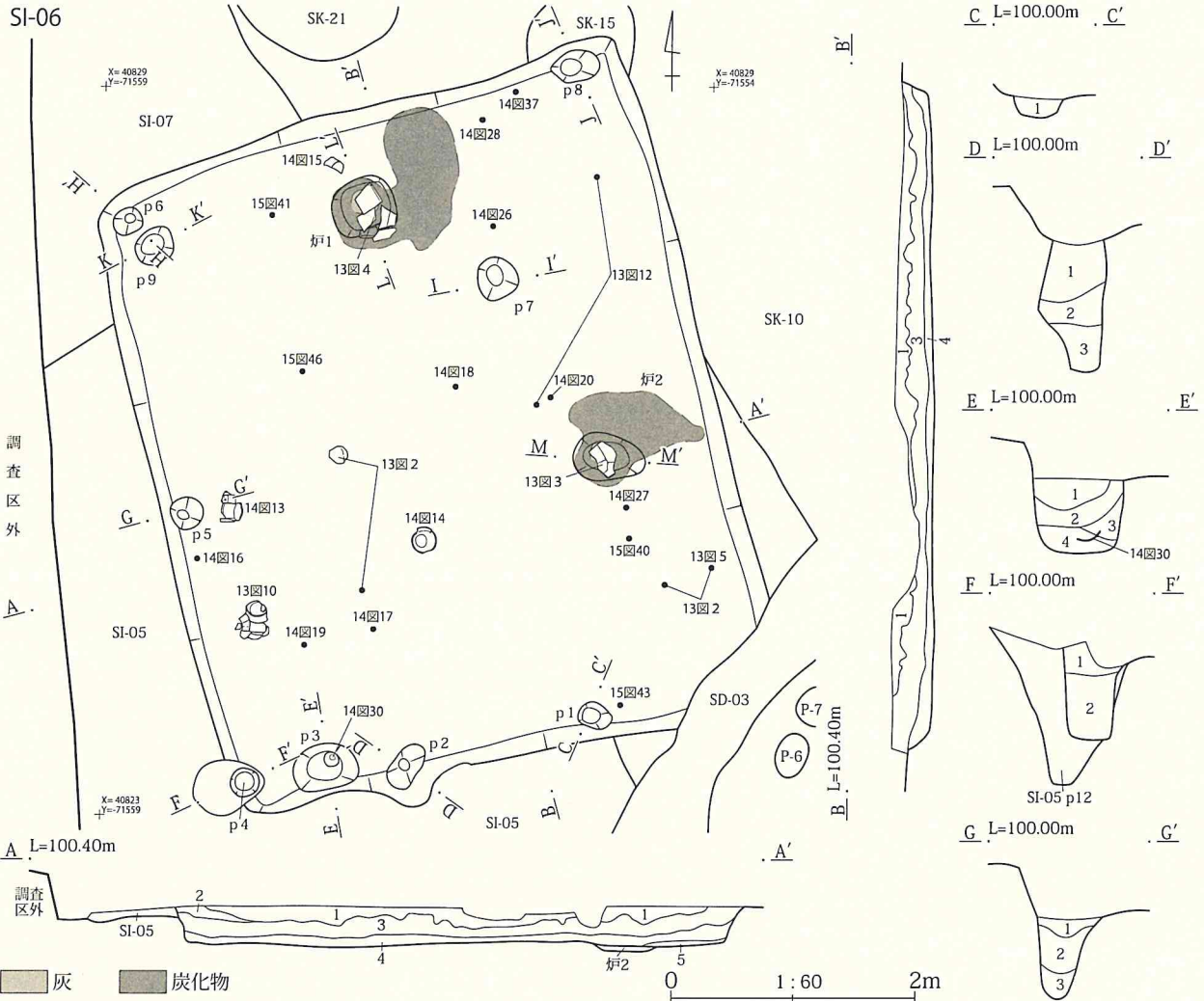
7号竪穴住居跡 (第16図、写真図版5・12)

位置 調査区西側。 **重複関係** 5号・6号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側は5号・6号住居跡によって壊され、西側は調査区外にある。 **覆土** 黒褐色土が基調で、白色粒・炭化物粒を含み、炭化物の塊が出土している。 **平面形と規模** 遺存する北東隅部から、隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が2.70m遺存、短軸が2.65m遺存する。確認面からの深さは最深14cmを測る。 **長軸方位** N-20°-W。 **壁・壁溝** 壁高は東壁が10cm、北壁が11cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 東側に若干傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** 3基確認された。p1が北東隅部、p2が北東隅部寄り、p3が北壁際の北壁中央寄りに位置する。位置・規模からp1・p3が柱穴と考えられる。平面形はp1・p2が楕円形、p3が不整形円形を呈する。規模はp1が31cm×25cm、深さ42cm、p2が26cm×20cm、深さ19cm、p3が40cm×32cm、深さ56cmを測る。 **炉** 確認されなかった。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は少なく、散見される程度である。赤彩が施された遺物も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・自然石が出土し、そのうち弥生土器7点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器である。I期と思われる遺物も出土しているが、II期～III期が主体と思われる。 **備考** 北東隅部が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式II期～III期にかけて、遺構の重複関係から5号・6号住居跡よりも古いと考えられる。

8号竪穴住居跡 (第17図、写真図版5・12)

位置 調査区東側。 **重複関係** 9号住居跡、3号溝跡と重複する。本遺構は3号溝跡より古く、9号住居跡よりも新しい。 **遺存状態** 遺構確認の段階で重複する9号住居跡と合わせて1軒の住居跡と捉えて調査を進めたため、北壁は掘削してしまい遺存しない。東側の大半は調査区外にある。 **覆土** 黒褐色土が基調で、上層に白色粒を少量含み、炭化物・焼土粒も含む。 **平面形と規模** 遺存する南西隅部と西壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が推定3.74mを測り、短軸が1.33m遺存する。確認面からの深さは最深37cmを測る。 **長軸方位** N-3°-W。 **壁・壁溝** 壁高は南壁が33cm、西壁が30cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 中央に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** 1基確認された。p2が西壁際の北西隅部付近に位置し、柱穴と判断した。平面形は不整形円形を呈し、規模は32cm×27cm、深さ13cmを測る。 **炉** 確認されなかった。 **その他の遺構** 南壁際の南西隅部に位置するp1が形態から貯蔵穴と考えられる。住居壁に接する南側以外の外周に幅16cm～24cm、高さ5cmの周堤が巡る。平面形は不整形楕円形を呈し、規模は54cm遺存×47cm、深さ38cmを測る。 **遺物出土状況** 遺物量は多

SI-06



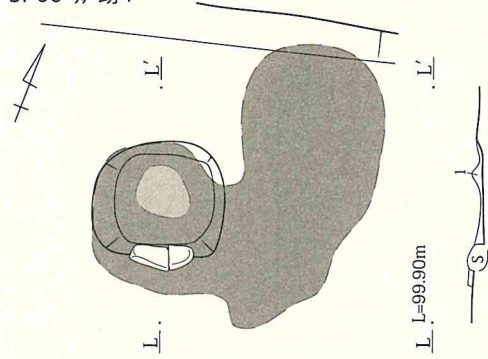
■ 灰 ■ 炭化物

- SI-06 AA' BB'
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・焼土粒・酸化鉄微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・白色粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 cm)・白色粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(1 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
炭化物粒多量、にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 cm)あり。
- SI-06 p1 CC'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm・φ 5 mm)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
- SI-06 p2 DD'
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・炭化物粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。
- SI-06 p3 EE'
- 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・白色粒微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)多量、にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。

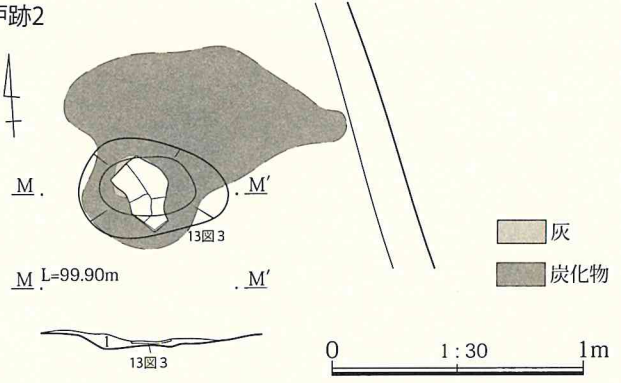
- SI-06 p4 FF'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm・φ 3 mm)・焼土粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物粒微量含む。
- SI-06 p5 GG'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。焼土(φ 1 cm)あり。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまりなし 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。
- SI-06 p6 HH'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。
- SI-06 p7 II'
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm・φ 3 mm)・焼土粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
- SI-06 p8 JJ'
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 cm)あり。
- SI-06 p9 KK'
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
上部ににぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 10 cm)少量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

第 12 図 6号竪穴住居跡平面・断面図

SI-06 炉跡1



SI-06 炉跡2

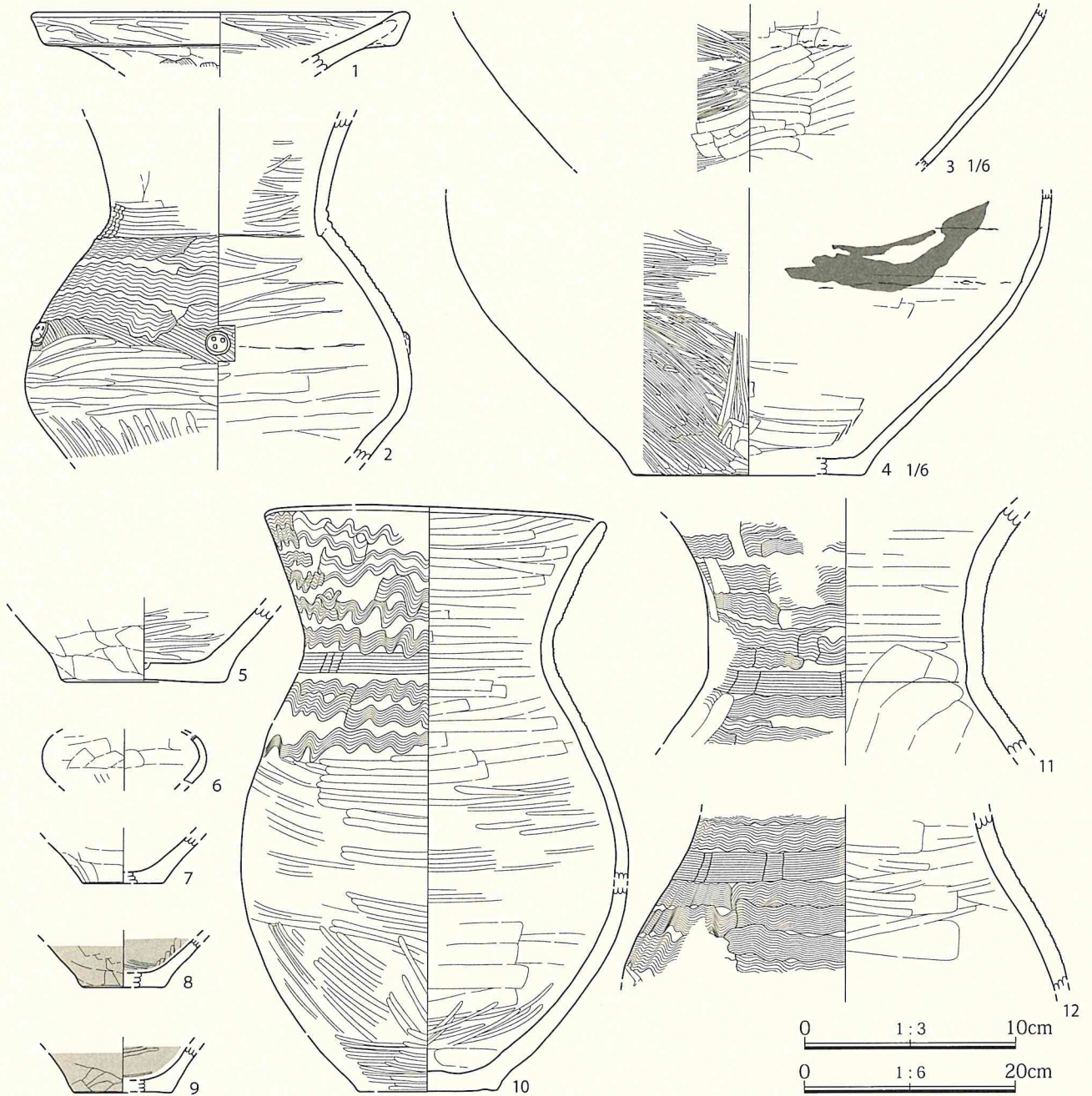


SI-06 炉跡1 LL'

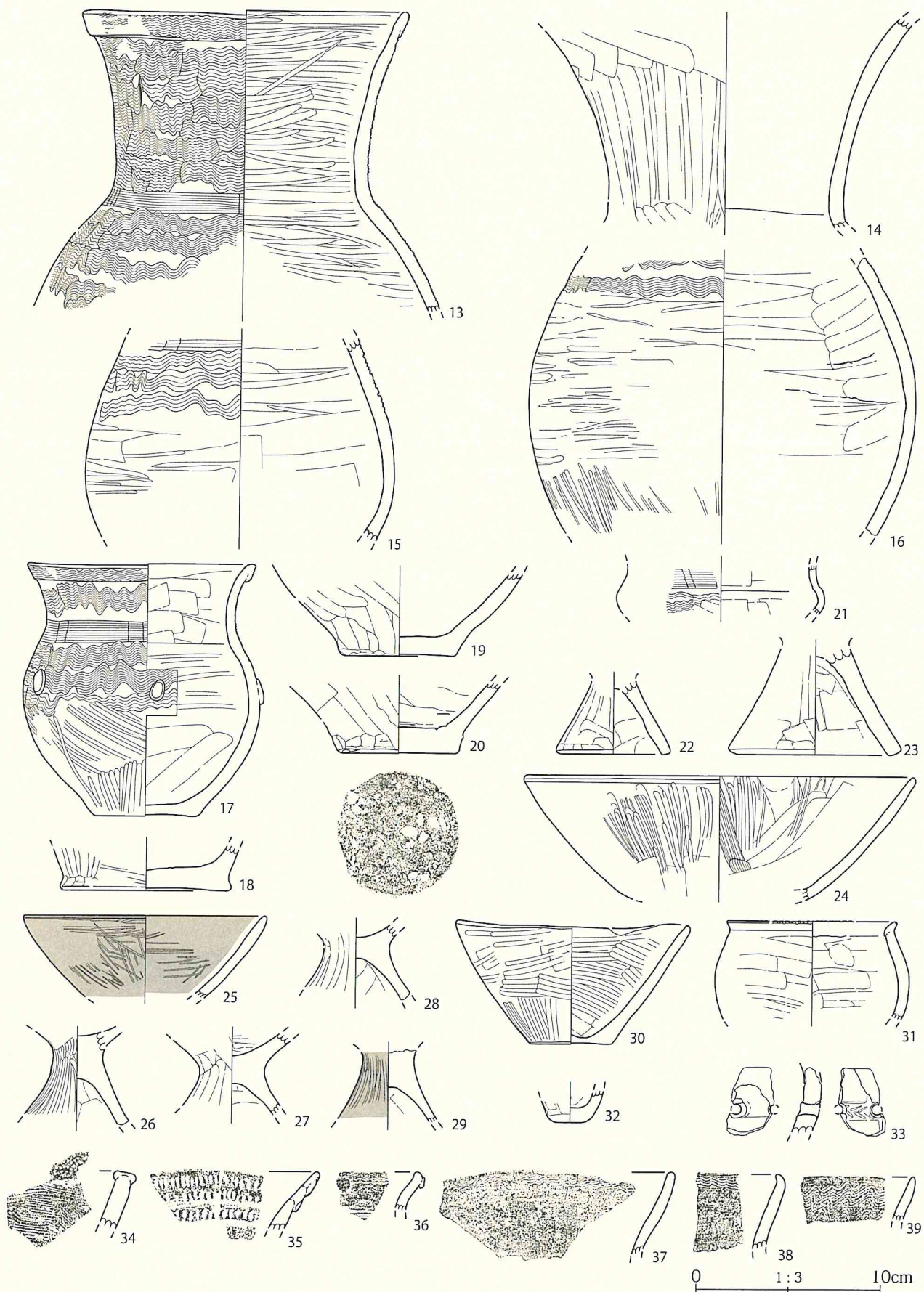
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性なし にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ5mm)・焼土粒微量含む。

SI-06 炉跡2 MM'

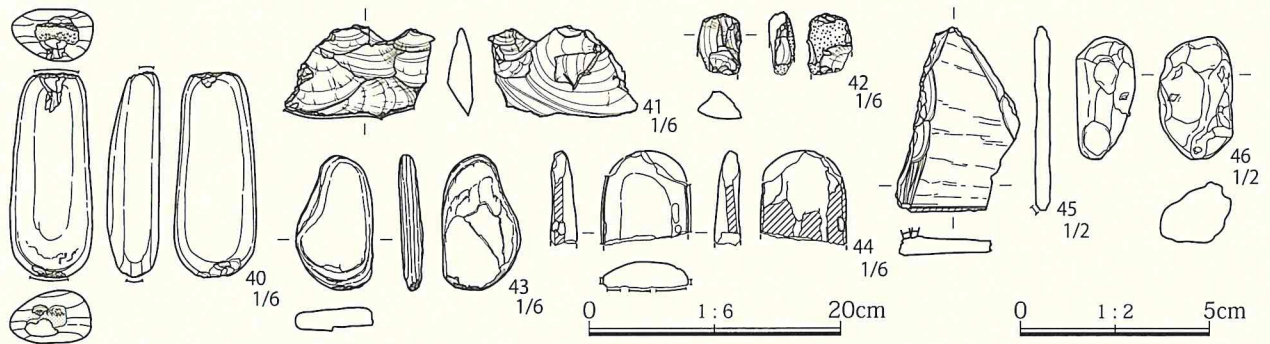
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱 にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒帯状・灰少量含む。



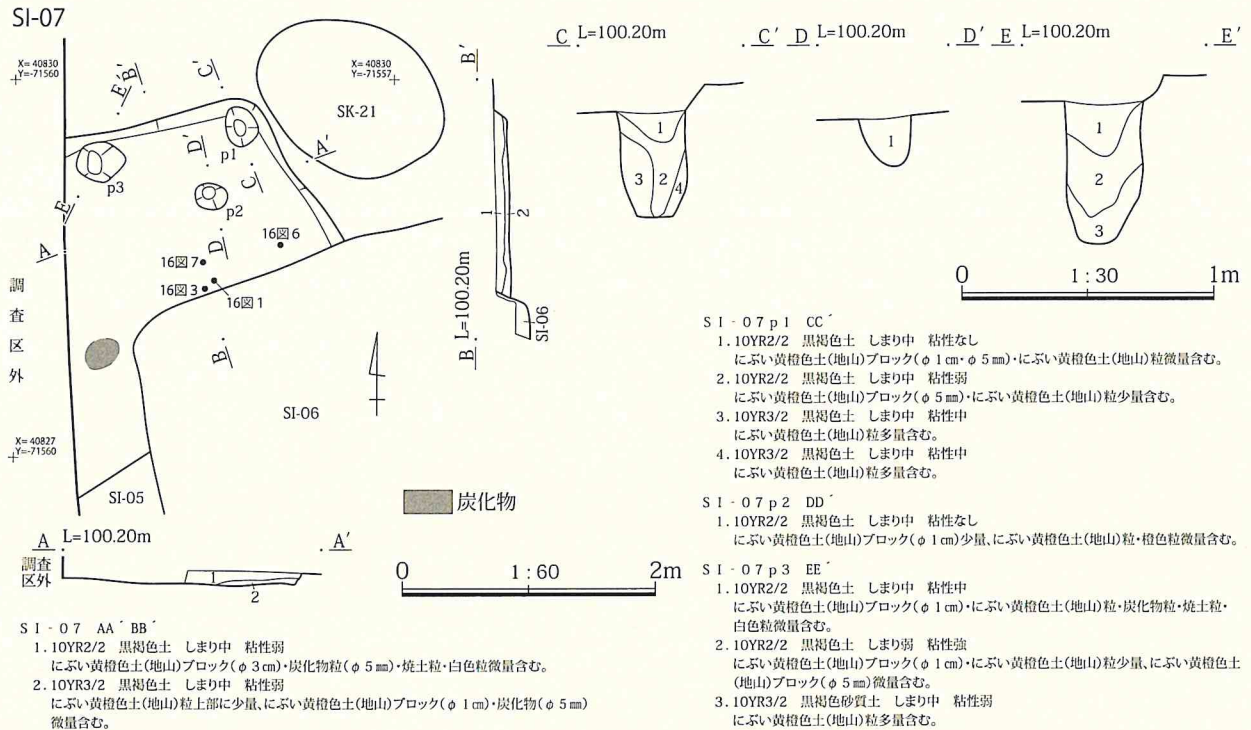
第13図 6号竖穴住居跡炉跡平面・断面図、出土遺物実測図①



第 14 图 6 号竖穴住居跡出土遺物実測図②



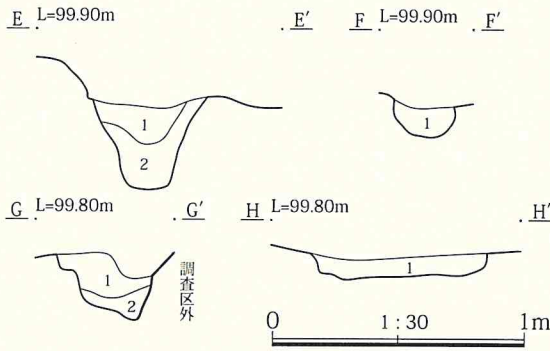
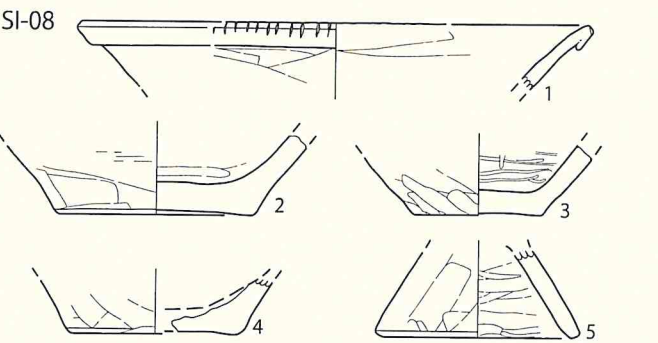
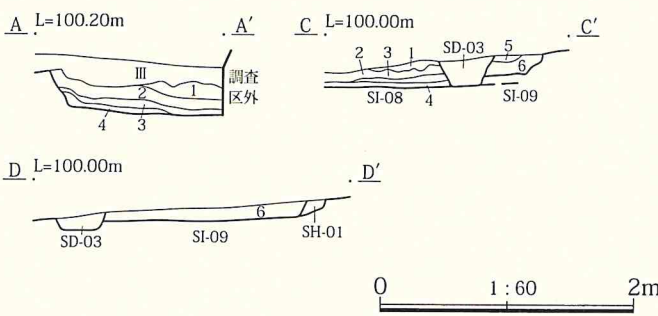
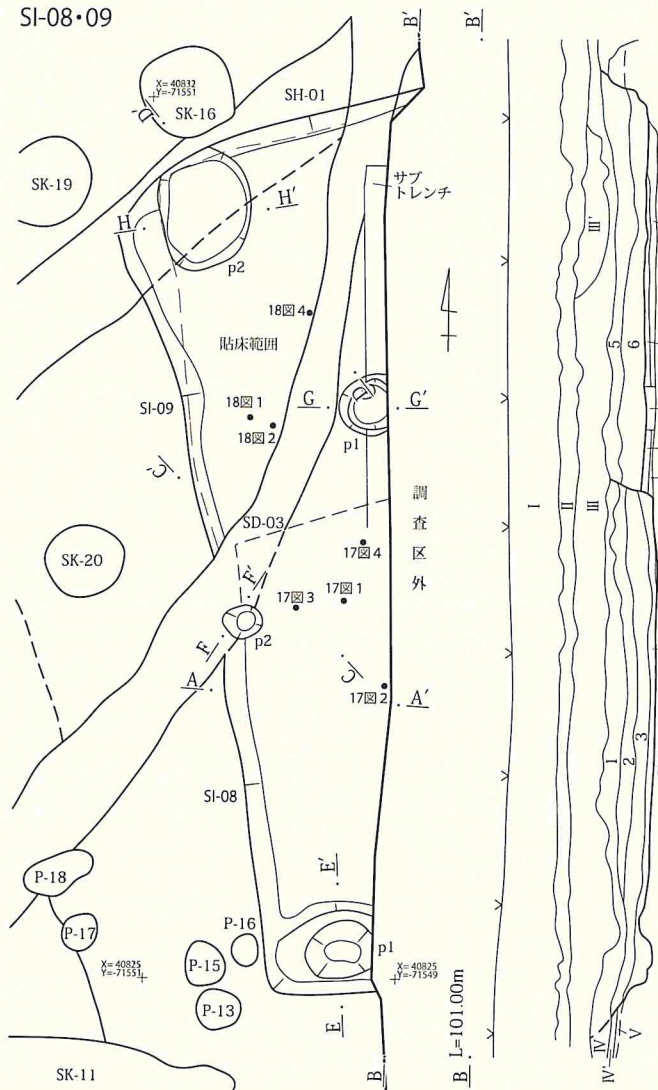
第15図 6号竪穴住居跡出土遺物実測図③



第16図 7号竪穴住居跡平面・断面図、出土遺物実測図

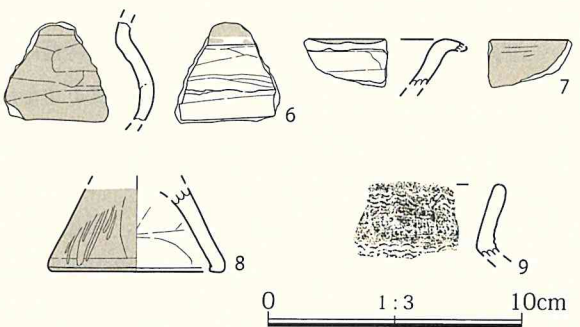
いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。遺物 弥生土器・自然石が出土し、そのうち弥生土器9点を図示し得た。弥生時代後期の樽式と思われる。備考 南西隅部と西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから、一辺4mほどの竪穴住居跡と判断した。遺存度の低い資料であるが樽式土器が出土していること及び遺構の重複関係から、本遺構の帰属時期は弥生時代後期で9号住居跡よりも新しいと思われる。

SI-08・09

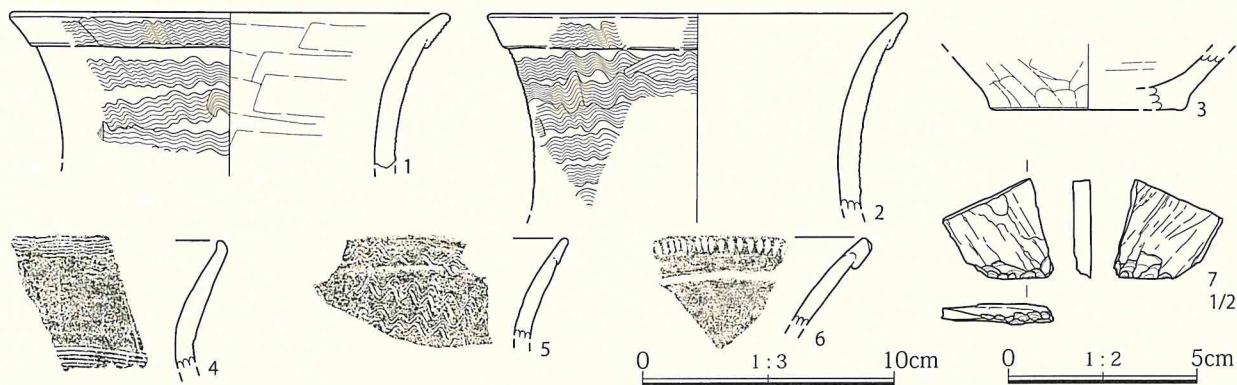


- SI-08・SI-09 AA' BB' CC' DD'
- I . 10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし
下層との境に帯状に酸化鉄多量含む。炭化物(φ 5mm)・白色粒微量含む。
 - II . 10YR2/3 黒褐色土(やや砂質) しまり強 粘性なし
白色粒・酸化鉄少量含む。
 - III . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
 - III' . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
炭化物粒・白色粒微量含む。
 - IV . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
炭化物粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
 - IV' . 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)あり。
 - V . 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし
酸化鉄微量含む。
 - 1 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒・炭化物粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm・φ 1cm)・炭化物(φ 1cm)あり。
 - 2 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm・φ 5mm)・炭化物(φ 1cm)・焼土粒・酸化鉄微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。
 - 3 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)・炭化物粒・焼土粒・酸化鉄微量含む。
 - 4 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm・φ 5mm)少量、焼土粒・酸化鉄微量含む。
 - 5 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
炭化物粒少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
 - 6 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm・φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒上部に少量、炭化物粒微量含む。炭化物(φ 1cm)あり。
 - 7 . 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)微量含む。粘土。
 - 8 . 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。掘方。

- SI-08 p1 EE'
- 1 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3mm)少量、炭化物粒・焼土粒・酸化鉄微量含む。
 - 2 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性強
炭化物粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3mm~φ 5mm)・酸化鉄微量含む。
- SI-08 p2 FF'
- 1 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm~φ 1cm)少量、炭化物粒微量含む。
- SI-09 p1 GG'
- 1 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・酸化鉄微量含む。
 - 2 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、酸化鉄微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
- SI-09 p2 HH'
- 1 . 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm~φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・酸化鉄微量含む。



第17図 8号・9号竪穴住居跡平面・断面図、8号竪穴住居跡出土遺物実測図



第18図 9号竪穴住居跡出土遺物実測図

9号竪穴住居跡 (第17・18図、写真図版5・12)

位置 調査区東側。 **重複関係** 8号住居跡、1号方形周溝墓、3号溝跡と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側が8号住居跡によって壊され、東側の大半は調査区外にある。 **覆土** 黒褐色土が基調で、掘方埋土は黒色土でにぶい黄橙色土を多量含む。 **平面形と規模** 遺存する北西隅部と北壁・西壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は上端幅で長軸が3.18m遺存、短軸が3.16m遺存する。確認面からの深さは最深33cmを測る。 **長軸方位** N-73°-E。 **壁・壁溝** 壁高は北壁が35cm、西壁が16cmを測り、ともに外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 覆土とは異なるにぶい黄橙色土を多量に含む面が確認されたことから床面(貼床)と判断した。中央に向かってわずかに傾斜するが、概ね平坦である。 **柱穴** 1基確認された。p1が住居跡中央付近に位置し、柱穴と判断した。平面形は円形を呈し、規模は49cm遺存×47cm、深さ27cmを測る。 **炉** 確認されなかった。 **その他の遺構** 北壁際の北西隅部に位置するp2が貯蔵穴である可能性が考えられるが、掘方埋土のムラを遺構としてしまった可能性も否定できない。平面形は楕円形を呈し、規模は99cm×76cm、深さ11cmを測る。 **遺物出土状況** 遺物量は多いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・石器・自然石が出土し、そのうち弥生土器6点、石器1点を図示し得た。土器は弥生時代後期の樽式土器Ⅱ期～Ⅲ期、石器は磨製石鏃未成品である。 **備考** 北西隅部と北壁・西壁が確認され、隅丸方形を呈すると思われることから竪穴住居跡と判断した。出土遺物から本遺構の帰属時期は弥生時代後期の樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけてと考えられる。

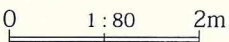
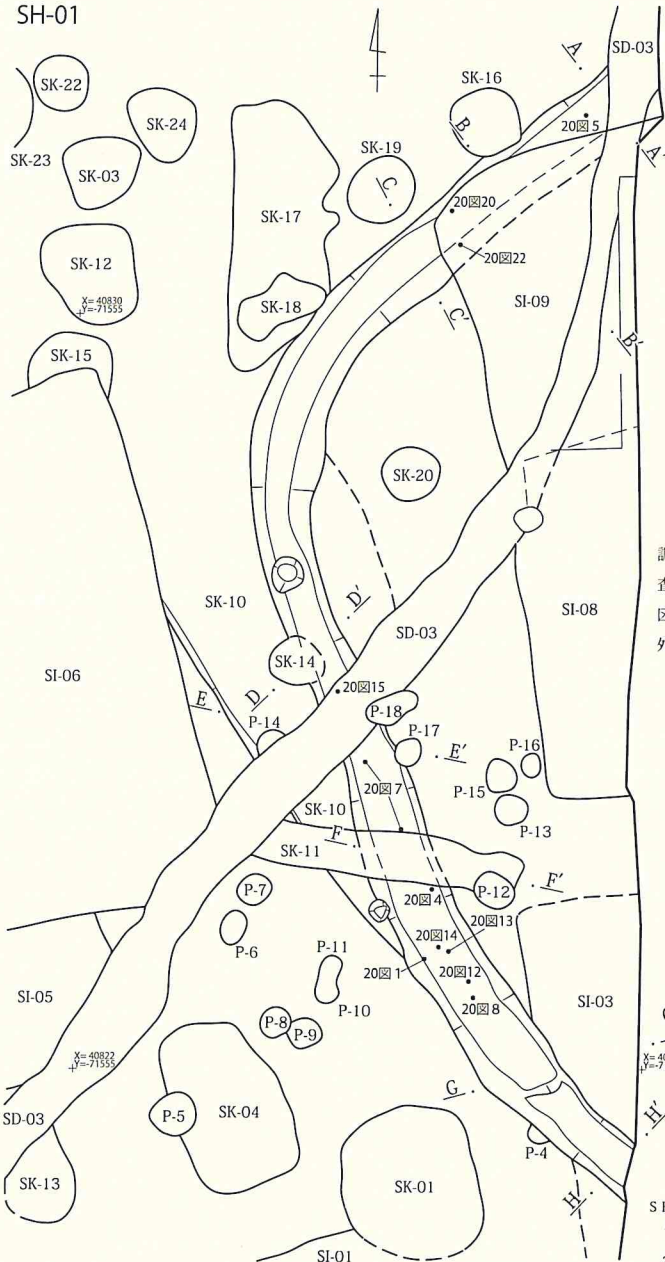
第3節 方形周溝墓

今回の発掘調査では、弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる方形周溝墓が1基確認された。

1号方形周溝墓 (第19・20図、写真図版6・12)

位置 調査区東側。 **重複関係** 3号・9号住居跡、10号・11号・14号土坑、3号溝跡、P4・P17と重複する。本遺構は11号・14号土坑、3号溝跡より古く、3号・9号住居跡、10号土坑、P4よりも新しい。P17とは新旧不明である。 **遺存状態** 北西隅部及び西辺・北辺西半分が確認され、大半は調査区外にある。 **覆土** 北辺は黒色土、西辺は黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は、北西隅部が確認された状況から四隅の切れるものではないが、大半が調査区外にあるため全周するものか一部土橋となるものかは判断できない。規模は長軸が10.18m遺存、短軸が7.14m遺存する。推定全長は15m弱と考えられる。溝幅は上端で54cm～84cmを測る。 **長軸方位** N-34°-W。 **壁面** 方台部側は西辺南部がほぼ垂直に、その他が大きく外傾して立ち上がり、反対側は北辺及び西辺南部がほぼ垂直に、その間が大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 底面高は北辺が99.65m～99.70m、西辺中央が99.68m～99.72m、西辺南側が99.69m～99.75mで、傾斜は見られない。 **その他の施設** 周溝内土坑及び方台部に周溝に伴うと考えられる遺構は確認されなかった。 **遺物出土状況** 遺物量は多いが、遺存度の高い遺物は少ない。赤彩が施された遺物・古式土師器も少量出土している。 **遺物** 弥生土器・古式土師器・石器・自然石が出土し、そのうち弥生土器17点、古式土師器4点、

SH-01



SH-01 AA'

1. 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。

SH-01 BB'

1. 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。

SH-01 CC'

1. 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量、にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)微量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性弱
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、白色粒微量含む。

SH-01 DD'

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト質砂
しまり中 粘性弱 黒褐色土粒少量、酸化鉄微量含む。

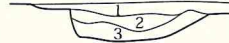
A L=100.20m A'



B L=100.20m B'



C L=100.20m C'



D L=100.20m D'

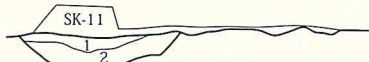


調査区外

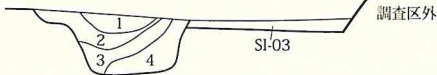
E L=100.20m E'



F L=100.20m F'

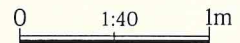
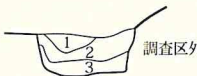


G L=100.20m G'



調査区外

H L=100.20m H'



SH-01 EE'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。

SH-01 FF'

1. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

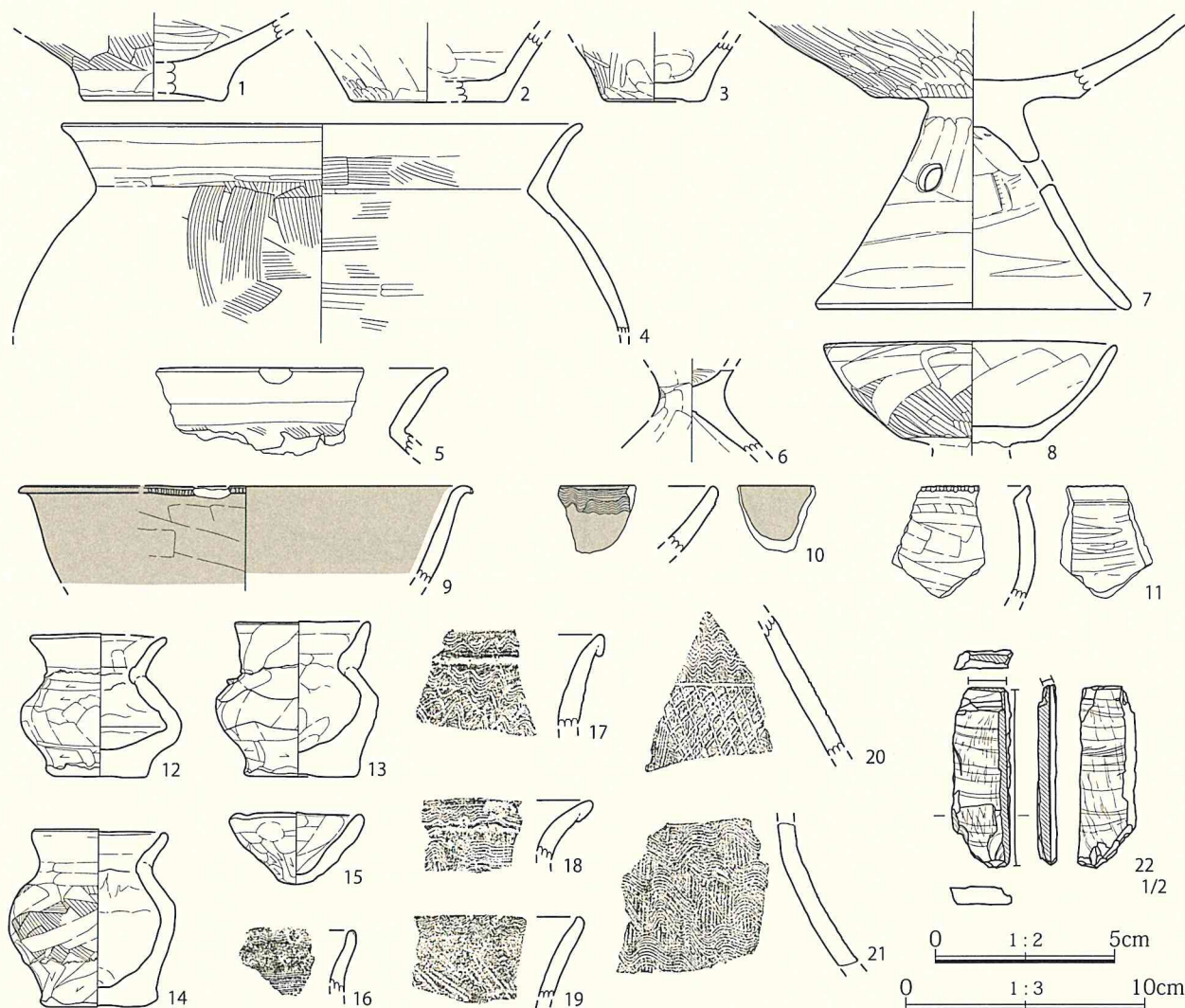
SH-01 GG'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・白色粒微量含む。
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・炭化物(φ 5mm)あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)あり。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、褐色粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)あり。
4. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。

SH-01 HH'

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 2mm)・白色粒微量含む。
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄少量含む。

第19図 1号方形周溝墓平面・断面図



第20図 1号方形周溝墓出土遺物実測図

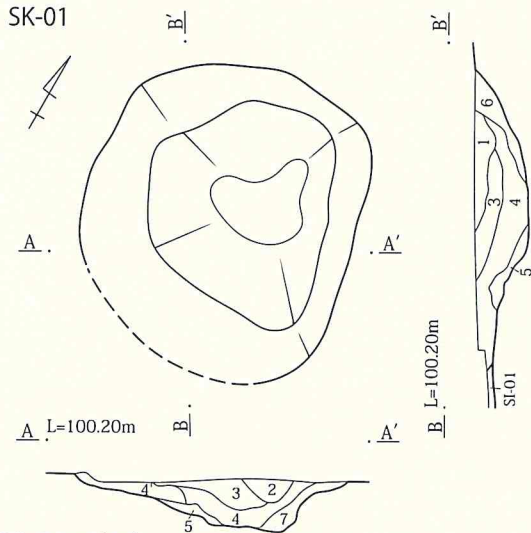
磨製石鏃未成品1点を図示し得た。第20図4・5はS字状口縁台付甕を模倣した古式土師器と思われる。第20図7・8は古式土師器で、東海地方廻間式土師の有段高坏と思われる。第20図12～14はミニチュア土器である。祭祀または祈祷に使用されたものと考えられる。備考 約90°屈曲する平面形及び祭祀に使用したと考えられる遺物が出土している状況から、本遺構は方形周溝墓と判断した。平面形態及び弥生時代後期樽式土器・古式土師器が出土していることから、本遺構の帰属時期は弥生時代終末期～古墳時代初頭にかけてと考えられる。

第4節 土坑

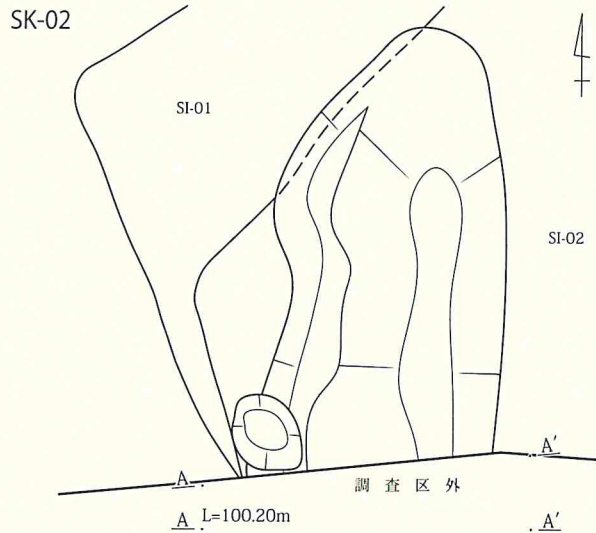
今回の発掘調査では、古代の土坑2基、古墳時代中期の土坑1基、古墳時代中期以降の土坑2基、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土坑2基、弥生時代後期の土坑16基、弥生時代後期以前の土坑1基が確認された。

1号土坑 (第21図、写真図版6)

位置 調査区南東部。 **重複関係** 1号住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土・黒色土、下層は暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸推定165cm、短軸143cm、確認面からの深さ29cmを測る。 **長軸方位** N-19°-W。 **壁面** 東側は急角度で立ち上がり、大きく外傾する。西側は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 西から東へ緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器と古式土師器が出土したが、図示し得るものはなかった。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は出土遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭と考えられる。

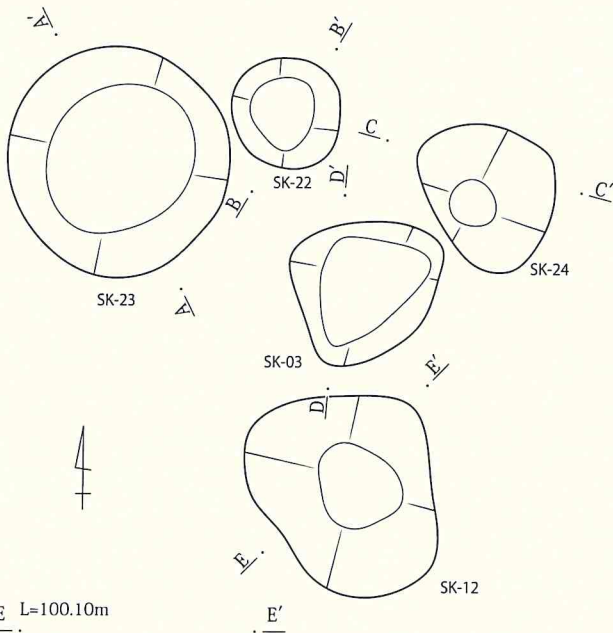


- SK-01 AA' BB'
- 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり強 粘性中
白色粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・炭化物粒微量含む。カクラン。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、白色粒微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
 - 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm・φ 1cm)・炭化物粒(φ 5mm)・白色粒(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄少量、白色粒ごく微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・酸化鉄微量含む。



- SK-02 AA'
- 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
 - 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
 - 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。

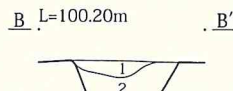
SK-03・12・22~24



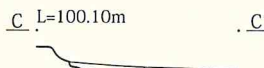
- SK-12 EE'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
 - 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒・黒褐色土粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・酸化鉄微量含む。



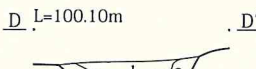
- SK-23 AA'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
東側底面際に白色灰少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。



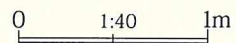
- SK-22 BB'
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
 - 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm・φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。



- SK-24 CC'
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
 - 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。



- SK-03 DD'
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、白色粒微量含む。
 - 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。



第 21 図 1号~3号・12号・22号~24号土坑平面・断面図

2号土坑（第21・24図、写真図版7・12）

位置 調査区南東部。 **重複関係** 1号・2号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側が調査区外にあるが概ね良好。 **覆土** 黒色土が基調である。 **平面形と規模** 南側が調査区外にあるため全容は不明であるが、不整楕円形を呈すると思われる。規模は長軸236cm遺存、短軸146cm、確認面からの深さ86cmを測る。

長軸方位 N-1°-W。 **壁面** 東壁は約80°の急傾斜で立ち上がる。北壁・西壁は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 幅19cm～28cmと細長い。概ね平坦である。 **遺物** 縄文土器1点、弥生土器2点、磨製石鏃未成品1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は壁面の形態から陥し穴と考えられる。また、南側が長く延びる溝の北端部である可能性も考えられる。帰属時期は、本遺構の覆土上に2号住居跡の貼床が確認されたことから弥生時代後期以前と考えられる。

3号土坑（第21図、写真図版6）

位置 調査区北西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸82cm、短軸73cm、確認面からの深さ18cmを測る。

長軸方位 N-64°-E。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 若干起伏が見られる。 **遺物** 出土していない。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

4号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

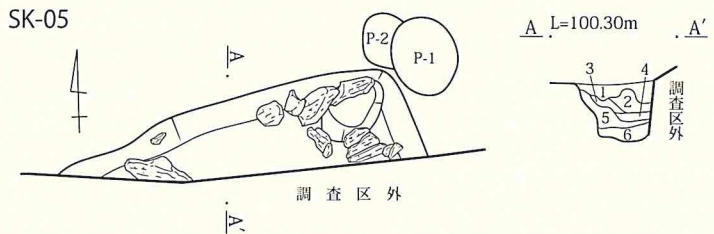
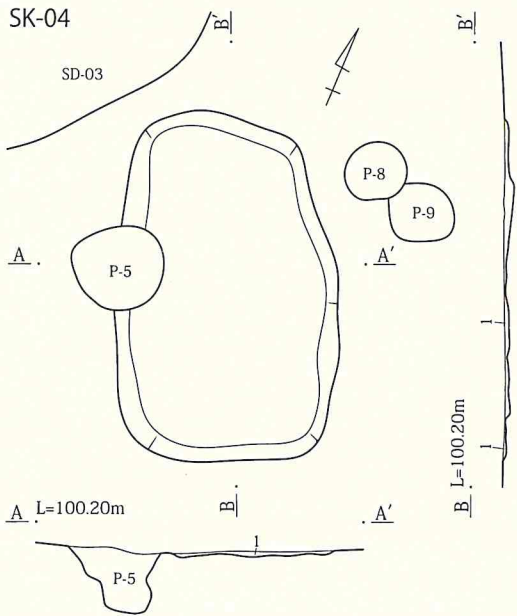
位置 調査区南東部。 **重複関係** P5と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上部が掘削され、ほぼ底面のみである。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸186cm、短軸119cm、確認面からの深さ3cmを測る。 **長軸方位** N-25°-W。 **壁面** 遺存せず不明。 **底面** 概ね水平であるが、起伏が見られる。 **遺物** 弥生土器1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。遺構ではなく微地形の可能性もある。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

5号土坑（第22・24図、写真図版7）

位置 調査区南西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 南側の大半が調査区外にあるが、概ね良好。 **覆土** 黒褐色土が基調である。多量の炭化物・焼土粒を含む。 **平面形と規模** 遺存する北東隅部と北壁から隅丸方形を呈すると思われる。規模は長軸183cm遺存、短軸74cm遺存、確認面からの深さ31cmを測る。 **長軸方位** N-68°-E。 **壁面** 急角度で立ち上がる。北東隅部に酸化（焼土化）した部分が確認された。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は壁面に酸化が見られること、土坑内に多量の炭化物・焼土が含まれていることから、焼成土坑ではないかと考える。また、検出範囲がわずかであるため土坑と捉えたが焼失住居跡の可能性も考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

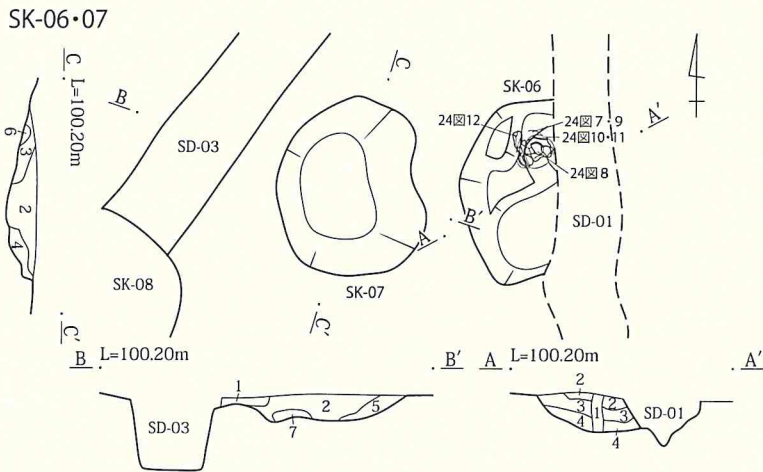
6号土坑（第22・24図、写真図版7・12）

位置 調査区南西部。 **重複関係** 近世溝跡と重複する。 **遺存状態** 東側を近世溝跡によって壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、中層は黒色土、下層はにぶい黄褐色砂質土が堆積する。 **平面形と規模** 東側が壊されているため全容は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。規模は長軸105cm遺存、短軸61cm遺存、確認面からの深さ20cmを測る。 **長軸方位** N-19°-E。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。北側はテラス状を呈し一段高くなる。 **遺物** 弥生土器6点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。



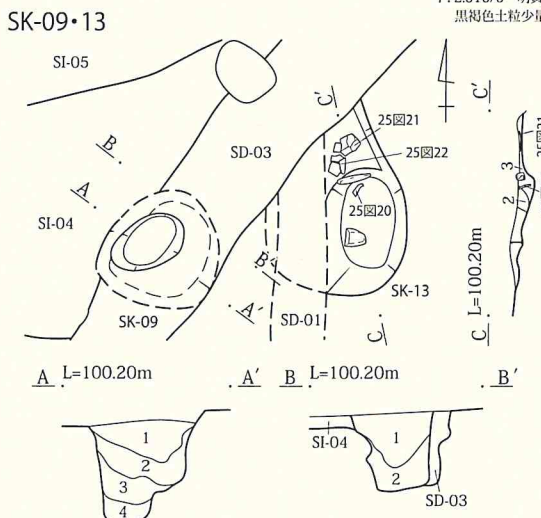
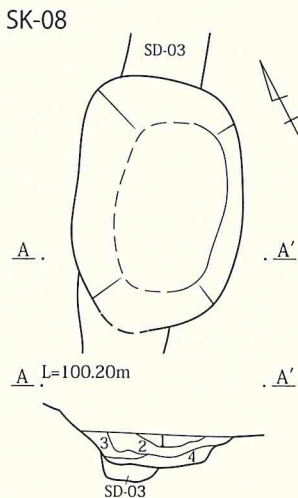
SK-04 AA' BB'
 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量、焼土粒微量含む。

SK-05 AA'
 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒微量含む。にぶい黄褐色土ブロック(φ 3 cm)あり。
 2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
 焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
 3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 炭化物(φ 5 mm)・焼土粒微量含む。
 4. 10YR4/4 褐色砂質土 しまり強 粘性なし
 焼土粒多量、黒褐色土粒微量含む。
 5. 10YR2/1 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 炭化物粒多量、焼土粒(φ 5 mm)・黒褐色土粒微量含む。
 6. 10YR3/1 黒褐色土 しまり中 粘性中
 にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物(φ 5 mm・粒)微量含む。



SK-06 AA'
 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
 にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)あり。根痕か。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
 にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
 3. 10YR2/1 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・焼土粒・骨片微量含む。
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
 焼土粒・黒褐色土粒少量、酸化鉄微量含む。礫(φ 1 cm)あり。

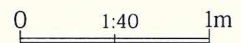
SK-07 BB' CC'
 1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし
 にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒塊状に少量、にぶい黄褐色土(地山)粒微量・炭化物粒・白色粒微量含む。
 3. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
 4. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・黒褐色土粒・酸化鉄微量含む。
 5. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ 5 mm)・白色粘土(φ 5 mm)・黒褐色土粒・暗褐色土ブロック(φ 5 mm)微量含む。
 6. 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱。
 7. 2.5Y6/6 明黄褐色粘質土 しまり強 粘性弱
 黒褐色土粒少量含む。



SK-13 CC'
 1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 暗褐色土粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)粒少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。
 3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)・炭化物粒・酸化鉄微量含む。

SK-09 AA' BB'
 1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
 白色粒(φ 2 mm)少量、白色粒(φ 5 mm)・酸化鉄微量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5 mm)ごく微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3 cm~φ 5 cm・φ 5 mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・白色粒・酸化鉄微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
 にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1 cm)・灰黄褐色砂質土(地山)粒少量、白色粒(φ 5 mm)微量含む。灰黄褐色砂質土(地山)ブロック(φ 5 cm)あり。
 4. 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱 粘性強
 灰黄褐色砂質土(地山)粒多量、白色粒微量含む。

SK-08 AA'
 1. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし
 酸化鉄少量、焼土粒・白色粒(φ 3 mm)微量含む。
 2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし
 白色粒(φ 3 mm)・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり中 粘性なし
 にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄多量、白色粒微量含む。
 4. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性中
 にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄少量、白色粒(φ 3 mm)微量含む。



第 22 図 4号~9号・13号土坑平面・断面図

7号土坑 (第22・24図、写真図版7・12)

位置 調査区南西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸94cm、短軸76cm、確認面からの深さ15cmを測る。 **長軸方位** N-8°-W。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器・須恵器が出土したが図示し得なかった。磨製石鏃未成品1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと考える。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は須恵器片が出土したことから古代と思われる。

8号土坑 (第22・24図、写真図版7・12)

位置 調査区南西部。 **重複関係** 3号溝跡と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 上層は暗褐色土・にぶい黄褐色砂質土、下層は黒褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸136cm、短軸90cm、確認面からの深さ18cmを測る。 **長軸方位** N-34°-E。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 古式土師器1点と弥生土器1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の重複関係から3号溝跡よりも新しいものである。遺物の伴う21号土坑と同時期以降の古墳時代中期以降と考えられる。

9号土坑 (第22・24図、写真図版7・12)

位置 調査区南西部。 **重複関係** 4号住居跡・3号溝跡と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 本遺構の覆土が3号溝跡の覆土と非常に似ていたため、掘り進める際に本遺構の覆土のみ掘ることがかなわなかった。そのため3号溝跡よりも深い所以外は推定復元となっている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸推定63cm、短軸推定59cm、確認面からの深さ51cmを測る。 **長軸方位** N-77°-W。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。東側は三日月形のテラス状を呈し一段高くなる。 **遺物** 古式土師器1点と弥生土器2点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の重複関係から3号溝跡よりも新しいものである。遺物の伴う21号土坑と同時期以降の古墳時代中期以降と考えられる。

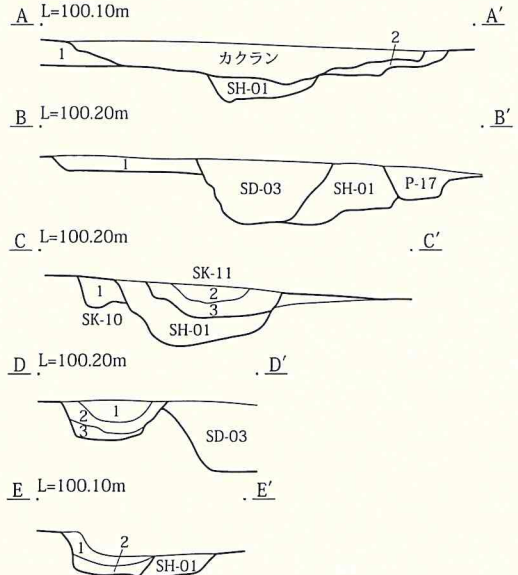
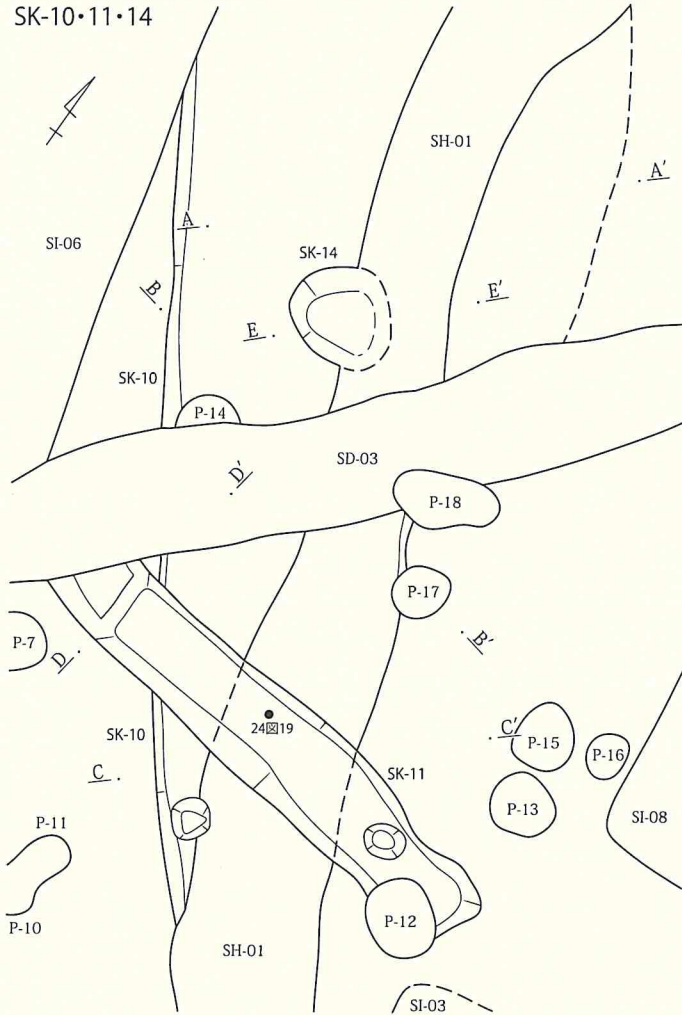
10号土坑 (第23図、写真図版8)

位置 調査区中央部。 **重複関係** 6号住居跡、1号方形周溝墓、11号・14号土坑、3号溝跡、P14と重複する。本遺構は1号方形周溝墓、11号・14号土坑、3号溝跡より古く、6号住居跡、P14とは新旧不明である。 **遺存状態** 西側は壁面が認められるが、その他3方は東側北部にわずかに傾斜が認められるのみである。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は確認されたのが西壁のみであるため不明である。規模は長軸494cm遺存、短軸推定239cm、確認面からの深さ16cmを測る。 **長軸方位** N-32°-W。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。 **備考** 本遺構は、明確な西側壁面が確認できたため土坑と判断したが、平面形態・性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

11号土坑 (第23・24図、写真図版8・12)

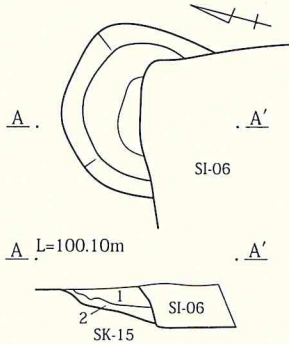
位置 調査区南東部。 **重複関係** 1号方形周溝墓、10号土坑、3号溝跡、P12と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 3号溝跡を先に調査したため北西端部が不明であるが、概ね良好。 **覆土** 上層に黒褐色土、下層に明黄褐色シルト質砂が堆積する。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。規模は長軸287cm遺存、短軸57cm、確認面からの深さ18cmを測る。 **長軸方位** N-81°-W。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。南東側に小穴が1基ある。 **遺物** 弥生土器・土師器が出土し、土師器1点を

SK-10・11・14



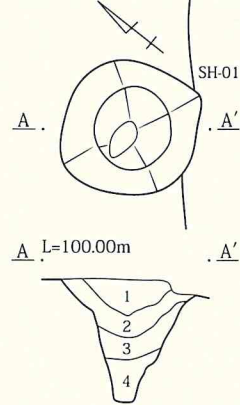
- SK-10 AA'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
炭化物(φ 5mm)あり。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、白色粒微量含む。
- SK-10 BB'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
- SK-10・SK-11 CC'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・白色粒微量含む。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
- SK-11 DD'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
 3. 10YR7/6 明黄褐色シルト質砂 しまり強 粘性なし
黒褐色土粒微量含む、ホリスギ。
- SK-14 EE'
1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒多量、にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。

SK-15



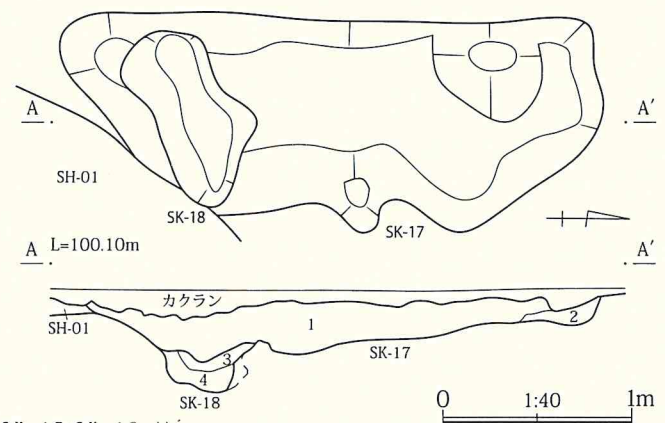
- SK-15 AA'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
灰黄褐色土粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・白色粒微量含む。
 2. 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

SK-16



- SK-16 AA'
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒・焼土粒・白色粒微量含む。
 2. 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・焼土粒・酸化鉄微量含む。
 3. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)微量含む。
 4. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)微量含む。

SK-17・18



- SK-17・SK-18 AA'
1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5cm)あり。
 2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、酸化鉄微量含む。
 3. 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3mm)微量含む。
 4. 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)微量含む。にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)あり。

第 23 図 10 号・11 号・14 号～18 号土坑平面・断面図

図示し得た。**備考** 本遺構は非常に細長い形態であるが、遺構の性格は判断できない。帰属時期は、土師器が出土していることから古代と思われる。

12号土坑（第21図、写真図版6・8）

位置 調査区北西部。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、灰黄褐色砂質土も堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸108cm、短軸97cm、確認面からの深さ21cmを測る。**長軸方位** N-8°-W。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

13号土坑（第22・25図、写真図版8・12）

位置 調査区南西部。**重複関係** 3号溝跡、近世溝跡と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 北端部・西半分が3号溝跡・近世溝跡によって壊されている。**覆土** 黒褐色土が基調で、一部で暗褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると思われる。規模は長軸99cm遺存、短軸推定77cm、確認面からの深さ13cmを測る。**長軸方位** N-15°-W。**壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。**底面** 南から北へ傾斜するが、概ね平坦である。北側はテラス状を呈し一段高くなる。**遺物** 弥生土器3点を図示し得た。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

14号土坑（第23・25図、写真図版8・12）

位置 調査区中央部。**重複関係** 1号方形周溝墓、10号土坑と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 概ね良好であるが、東側は1号方形周溝墓と同時に掘り進めたため推定復元となっている。**覆土** 黒褐色土が基調である。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸推定59cm、短軸推定51cm、確認面からの深さ22cmを測る。**長軸方位** N-63°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 古式土師器1点を図示し得た。S字襷の模倣品と考えられる。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代終末期～古墳時代初頭で、1号方形周溝墓よりも新しいと考えられる。

15号土坑（第23図、写真図版8）

位置 調査区北西部。**重複関係** 6号住居跡と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 南側が6号住居跡によって壊されている。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は灰黄褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈すると思われる。規模は長軸88cm、短軸68cm遺存、確認面からの深さ20cmを測る。**長軸方位** N-83°-W。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜するが、概ね平坦である。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期で、6号住居跡よりも古いと考えられる。

16号土坑（第23図、写真図版8）

位置 調査区北東部。**重複関係** 1号方形周溝墓と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層・下層に黒褐色土・砂質シルト、中層に黒色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸71cm、短軸71cm、確認面からの深さ64cmを測る。**長軸方位** N-30°-W。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。**底面** 22cm×11cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。**遺物** 弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。**備考** 本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

17号土坑（第23図、写真図版8）

位置 調査区北東部。**重複関係** 1号方形周溝墓、18号土坑と重複する。本遺構は1号方形周溝墓より古く、18号土坑よりも新しい。**遺存状態** 概ね良好。**覆土** 黒色土が基調で、一部黒褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸285cm、短軸117cm、確認面からの深さ29cmを測る。**長軸方位** N-0°-E。**壁面** 西壁は大きく外傾して立ち上がり、その他の壁は急角度で立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜し、起伏がある。**遺物** 弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。**備考** 本遺構は形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

18号土坑（第23図、写真図版8）

位置 調査区北東部。**重複関係** 1号方形周溝墓、17号土坑と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 上部が17号土坑によって壊されているが、概ね良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸98cm、短軸61cm、確認面からの深さ26cmを測る。**長軸方位** N-70°-E。**壁面** 急角度で立ち上がる。**底面** 南側から北側へ傾斜する。**遺物** 出土していない。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが遺構の重複関係から17号土坑より古い段階の弥生時代後期と考えられる。

19号土坑（第24・25図、写真図版9・13）

位置 調査区北東部。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸85cm、短軸66cm、確認面からの深さ65cmを測る。**長軸方位** N-47°-E。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。**底面** 21cm×14cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。**遺物** 弥生土器2点を図示し得た。**備考** 本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

20号土坑（第24図、写真図版9）

位置 調査区北東部。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層はにぶい黄褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸57cm、確認面からの深さ47cmを測る。**長軸方位** N-59°-E。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、その後外傾する。断面形は漏斗状を呈する。**底面** 14cm×8cmの楕円形で非常に狭い。概ね平坦である。**遺物** 弥生土器が出土したが図示し得るものはなかった。**備考** 本遺構は形態から柱穴の可能性が考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

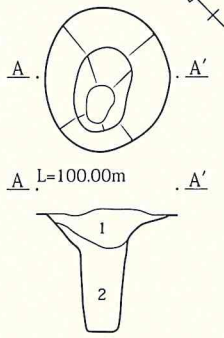
21号土坑（第24・25図、写真図版9・13）

位置 調査区北西部。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、一部で暗褐色土・灰黄褐色土が堆積する。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸155cm、短軸117cm、確認面からの深さ18cmを測る。**長軸方位** N-68°-W。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。西側はテラス状を呈し一段高くなる。**遺物** 古式土師器・土師器を図示し得た。**備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から古墳時代中期5世紀前半頃と考えられる。

22号土坑（第21・25図、写真図版9）

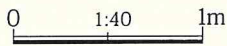
位置 調査区北西部。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調である。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸60cm、短軸58cm、確認面からの深さ21cmを測る。**長軸方位** N-36°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 弥生土器1点を図示し得た。**備**

SK-19

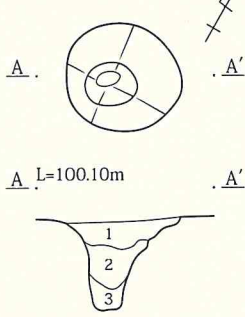


SK-19 AA'

- 10YR2/1 黒色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm・φ 3mm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。



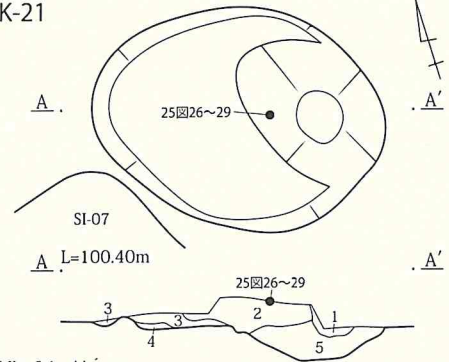
SK-20



SK-20 AA'

- 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む、炭化物(φ 1cm)あり。
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm・φ 5mm)微量含む、炭化物(φ 5mm)あり。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)粒多量含む。

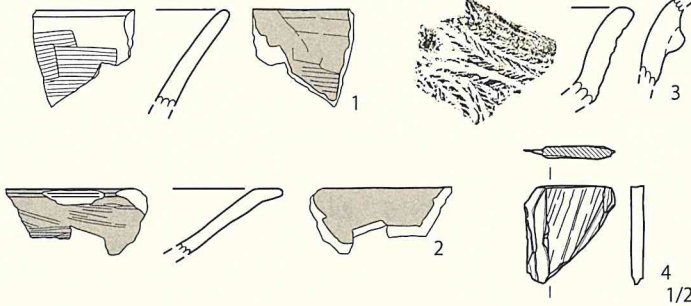
SK-21



SK-21 AA'

- 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘性なし
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・炭化物粒・焼土粒微量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、白色粒・酸化鉄微量含む。
- 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。

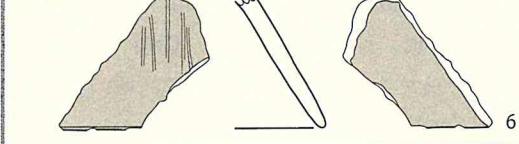
SK-02



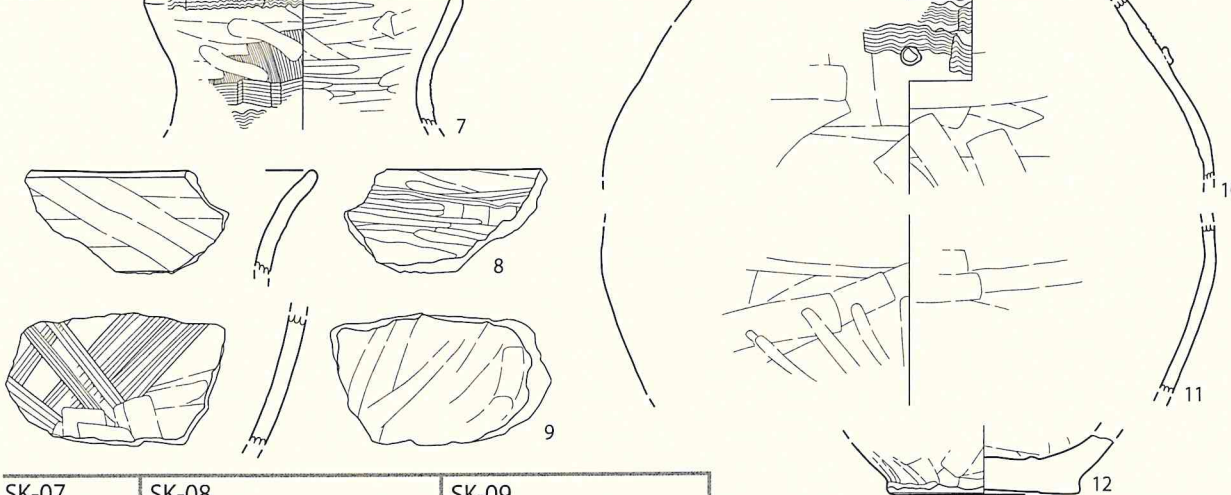
SK-04



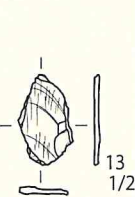
SK-05



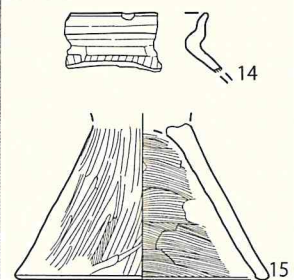
SK-06



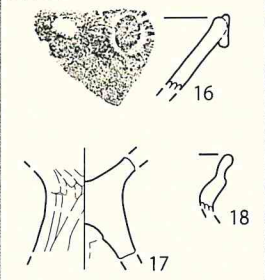
SK-07



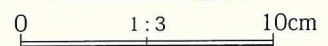
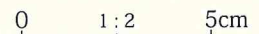
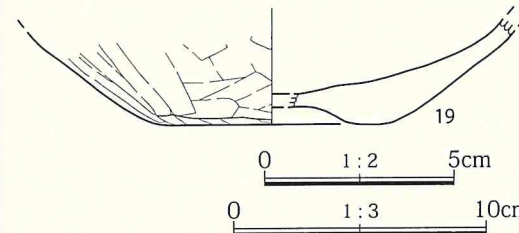
SK-08



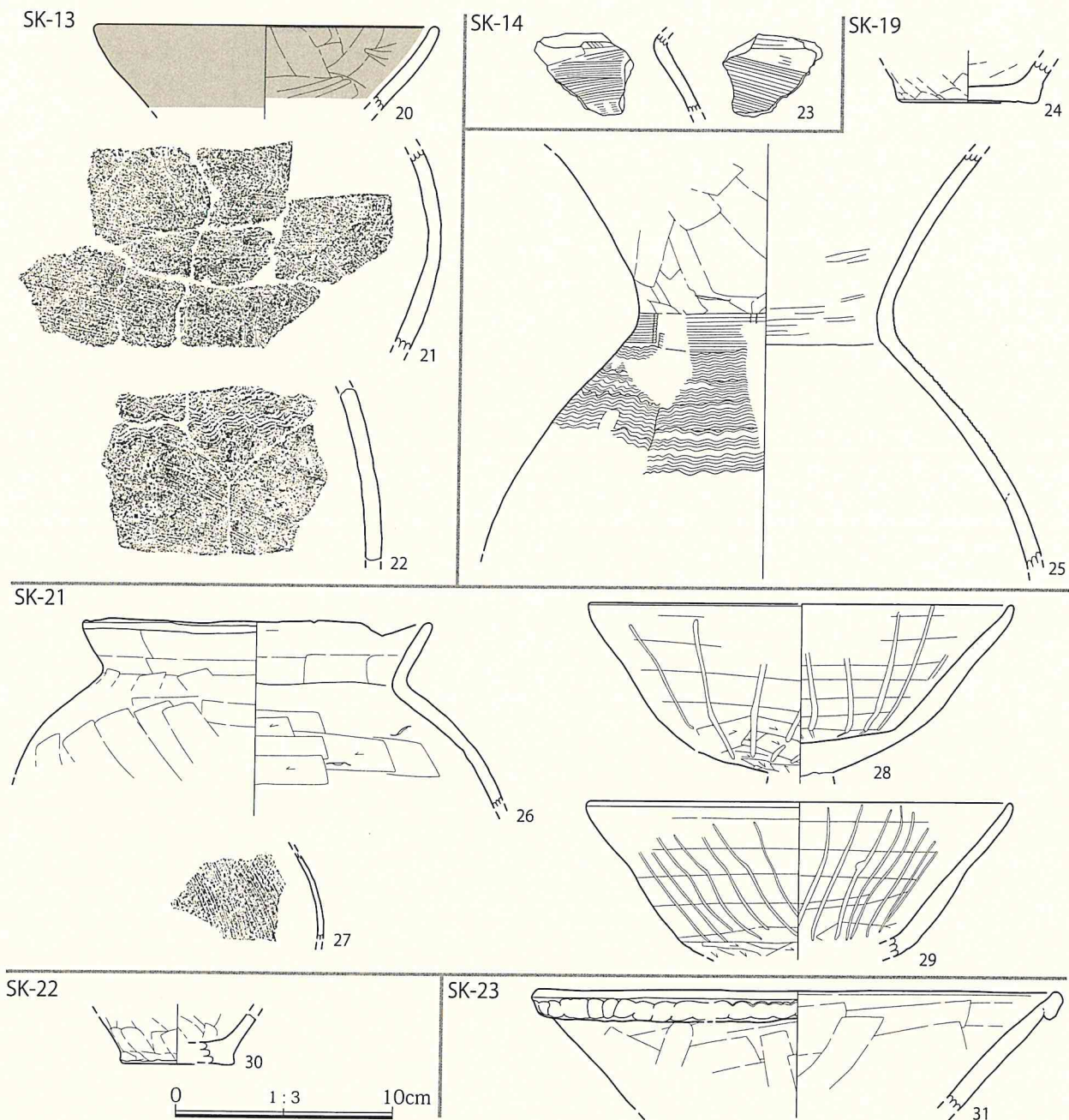
SK-09



SK-11



第 24 図 19 号～ 21 号土坑平面・断面図、土坑出土遺物実測図①



第 25 図 土坑出土遺物実測図②

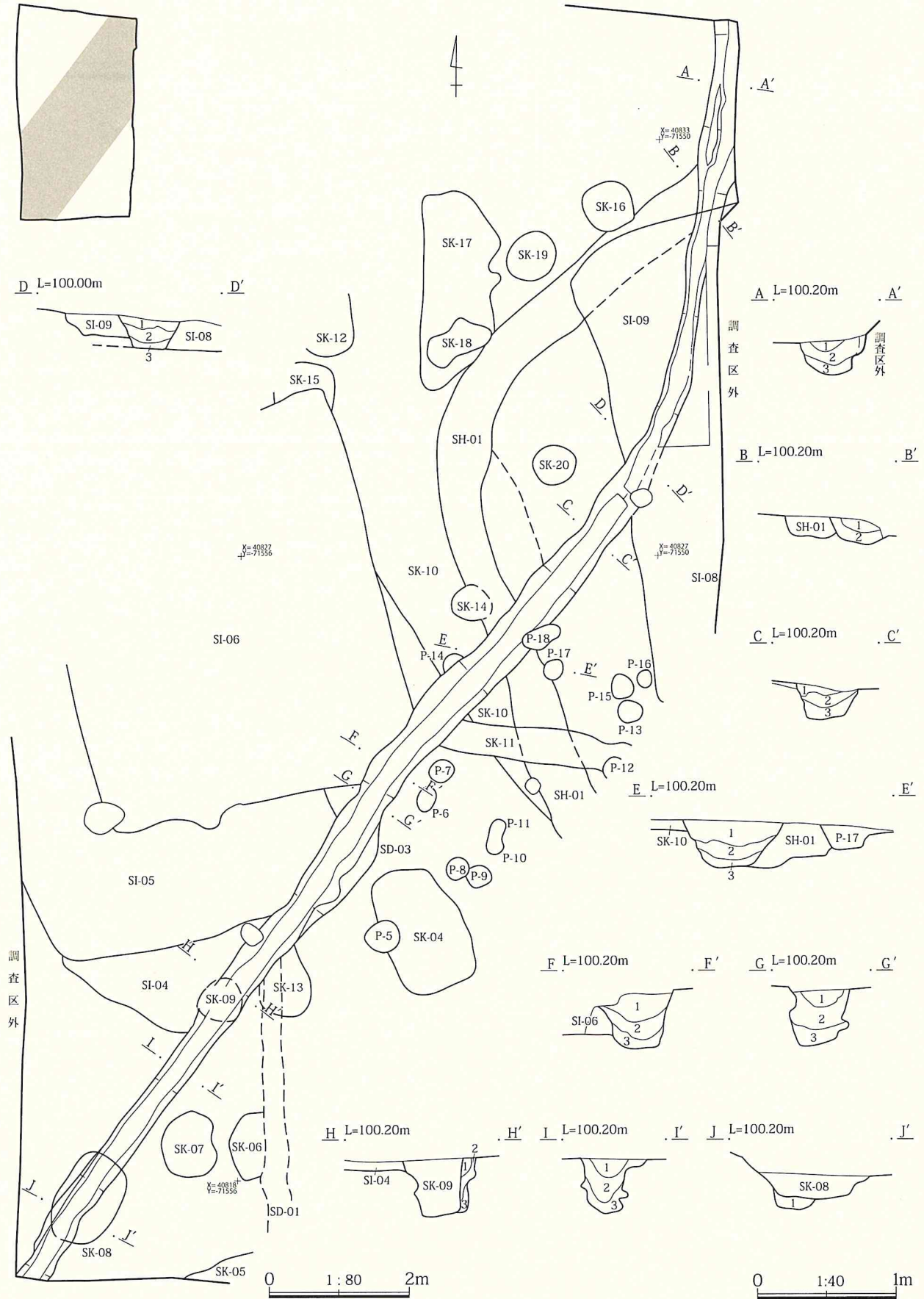
考 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

23号土坑 (第21・25図、写真図版9・13)

位置 調査区北西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 117cm、短軸 115cm、確認面からの深さ 9cmを測る。 **長軸方位** N - 41° - W。 **壁面** 非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** ほぼ水平であるが、起伏が見られる。 **遺物** 弥生土器 1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

24号土坑 (第21図、写真図版9)

位置 調査区北西部。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調である。 **平面形と規**



第26图 3号沟迹平面·断面图①

SD-03 AA⁺

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
酸化鉄少量、白色粒微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・炭化物粒微量含む。

SD-03 BB⁺

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。

SD-03 CC⁺

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色砂質土 しまり弱 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、酸化鉄微量、白色粒ごく微量含む。炭化物(φ 5mm)あり。

SD-03 DD⁺

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性強
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
酸化鉄微量含む。

SD-03 EE⁺

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性なし
白色粒少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・酸化鉄微量含む。

SD-03 FF⁺

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性中
白色粒(φ 3mm・粒)少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。にぶい黄褐色土ブロック(φ 1cm)あり。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ 3mm)・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒・酸化鉄微量含む。

SD-03 GG⁺

1. 10YR2/3 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒(φ 3mm・粒)・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 5mm)・炭化物粒・白色粒(φ 5mm)微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)粒多量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・酸化鉄微量含む。

SD-03 HH⁺

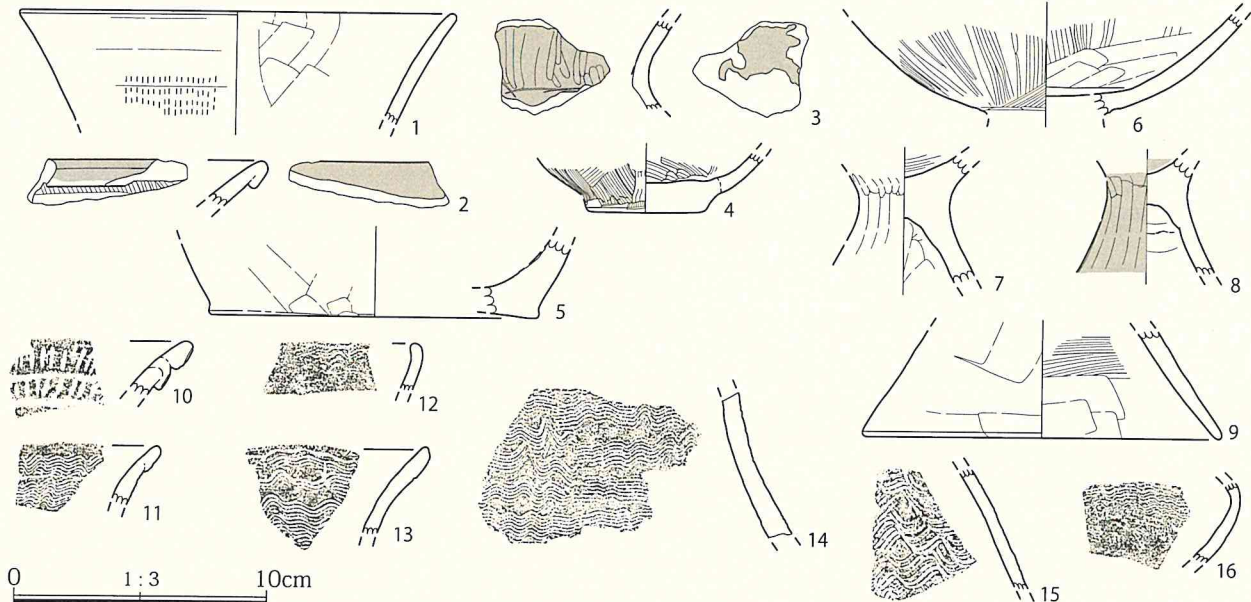
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・白色粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(地山)ブロック粒・酸化鉄微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)・にぶい黄褐色土(地山)粒微量含む。

SD-03 II⁺

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
白色粒・酸化鉄微量含む。
2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
白色粒・酸化鉄少量、にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 1cm)微量含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)ブロック(φ 3cm)少量、にぶい黄褐色土(地山)粒・白色粒・酸化鉄微量含む。

SD-03 JJ⁺

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強 粘性弱
にぶい黄褐色土(地山)粒少量、白色粒(φ 5mm)・酸化鉄微量含む。



第27図 3号溝跡平面・断面図②、出土遺物実測図

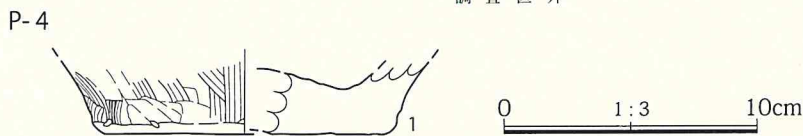
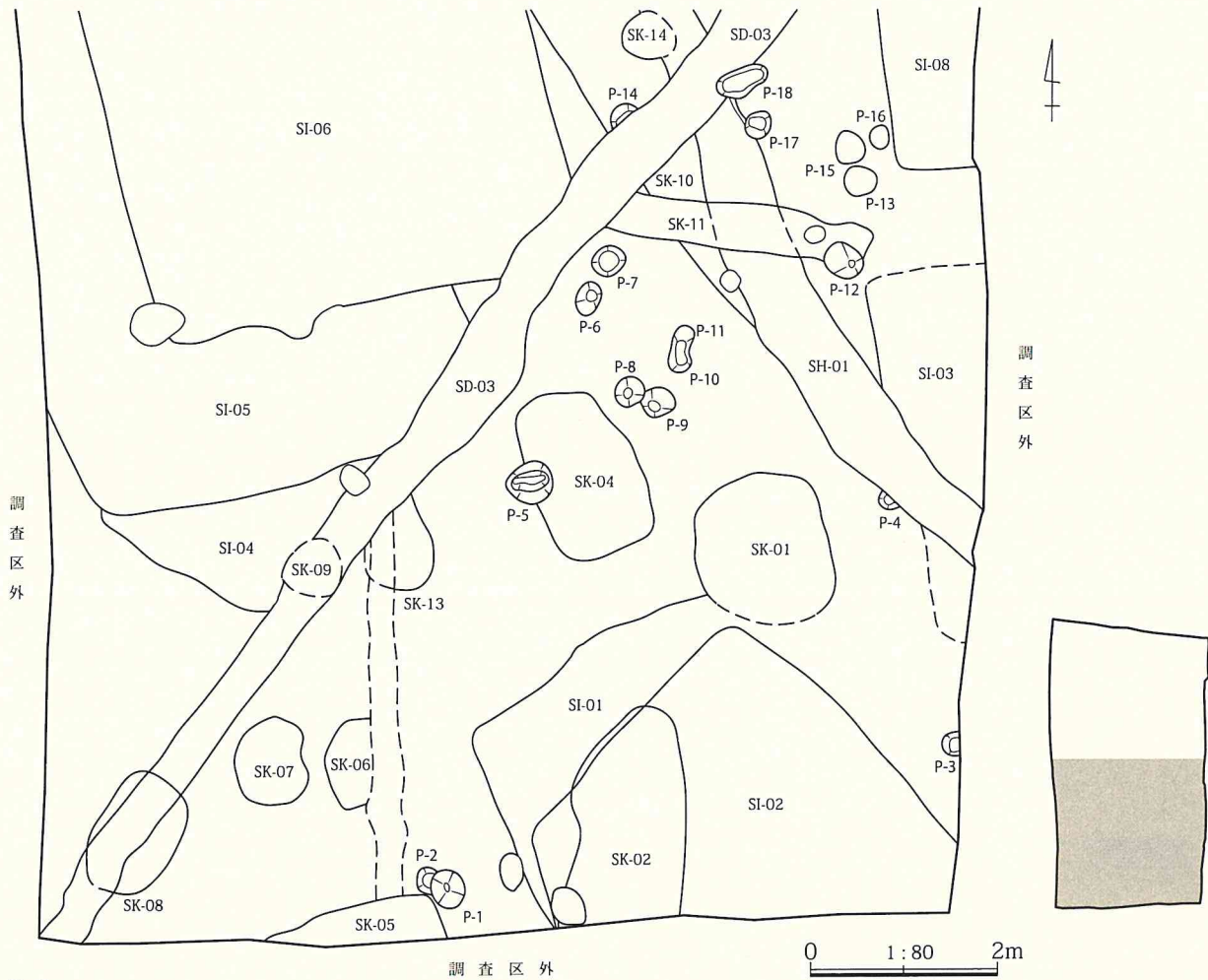
模 平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸 83cm、短軸 67cm、深さ 14cmを測る。 **長軸方位** N-32°-W。
壁面 西壁は急角度で立ち上がり、その他の壁は非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 出土していない。 **備考** 本遺構は形態に特徴がないため性格は不明である。帰属時期は、出土遺物はないが周囲の主要な遺構と同時期の弥生時代後期と考えられる。

第5節 溝跡

今回の発掘調査では、近世溝跡2条と古墳時代前期～中期と考えられる溝跡1条が確認された。近世溝跡下の遺構の有無を確認するため掘削を行い、近世瓦・陶磁器が出土し遺物を取り上げるため1号・2号溝跡とした。しかし、今回の発掘調査の主たる対象年代ではないため1号・2号溝跡は全体図(第3図)に平面形のみを明示した。

3号溝跡 (第26・27図、写真図版9・13)

位置 調査区南西隅部から調査区北東隅部へ調査区を縦断する。 **重複関係** 4号～6号・8号・9号住居跡、



第28図 ピット平面図、出土遺物実測図

1号方形周溝墓、8号～11号・13号土坑、P 14・P 18と重複する。本遺構は8号・9号・11号土坑より古く、4号～6号・8号・9号住居跡、1号方形周溝墓、10号・13号土坑よりも新しい。P 14・P 18との新旧関係は判別できなかった。**遺存状態** 北端部・南端部は調査区外にある。9号住居跡との重複部は溝を確認できなかったため上部は遺存しない。**覆土** 黒褐色土が基調である。**規模** 長さは直線距離で214mが確認され、上端幅は38cm～68cm、下端幅は21cm～30cm、確認面からの深さは19cm～41cmを測る。**主軸方位** 南側約2/3がN-37°-E、北側約1/3がN-11°-E。**遺物** 弥生土器16点を図示し得た。弥生時代後期樽式土器が多く出土していることは、多数の弥生時代後期の遺構を壊したためと考えられる。**備考** 調査区南西隅部からN-37°-Eの方向で150m延び、そこからN-11°-Eに向きを変えて64m延び調査区北東隅部に至る。南側約1/3の壁面はほぼ垂直に立ち上がり、北側約2/3は急角度で立ち上がる。底面高は調査区南側が99.65m～99.70m、調査区中央が99.62m～99.66m、調査区北側が99.60m～99.65mで北側がわずかに低いほぼ水平である。本遺構は、底面に高低差が見られないことから水路として使われたものではなく、区画溝として使用したものと考えられる。帰属時期は、出土遺物は弥生土器樽式土器が多いが本遺構に伴うものではないと考えられ、遺構の重複関係から古墳時代前期～中期と考えられる。

第6節 ピット (第28図)

今回の発掘調査では、18基のピットが確認された。発掘調査期間に余裕がなかったため全てのピットを掘削することはできず、P13・P15・P16は平面形の記録のみとなった。またピットが確認されたのは調査区南半分のみであるが、北半分には全くないのではなく見落としたことによるものと考えられる。各遺構の詳細についてはピット計測表に記載した。遺物はP4から出土した1点のみ図示し得た。帰属時期は、P03～P05は樽式土器が出土していることから弥生時代後期と考えられる。また遺物が出土していない他のピットも同時期の弥生時代後期と思われる。

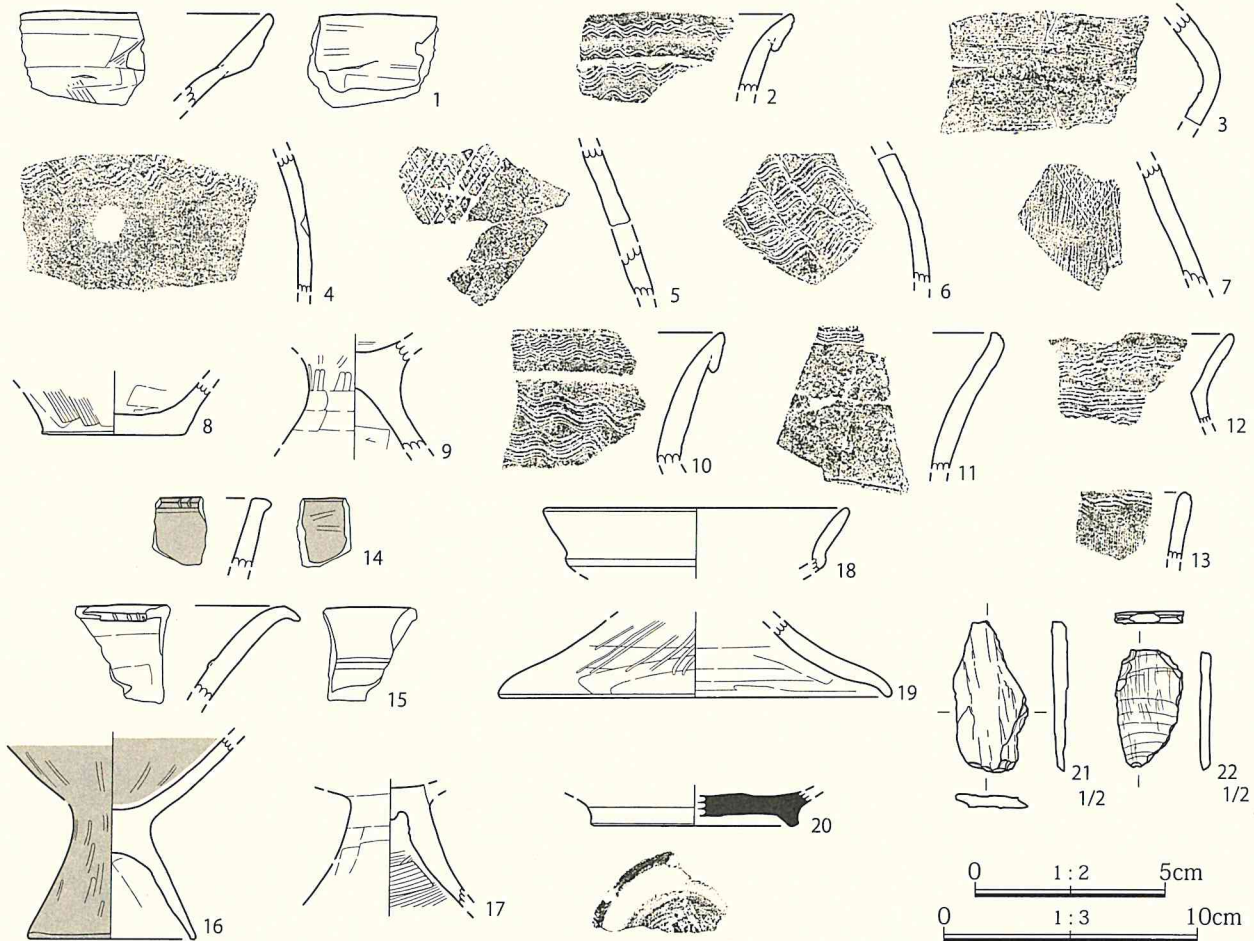
第1表 ピット計測表

遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土	出土遺物	備考	遺構名	平面形	規模 (cm)			覆土	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ			
ピット1	楕円形	42	36	51	A		P2より新しい	ピット10・11	不正楕円形	50	26	23	A		掘った結果1基と判断した
ピット2	円形か	30	[26]	5	A		P1より古い	ピット12	楕円形	43	34	51	B		SK11より古い
ピット3	円形か	27	[21]	43	A	弥生土器		ピット13	不整形円形	35	32	—	A		遺構確認のみ
ピット4	円形か	24	[14]	25	A	弥生土器	SH01より古い	ピット14	円形か	34	[16]	23	A		SD03との新旧不明
ピット5	不整形円形	50	46	36	A	弥生土器		ピット15	不整形円形	35	32	—	A		遺構確認のみ
ピット6	楕円形	37	26	31	A			ピット16	楕円形	26	21	—	A		遺構確認のみ
ピット7	不整形円形	38	31	23	A			ピット17	不整形円形	31	28	11	A		SH01との新旧不明
ピット8	円形か	33	31	20	A			ピット18	楕円形	57	29	45	A		SD03との新旧不明
ピット9	隅丸方形	35	31	14	A										

A: 黒褐色土 B: 黒色土 (): 推定 []: 遺存

第7節 遺物包含層出土遺物 (第29図、写真図版13)

今回の発掘調査では、遺構を確認した基盤層の上に遺構覆土と区別がつかない弥生時代後期～古代の遺物を含む土が堆積していた。その土を掘り下げないと遺構の識別ができなかったため遺物包含層として掘り下げ、遺物を取り上げた。遺物包含層出土遺物で図示し得たものは22点である。

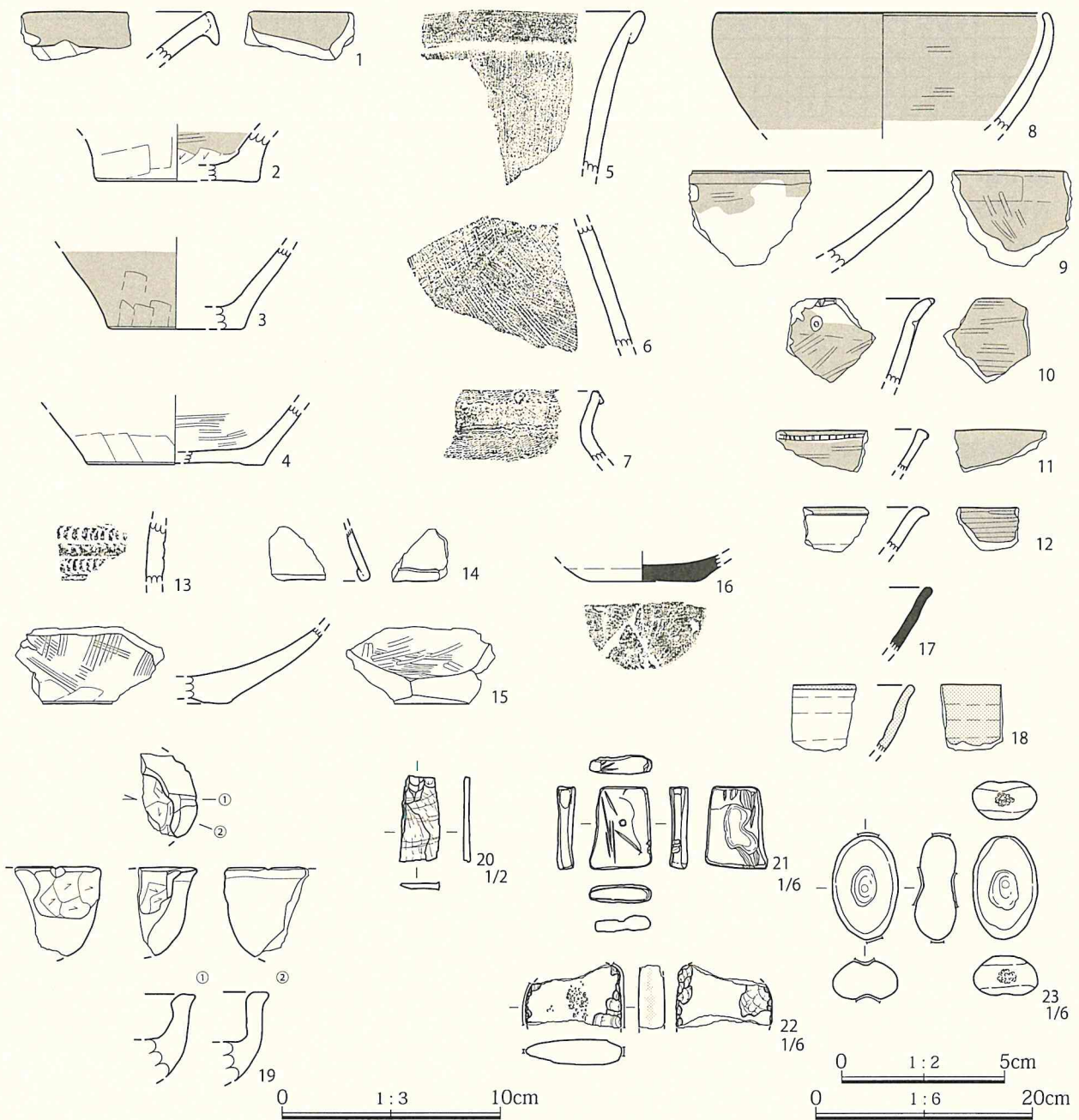


第29図 遺物包含層出土遺物実測図

第29図1～17は弥生時代後期の樽式土器で、I期～III期の遺物が出土する。第29図18・19は土師器、第29図20は須恵器、第29図21・22は磨製石鏃未成品である。

第8節 遺構外出土遺物（第30図、写真図版13）

今回の発掘調査では、遺構外から縄文時代～古代及び近世の遺物が出土した。近世遺物は瓦・陶磁器が出土し図化も可能であったが、今回は調査の主対象ではないことから図化しなかった。第30図1～12が弥生時代後期樽式土器である。第30図13は縄文時代前期の諸磯式土器と思われる。第30図14・15は古墳時代初頭の古式土師器と思われ、第30図16・17は古代の須恵器、第30図18は灰釉陶器である。第30図19は時期不明・形態不明で、ミニチュア土器と思われる。第30図20は磨製石鏃未成品、第30図21は砥石、第30図22は敲石、第30図23は凹石である。



第30図 遺構外出土遺物実測図

第9節 まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期以前の土坑1基、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡1軒、弥生時代後期の竪穴住居跡8軒、土坑16基、ピット18基、弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓1基、土坑2基、古墳時代前期～中期の溝跡1条、古墳時代中期の土坑1基および古墳時代中期以降と考えられる土坑2基、古代の土坑2基のほか、近世溝跡2条が確認された。近世を除く各時期の本調査区の様相をまとめてみたい。

弥生時代後期以前の遺構は、陥し穴と考えられる土坑（SK02）1基のみである。縄文時代前期の土器片が出土していることから、縄文時代前期まで遡る可能性がある。陥し穴であるならば、集落から少し離れた狩猟場であったのではないかと考えられる。

弥生時代中期～後期の遺構は、調査区東側に位置する竪穴住居跡（SI03）1軒のみである。本調査区内には同時期の竪穴住居跡が確認されなかったことから、集落跡の中心は本調査区よりも東側にあるものと想定される。

弥生時代後期の遺構は、竪穴住居跡8軒（SI01・02・04～09）、土坑16基（SK03～06・10・12・13・15～20・22～24）、ピット18基（P01～P18）が確認されており、集落跡の一部であったと考えられる。住居跡の分布は調査区南東部（SI01・02）・調査区西側（SI04～07）・調査区東側（SI08・09）の3か所に分かれている。調査区南東部・調査区東側は2軒、調査区西側では3軒重複していることから、3期に区分することが可能である。SI01・02・04・05・07～09が樽式Ⅱ期～Ⅲ期にかけてと考えられ、遺構の重複関係からSI02・04・07・08が古い段階、SI01・05・09が新しい段階となる。SI06は樽式Ⅲ期と考えられることから一番新しい段階で、同時期の住居跡は調査区外に存在するものと思われる。本調査区北側で竪穴住居跡が確認されなかったことから、本調査区が集落跡の北限と考えられる。東・西・南への集落の広がりには確認できなかった。

弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構は、方形周溝墓（SH01）1基、土坑（SK01・SK14）2基で、古墳時代前期～中期の遺構は溝跡（SD03）1条である。弥生時代後期に在った集落は途絶え、方形周溝墓が造営される墓域へと変化したことが伺える。本調査区では方形周溝墓1基の北西隅部が確認されたのみであるため、墓域の広がりには確認できなかったが、東側及び南側に広がるものと想定される。また、SH01を壊す古墳時代前期～中期のSD03が造られていることから、墓域の存続期間はあまり長くなかったと考えられる。また、この溝は区画溝と考えられることから、何らかの土地利用の境界となっていたと思われる。

古墳時代中期以降は土坑（SK07～09・11・21）が散見される程度となったことから、集落の範囲から外れたものと考えられる。

また、遺構内外から出土した磨製石鏃の未成品と見られる遺物を9点図示した。伴う遺構はないと考えられるが、切断痕が見られない同一石材の剥片も30点近く出土していることから、周辺で磨製石鏃の製作場があるものと考えられる。

今回の発掘調査は、弥生時代中期～後期の集落及び弥生時代終末期～古墳時代初頭の墓域が存在したこと及び土地利用の変遷が明らかになったが、調査面積がさほど広くないことから弥生時代中期～後期の集落域、弥生時代終末期～古墳時代初頭の墓域の広がりを把握するまでには至らなかった。今後、周辺地域での発掘調査事例が増えていくことで弥生時代中・後期～古墳時代初頭の集落域・墓域、古墳時代中期以降の集落域や近隣の日高遺跡、新保遺跡・新保田中村前遺跡との関係などが解明されることを期待したい。

参考文献

- 高崎市市史編さん委員会 2003 『新編 高崎市史 通史編1 原始古代』
高崎市市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』
東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 2000 第9回 東日本埋蔵文化財研究会 福島大会 『東日本弥生時代後期の土器編年』第1分冊

(): 推定 | | : 遺存

器形・成・整形、文線等の特徴

種別	番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文線等の特徴	遺存状況
11	24	S I - 05 覆土	弥生土器 高坏办	口径 底径 器高	密	良好	赤褐色 (赤彩)	小形壺。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。頸部ナデ。赤彩。	口縁部破片
11	25	S I - 05 覆土	弥生土器 高坏	—	密	良	明赤褐色 (赤彩)	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。赤彩。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。体下部傾位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部破片
11	26	S I - 05 覆土	弥生土器 鉢	(14.0)	密	良	にぶい褐色	体部は底部から直線的に外傾し口縁部に至る。外面：口縁部ヨコナデ。体下部傾位ヘラミガキ。最下部傾位ヘラミガキ。底面ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。底面ヘラミガキ。	口縁部 1/8 体部～底部 1/5
11	27	S I - 05 覆土	弥生土器 鉢	—	密	良	にぶい黄褐色	体部は底部から直線的に立ち上がり。外面：口縁部ヨコナデ。体下部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。底面ヘラミガキ。	体部～底部 1/5
13	1	S I - 06 覆土	弥生土器 壺	(17.4)	密	良	褐色	腹面は算盤玉状を呈する。外面：頸部傾位ヘラミガキ。頸部多連止脈状文。胴上部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	口縁部 1/5 頸部～胴部 1/3
13	2	S I - 06 床面	弥生土器 壺	—	密	良	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	口縁部 1/5 頸部～胴部 1/3
13	3	S I - 06 炉2上面	弥生土器 大型壺	—	密	良	褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
13	4	S I - 06 炉1上面	弥生土器 大型壺	(21.7)	密	良	褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
13	5	S I - 06 覆土	弥生土器 壺	(7.6)	密	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
13	6	S I - 06 覆土	弥生土器 小型壺	—	密	良	黒褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部 1/5
13	7	S I - 06 覆土	弥生土器 小型壺	(3.8)	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部 1/5
13	8	S I - 06 覆土	弥生土器 小型壺	(4.3)	密	良好	赤色 (赤彩)	鉢か。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	底部 1/5
13	9	S I - 06 覆土	弥生土器 小型壺	(4.8)	密	良好	赤色 (赤彩)	鉢か。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	底部 1/6
13	10	S I - 06 床面	弥生土器 壺	15.8 6.4 27.9	密	良好	褐色	胴部は中に最大径を持ち、丸みを帯びる。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	ほぼ完存
13	11	S I - 06 p 2	弥生土器 壺	—	粗	良	灰黄褐色	口縁部は頸部から直立して立ち上がり大きく外反する。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	頸部 1/2 胴部 1/5
13	12	S I - 06 覆土	弥生土器 壺	—	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
14	13	S I - 06 床面	弥生土器 壺	17.3	密	良好	にぶい黄褐色	複合口縁。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	口縁部～頸部ほぼ完存 胴部 2/3
14	14	S I - 06 床面	弥生土器 壺	—	やや粗	良	にぶい褐色	口縁部は頸部から外反して立ち上がる。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	頸部ほぼ完存
14	15	S I - 06 床面	弥生土器 壺	—	密	良好	灰黄褐色	口縁部は頸部から外反して立ち上がる。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
14	16	S I - 06 床面	弥生土器 壺	—	密	良好	灰褐色	胴部は球形を呈する。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
14	17	S I - 06 床面	弥生土器 小型壺	12.2 5.6 13.8	密	良好	黒色	複合口縁で頸部が若干窄まる。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	ほぼ完存
14	18	S I - 06 床面	弥生土器 壺	(9.0)	密	良好	にぶい黄褐色	無文。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	底部 1/4
14	19	S I - 06 覆土	弥生土器 壺	6.0 4.4 4.4	やや粗	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	底部完存
14	20	S I - 06 覆土	弥生土器 壺	6.3 3.8	密	良好	にぶい褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	底部完存
14	21	S I - 06 覆土	弥生土器 小型壺	—	密	良好	黒褐色	胴部は上位に最大径を持ち底部に向かって窄まる台付壺と思われる。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	頸部～胴部 1/8
14	22	S I - 06 覆土	弥生土器 台付壺	(5.8)	密	良好	褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	台部 1/3
14	23	S I - 06 覆土	弥生土器 台付壺	(8.5)	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	台部 1/6
14	24	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	(21.1)	密	良好	灰褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部 1/8
14	25	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	(13.0)	密	良好	赤色 (赤彩)	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	口縁部～胴部 1/6
14	26	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	—	密	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	接合部～胴上部 ほぼ完存
14	27	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	—	密	良好	褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	接合部 1/3
14	28	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	—	密	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	接合部破片
14	29	S I - 06 覆土	弥生土器 高坏	—	密	良好	赤色 (赤彩)	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	接合部ほぼ完存
14	30	S I - 06 p 3	弥生土器 鉢	12.5 4.4 6.7	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	ほぼ完存
14	31	S I - 06 覆土	弥生土器 鉢	(9.0)	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。胴下部傾位ヘラミガキ。胴中部傾位ヘラミガキ。	口縁部～胴部 1/6

種別・器種	出土位置	口徑	底徑	器高	胎土	焼成	色調	器形・成形・文様等の特徴	遺存状況
14図 32	S I - 0 6 覆土	—	1.8	[1.7]	密	良好	にぶい黄褐色	裏のミニミニチュア土器か。外面：胴部隆起ヘラナナ。底部分ナ。内面：胴部ヘラミガキ。爪痕あり。	底部完存
14図 33	S I - 0 6 覆土	—	—	[3.7]	やや粗	良好	灰黄褐色	焼成前穿孔2か所あり、装飾が実用か用途不明。外面：横位ヘラナナ。穿孔の間に幾形状(先羽状)の調整痕か。内面：横位ヘラナナ。	破片
14図 34	S I - 0 6 覆土	—	—	[3.1]	やや粗	良好	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。	口縁部破片
14図 35	S I - 0 6 覆土	—	—	[3.0]	粗	良好	褐色	口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。	口縁部破片
14図 36	S I - 0 6 覆土	—	—	[2.1]	密	良好	黒色	口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。口縁部端位ヘラナナ。	口縁部破片
14図 37	S I - 0 6 覆土	—	—	[4.4]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
14図 38	S I - 0 6 覆土	—	—	[4.0]	密	良好	褐色	口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
14図 39	S I - 0 6 覆土	—	—	[2.3]	密	良好	灰白色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 1	S I - 0 7 覆土	(13.8)	—	[9.1]	密	良好	黒褐色	複合口縁。外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 2	S I - 0 7 覆土	—	(9.0)	[4.5]	やや粗	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 3	S I - 0 7 覆土	(6.3)	—	[2.5]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 4	S I - 0 7 覆土	—	(6.0)	[3.0]	密	良好	にぶい赤褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 5	S I - 0 7 覆土	—	(5.0)	[2.8]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 6	S I - 0 7 覆土	—	—	[2.8]	粗	やや不良	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
16図 7	S I - 0 7 覆土	—	—	[5.8]	密	良好	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 1	S I - 0 8 床面	(20.0)	—	[2.5]	やや粗	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 2	S I - 0 8 覆土	—	(7.6)	[3.2]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 3	S I - 0 8 覆土	—	(5.0)	[2.7]	密	良好	灰褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 4	S I - 0 8 覆土	—	(6.4)	[2.2]	やや粗	良好	灰白色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 5	S I - 0 8 p1	—	(7.4)	[3.4]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 6	S I - 0 8 覆土	—	—	[3.9]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 7	S I - 0 8 覆土	—	—	[1.8]	密	良好	にぶい褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 8	S I - 0 8 覆土	—	(6.8)	[3.3]	密	良好	茶色(赤彩)	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
17図 9	S I - 0 8 覆土	—	—	[2.8]	密	良好	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 1	S I - 0 9 床面	(17.0)	—	[6.0]	密	良好	黒褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 2	S I - 0 9 覆土	(16.2)	—	[7.7]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 3	S I - 0 9 覆土	—	(7.2)	[2.2]	やや粗	良好	にぶい褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 4	S I - 0 9 床面	—	—	[5.2]	密	良好	黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 5	S I - 0 9 覆土	—	—	[4.0]	密	良好	灰黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
18図 6	S I - 0 9 覆土	—	—	[3.5]	密	良好	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 1	S H - 0 1 覆土	—	(5.8)	[3.4]	やや粗	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 2	S H - 0 1 覆土	—	(6.4)	[2.9]	密	良好	にぶい褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 3	S H - 0 1 覆土	—	(4.2)	[2.5]	密	良好	にぶい褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 4	S H - 0 1 覆土	(21.6)	—	[8.7]	密	良好	浅黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 5	S H - 0 1 No.18	—	—	[3.7]	密	良好	浅黄色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 6	S H - 0 1 覆土	—	—	[4.7]	密	良好	褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 7	S H - 0 1 覆土	—	12.9	[12.3]	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 8	S H - 0 1 覆土	12.0	—	[4.4]	やや粗	良好	にぶい褐色	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 9	S H - 0 1 覆土	(18.2)	—	[4.0]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片
20図 10	S H - 0 1 覆土	—	—	[2.8]	密	良好	明赤褐色(赤彩)	外面：口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。口縁部端位ヘラミガキ。	口縁部破片

(): 推定 | | : 遺存

種別・器種	出土位置	番号	出位置	種類・器種	法量 (cm)		胎土	焼成	色調	器形・成形・文様等の特徴	遺存状況
					口径	底径					
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	11	—	—	14.7	密	良好	にぶい黄褐色	丸みを帯びた体部から短い口縁部が外傾する。外面：口縁部後傾位ヘラナナ。体部縮位ヘラナナ。内面：口縁部ヨコナナ。体部縮位ヘラミガキ。	口縁部～体上部破片	
弥生土器 ミニチュア土器	SH-01 覆土	12	5.6	3.9	6.0	やや粗	良好	明褐色	口縁部は外反し、胴部は扁平な算盤玉型。壺型。外面：口縁部ヨコナナ。胴上部縮位ヘラケズリ。胴中部縮位ヘラケズリ。底部ナナ。内面：口縁部ヨコナナ。胴部～底部指で整形。	ほぼ完存	
弥生土器 ミニチュア土器	SH-01 覆土	13	5.5	4.5	6.5	やや粗	良好	にぶい褐色	口縁部は直立し、胴部は算盤玉型。底部はドーナツ状に中央が凹む。壺型。外面：口縁部ヨコナナ。胴上部縮位ヘラケズリ。胴中部縮位ヘラケズリ。胴下部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナナ。胴部～底部指で整形。	ほぼ完存	
弥生土器 ミニチュア土器	SH-01 覆土	14	5.4	4.2	7.4	密	良好	褐色	口縁部は直立気味に立ち上がり、胴部は球型。壺型。外面：口縁部ヨコナナ。胴部縮位ハケメ後胴上部縮位ヘラナナ。胴中部縮位ヘラナナ。胴下部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナナ。胴部～底部指で整形。	ほぼ完存	
弥生土器 手捏ね土器	SH-01 覆土	15	5.3	尖底	3.0	密	良好	にぶい褐色	尖底で体部は外傾する壺型。外面：口縁部ヨコナナ。コビナナ。体部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ヨコナナ。コビナナ。	完存	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	16	—	—	2.6	密	良好	黒褐色	口縁部がわずかに内傾する。外面：口縁部縮位後傾位ヘラナナ。内面：口縁部縮位ヘラナナ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	17	—	—	3.8	密	良好	にぶい黄褐色	口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	18	—	—	2.4	密	良好	褐色	複合口縁。外面：口縁部縮位ヘラナナ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	19	—	—	3.6	密	良好	にぶい褐色	口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	20	—	—	6.8	密	良好	浅黄褐色	口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SH-01 覆土	21	—	—	6.0	密	良好	褐色	外面：胴上部縮位ヘラケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	胴部破片	
弥生土器 壺	SK-02 覆土	24	—	—	3.9	密	良好	にぶい褐色	口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 高坏	SK-02 覆土	24	—	—	2.6	密	良好	赤褐色 (赤彩)	口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部破片	
弥生土器 漆鉢	SK-04 覆土	24	—	—	3.8	密	良好	灰白色	波状口縁。外面：口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部破片	
弥生土器 壺	SK-04 覆土	24	—	—	11.6	やや粗	良好	にぶい黄褐色	外面：胴下部縮位ヘラミガキ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。赤彩。	口縁部破片	
弥生土器 高坏	SK-05 覆土	24	—	—	5.3	密	良好	赤色 (赤彩)	外面：胴下部縮位ヘラミガキ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。赤彩。	胴下部～底部 1/3 胴下部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	12.0	—	5.2	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。赤彩。	胴下部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	—	—	4.1	密	良好	褐色	外面：口縁部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラミガキ。	口縁部～頸部 1/6 口縁部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	—	—	5.1	密	良好	褐色	外面：胴部縮位ハケメ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	口縁部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	—	—	17.6	やや粗	良好	暗褐色	最大径を胴中部に持ち、頸部が窄まる。外面：胴部縮位ハケメ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。24 図 11 と同一個体と思われる。	胴部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	—	—	6.4	やや粗	良好	にぶい褐色	最大径を胴中部に持ち、底部に向かって窄まる。外面：胴中部～胴下部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。24 図 10 と同一個体と思われる。	胴中部～胴下部 1/5 胴中部破片	
弥生土器 鉢	SK-06 底面	24	—	—	2.3	やや粗	良好	灰褐色	底部外縁が僅かに高く、ドーナツ状を呈する。外面：胴下部縮位・斜位ヘラケズリ。内面：胴下部～底部ヨコナナ。	底部 1/3 口縁部破片	
古式土器 S 字裏	SK-08 覆土	24	—	—	2.4	密	良好	浅黄褐色	外面：口縁部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	口縁部～胴部破片	
弥生土器 台付裏	SK-08 覆土	24	—	—	9.8	密	良好	にぶい褐色	高坏脚部。外面：台部縮位ハケメ後傾位ヘラケズリ。内面：台部縮位ハケメ。台部縮位ヘラケズリ。	台部 1/5 口縁部破片	
弥生土器 壺	SK-09 覆土	24	—	—	3.0	粗	良好	浅黄褐色	外面：口縁部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	口縁部破片	
弥生土器 台付裏	SK-09 覆土	24	—	—	4.0	密	良好	にぶい褐色	外面：接合部斜位ヘラケズリ。内面：胴下部ナナ。台上部縮位ヘラケズリ。	接合部 1/4 口縁部～頸部破片	
古式土器 S 字裏	SK-09 覆土	24	—	—	2.2	やや粗	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部縮位ハケメ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	口縁部破片	
土師器 壺	SK-11 覆土	24	—	—	4.1	密	良好	にぶい褐色・黒色	底部中央が窄み上げ底状を呈する。外面：胴下部縮位・斜位ヘラケズリ。内面：胴下部～底部縮位ヘラケズリ。	底部 1/5 口縁部破片	
弥生土器 高坏	SK-13 覆土	25	—	—	15.5	密	良好	赤色 (赤彩)	外面：口縁部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	口縁部～体部 1/6 口縁部破片	
弥生土器 鉢	SK-13 底面	25	—	—	9.3	粗	良好	灰白色	外面：胴部縮位・斜位ハケメ。内面：胴部ナナ。	胴部破片	
弥生土器 鉢	SK-13 底面	25	—	—	17.9	やや粗	良好	にぶい黄褐色	外面：胴部縮位ハケメ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。	胴部破片	
古式土師器 壺	SK-14 覆土	25	—	—	3.6	密	良好	灰白色	S 字裏の陶製品と思われる。外面：胴部縮位ハケメ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。胴上部縮位ヘラケズリ。	胴部破片	
弥生土器 壺	SK-19 覆土	25	—	—	11.9	密	良好	黒色	外面：胴下部縮位ヘラケズリ。内面：胴下部～底部ナナ。	底部 1/3 胴上部破片	
弥生土器 壺	SK-19 覆土	25	—	—	19.2	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部縮位ヘラケズリ。内面：口縁部縮位ヘラケズリ。胴中部縮位ヘラケズリ。胴下部縮位ヘラケズリ。	胴部破片	
土師器 鉢	SK-21 覆土	25	16.1	—	8.7	密	良好	黄褐色	外面：口縁部縮位・斜位ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナナ。胴部縮位ヘラケズリ。	口縁部～胴上部 ほぼ完存 胴部破片	
古式土師器 S 字裏	SK-21 覆土	25	—	—	3.9	密	良好	黒褐色	外面：胴部縮位ハケメ。内面：胴部ヘラケズリ。	胴部破片	

(): 推定 [] : 遺存

種目	番号	出仕位置	種別・器種	法量 (cm)		胎土	焼成	色調	器形・成・彫形、文様等の特徴	遺存状況
				口径	底径					
25	28	S K・2・1 覆土	土師器 高坏	(19.5)	—	密	良好	明褐色	口縁部のみわずかに内傾する。外面：口縁部～坏部中部ヨコナデ、坏下部傾位ヘラミガキを施す。内面：口縁部～坏部ヨコナデ、ナデ後放射状ヘラミガキを施す。	口縁部 1/10 坏部 1/4 坏底部完存
25	29	S K・2・1 覆土	土師器 高坏	(19.5)	—	密	良好	明赤褐色	外面：口縁部～坏中部ヨコナデ、坏下部傾位ヘラミガキを施す。内面：口縁部～坏中部ヨコナデ、坏下部傾位ヘラミガキ後放射状ヘラミガキを施す。	口縁部 1/6 坏部 1/3
25	30	S K・2・2 覆土	弥生土器 壺	—	(5.2)	密	良好	黒褐色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部～底部傾位・傾位ヘラミガキ。	胴下部～底部 1/5
25	31	S K・2・3 覆土	弥生土器 壺	(24.0)	—	密	良	にぶい褐色	複合口縁。外面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。	口縁部 2/5
27	1	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	(17.0)	—	密	良好	にぶい黄褐色	外面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。	口縁部 1/8
27	2	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良好	赤褐色 (赤彩)	外面：頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	3	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良好	赤褐色 (赤彩)	外面：頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。	頸部破片
27	4	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺又は鉢	(4.6)	(2.4)	密	良好	にぶい赤褐色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部～底部傾位ヘラミガキ。	胴下部 1/4 底部完存
27	5	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺又は鉢	(13.0)	(3.1)	密	良好	にぶい褐色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部～底部傾位により調整不明。	底部 1/6
27	6	S D・0・3 覆土	弥生土器 高坏	—	—	密	良好	淡黄色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	胴下部 1/5
27	7	S D・0・3 覆土	弥生土器 台付環	—	—	密	良	暗褐色	外面：接合部～胴上部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	接合部完存
27	8	S D・0・3 覆土	弥生土器 高坏	—	—	密	良	赤色 (赤彩)	外面：接合部～胴上部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	接合部完存 胴上部 2/5
27	9	S D・0・3 覆土	弥生土器 高坏	(14.0)	(4.5)	密	良好	淡黄色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	胴部 1/6
27	10	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	口縁部に輪痕2段残す。外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	11	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	口縁部に残るため複合口縁状を呈する。外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	12	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	黒色	口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	13	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	外面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	14	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	外面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
27	15	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	外面：胴上部傾位ヘラミガキ。内面：胴上部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
27	16	S D・0・3 覆土	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	外面：胴上部傾位ヘラミガキ。内面：胴上部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
28	1	P・4 覆土	弥生土器 壺	(11.0)	(2.9)	密	良好	にぶい黄褐色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	1	IV層	弥生土器 壺	—	—	密	良	褐色	複合口縁状を呈する。外面：口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	2	N区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	良好	にぶい黄褐色	胴部は穿孔玉状を呈すると思われる。外面：胴中部傾位ヘラミガキ。内面：胴中部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	3	H区 IV'層	弥生土器 小型壺	—	—	密	良好	灰白色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	4	P区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	やや不良	褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	5	IV層	弥生土器 壺	—	—	密	不良	褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	6	M区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	良好	淡褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	7	A・B区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	良好	にぶい黄褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	8	H区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	良好	にぶい黄褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	胴部破片
29	9	F区 IV'層	弥生土器 台付環	—	5.7	密	良好	にぶい黄褐色	外面：胴部傾位ヘラミガキ。内面：胴部傾位ヘラミガキ。	底部完存
29	10	IV層	弥生土器 壺	—	—	密	良	褐色	外面：接合部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	接合部～胴上部 1/2
29	11	H区 IV'層	弥生土器 壺	—	—	密	良	淡褐色	複合口縁。外面：口縁部～頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部～頸部破片
29	12	I区 IV'層	弥生土器 小型壺	—	—	密	良	黒褐色	口縁部のみわずかに内傾する。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	13	A・B区 IV'層	弥生土器 小型壺	—	—	密	良	黄褐色	外面：口縁部ヨコナデ後放射状。頸部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	14	F区 IV'層	弥生土器 高坏	—	—	密	良	にぶい褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	15	A・B区 IV'層	弥生土器 高坏	—	—	密	良好	赤色 (赤彩)	口縁部が外側に張り出し耳状を呈する。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	16	IV層	弥生土器 高坏	—	—	密	良	淡褐色	口縁部のみわずかに外反する。外面：口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	口縁部破片
29	17	IV層	弥生土器 高坏	—	6.6	密	良	褐色 (赤彩)	外面：胴下部～脚部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	胴下部 1/4 胴下部 3/4
29	18	IV層	弥生土器 高坏	—	—	密	良好	淡褐色	外面：接合部ヨコナデ。胴上部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。	接合部～胴上部完存
29	19	IV層	土師器 高坏	(11.8)	—	密	不良	褐色	複合口縁。口縁部は外傾する。外面：底縁激しく調整不明。	口縁部～胴上部 1/8
29	20	IV層	須臾器 高坏	—	(15.3)	密	良好	褐色	脚部が内傾する。外面：胴下部ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。内面：胴下部ヨコナデ。ナナメナデ。	胴下部～底部 1/5
30	1	遺構外	弥生土器 壺	—	(7.9)	密	良	褐色	外面：口縁部傾位ヘラミガキ。内面：口縁部傾位ヘラミガキ。	底部～高台部 1/5
30	2	遺構外	弥生土器 壺	—	(2.2)	密	良	赤色 (赤彩)	複合口縁。外面：口縁部ヨコナデ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。赤彩。	口縁部～頸部破片
30	3	遺構外	弥生土器 壺	—	(7.2)	密	良	にぶい黄褐色	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。赤彩。	胴下部～底部 1/4
30	3	遺構外	弥生土器 壺	—	(5.8)	密	良	赤色 (赤彩)	外面：胴下部傾位ヘラミガキ。内面：胴下部傾位ヘラミガキ。赤彩。	胴下部～底部 1/5

(): 推定 | | : 遺存

種図 番号	出土位置	種別・器種	法量 (cm)		胎土	焼成	色調	器形・成、文様等の特徴		遺存状況
			口径	底径				高さ	器高	
30図 4	遺構外	弥生土器 壺	—	(8.1)	2.8	良	灰黄褐色	外面：胴下部傾位ヘラナナデ。胴最下部傾位ヘラナナデ。底面：胴下部傾位ヘラミナデ。底面ナデ。	胴下部～底面 1/5	
30図 5	遺構外	弥生土器 壺	—	—	7.5	良好	緑灰色	複合口縁。外面：口縁部傾位ヘラナナデ。内面：口縁部～頸部傾位・傾位ヘラナナデ。	口縁部～頸部破片	
30図 6	遺構外	弥生土器 壺	—	—	5.6	良	灰白色	外面：胴部傾位ハケメ後器底格子文を器底に施す。内面：胴部傾位ハケメ。	胴部破片	
30図 7	遺構外	弥生土器 甕	—	—	3.2	良好	緑灰色	口縁部がわずかに内傾する。外面：口縁部傾位ハケメ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。頸部細い。器底波状文。内面：口縁部～頸部傾位ヘラナナデ。	口縁部～頸部破片	
30図 8	遺構外	弥生土器 高坏	(15.0)	—	5.4	良好	赤色 (赤彩)	口縁部は高筒する。外面：口縁部～環部傾位ヘラミナデ。赤彩。内面：口縁部ヨコナデ。環部傾位ヘラミナデ。赤彩。	口縁部～環部破片	
30図 9	遺構外	弥生土器 高坏	—	—	4.4	良好	赤色 (赤彩)	口縁部がわずかに外反する。口縁部に焼成細孔あり。外面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。	口縁部～環部破片	
30図 10	遺構外	弥生土器 高坏	—	—	3.9	良好	赤色 (赤彩)	口縁部がわずかに外反する。口縁部に焼成細孔あり。外面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。	口縁部～環部破片	
30図 11	遺構外	弥生土器 高坏	—	—	2.0	良好	赤色 (赤彩)	口縁部がわずかに外反する。外面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。内面：口縁部ヨコナデ。赤彩。	口縁部破片	
30図 12	遺構外	弥生土器 高坏	—	—	2.0	良好	褐色	口縁部がわずかに外反する。外面：口縁部ヨコナデ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。	口縁部破片	
30図 13	遺構外	縄文土器 漆鉢	—	—	2.2	良好	にぶい褐色	外面：胴部傾位ハケメによる傾位線による傾位線が連続する。外面：口縁部傾位ヘラミナデ。赤彩。	胴部破片	
30図 14	遺構外	縄文土器 S字壺	—	—	2.4	良	灰黄褐色	台部傾位ナデ。外面：台下部傾位ヘラナナデ。内面：台下部ナデ。	台部破片	
30図 15	遺構外	古式土器 甕	—	—	3.5	良	黒褐色	台底球を呈するか。外面：胴下部傾位ヘラナナデ。内面：胴下部傾位ヘラナナデ。底面傾位ハケメ後傾位・傾位ヘラミナデ。	胴下部～底面破片	
30図 16	遺構外	須恵器 坏	—	3.8	2.2	良	灰色	外面：口縁部傾位ヘラミナデ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。底面傾位ヘラミナデ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。底面傾位ヘラミナデ。	底面 1/2	
30図 17	遺構外	須恵器 坏	—	—	2.9	密	灰白色	外面：口縁部傾位ヘラミナデ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。	口縁部破片	
30図 18	遺構外	灰陶器 坏	—	—	3.1	密	灰白色	外面：口縁部傾位ヘラミナデ。内面：口縁部傾位ヘラミナデ。	口縁部～体部破片	
30図 19	遺構外	不明 ミニチュア土器か	—	—	4.2	密	黄灰色	寸詰まりの砲型を呈するか。口縁部～胴部は一部開口しており上から見るとC字状を呈すると思われる。外面：口縁部傾位ヘラミナデ。注口状の浅い切り込み1か所あり。口縁部～胴部ナデ。内面：胴部～底面傾位ヘラミナデ。	1/3	

第3表 出土土器品観察表

種図 番号	出土位置	種別	法量 (cm)		遺存	器形・成、整形等の特徴	遺存状況	
			長さ (cm)	幅 (cm)				厚さ (cm)
5図 12	S I - 0 1	覆土 土製品 勾玉	3.2	2.1	1.3	7.5	手捏成形。一部(端部)にヘラナナデか。孔径最大3mm最小2mm、片側から穿孔。	完存
11図 28	S I - 0 5	覆土 土製品 絞輪車	4.1	4.1	1.4	26.3	表面面共にヘラナナデ。側面ナデ。孔径最大7mm最小6mm、表面片側から穿孔。	完存

第4表 出土土器・石製品観察表

種図 番号	出土位置	種別	法量 (cm)		遺存	石質	器形・成、整形等の特徴	遺存状況
			長さ (cm)	幅 (cm)				
05図 13	S I - 0 1	覆土 石器 敲石	14.8	7.3	4.5	904.3	片方の端部に敲打痕が見られる。	遺存状況
05図 14	S I - 0 1	覆土 石器 敲石	10.5	5.9	3.7	322.8	上下両端に敲打痕、側面1ヶ所に擦痕が見られる。	ほぼ完存
15図 40	S I - 0 6	覆土 石器 敲石	16.3	6.4	4.1	664.3	両端部に敲打痕が見られ、敲打に伴う欠損がある。	完存
15図 41	S I - 0 6	覆土 石器 スクレイバー	7.2	11.8	1.8	140.1	刃部に細い加工痕が見られる。	完存
15図 42	S I - 0 6	覆土 石器 打製石斧	(4.8)	3.5	2.1	39.2	打製石斧の破損品。下半次打後に下部を使用し、両対石器となっている。	完存
15図 43	S I - 0 6	覆土 石器 磨石	10.7	6.1	1.7	171.8	刃部に赤色物質が付着する。	完存
15図 44	S I - 0 6	覆土 石器 磨石	7.5	7.0	2.1	100.9	表面及び両側面に擦痕が見られる。	完存
15図 45	S I - 0 6	覆土 石器 磨製石鏡	4.9	3.3	0.5	9.6	片側面に凹みがある。	1/2
15図 46	S I - 0 6	床面 原石	3.2	2.0	1.6	12.3	加工前の原石と思われる。	—
18図 7	S I - 0 9	覆土 石器 磨製石鏡	2.6	2.9	0.5	4.5	磨製石鏡の未成品。片方の端部に擦痕が見られる。	完存
20図 22	S H - 0 1	覆土 石器 磨製石鏡	5.1	1.6	0.5	7.1	磨製石鏡の未成品。片方の端部と側面に切痕が見られる。	—
24図 4	S K - 0 2	覆土 石器 磨製石鏡	2.6	2.4	0.4	2.7	磨製石鏡の未成品。片側の端部に切痕が見られる。	—
24図 13	S K - 0 7	覆土 石器 磨製石鏡	2.4	1.4	0.2	0.8	磨製石鏡の未成品。	—
29図 21	D区 IV 層	石器 磨製石鏡	4.0	2.0	0.5	2.7	磨製石鏡の未成品。	—
29図 22	H区 IV 層	石器 磨製石鏡	3.1	1.8	0.3	2.7	磨製石鏡の未成品。片側の端部に切痕が見られる。	—
30図 20	遺構外	石器 磨製石鏡	2.6	1.2	0.2	1.1	磨製石鏡の未成品。	—
30図 21	遺構外	石器 磨石	7.6	5.7	1.7	79.7	表面及び片方の端部に擦痕が見られる。	完存
30図 22	遺構外	石器 敲石	(5.8)	9.1	2.3	167.6	表面面に敲打痕が見られ、片方の側面に浅い刻痕がある。また、両側面には人為的な削磨加工がなされている。	完存
30図 23	遺構外	石器 凹石	9.6	6.0	3.6	258.9	表面面に管状、上下両端部に敲打痕が見られる。	1/4 完存

発掘調査報告書抄録

ふりがな	ひだかむらぬしいせき
書名	日高村主遺跡
副書名	事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第420集
編著者名	高林 真人
編集機関	株式会社 測研
所在地	〒370-3517 群馬県高崎市引間町712-2
発行年月日	平成30年12月21日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ひだかむらぬしいせき 日高村主遺跡	群馬県高崎市日高町 581番地1	102024	724	36° 21' 55"	139° 02' 09"	20180409 ～ 20180531	192	事務所建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日高村主遺跡	集落跡	近世	溝跡 2条	瓦・陶磁器	
	包蔵地	弥生時代 ～平安時代	遺物包含層 1面	弥生土器・土師器・須 恵器・灰釉陶器・石器	
	集落跡	弥生時代 ～古墳時代	竪穴住居跡 9軒 方形周溝墓 1基 土坑 24基 溝跡 1条 ピット 18基	弥生土器・古式土師器・ 土製品・石器	

要約	<p>本遺跡は前橋台地上に立地する弥生時代後期以前・弥生時代中期～古墳時代前期、古墳時代中期以降の遺構が確認された複合遺跡で、弥生時代中期～後期の集落及び弥生時代終末期～古墳時代初頭の方形周溝墓・溝跡が主体となる遺跡である。弥生時代の竪穴住居跡は、中期後半～後期初頭が1軒、後期後半が8軒確認された。後期後半の住居跡は3時期に分けられ、集落は4時期にわたって継続すると考えられる。弥生時代終末期～古墳時代初頭になると竪穴住居跡は確認されず方形周溝墓が造られていることから、集落が途絶え墓域へと変わり、さらに古墳時代前期～中期には区画溝が走る境界地域へと変わる土地利用の変遷が確認された。</p>
----	---



調査区全景 (西から)



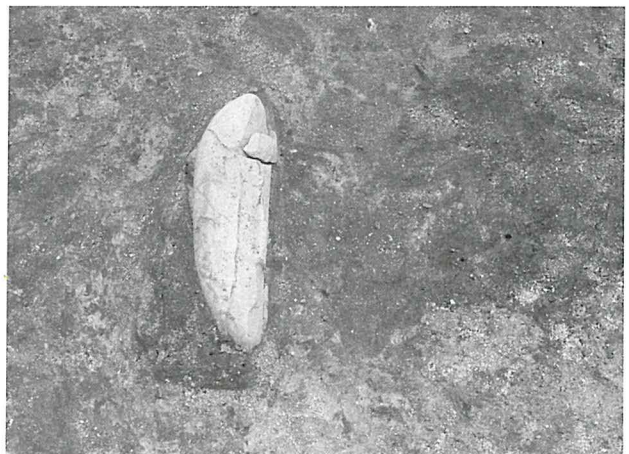
調査前状況 遠景 南西から



遺構検出状況 南から



SI-01 全景 南東から

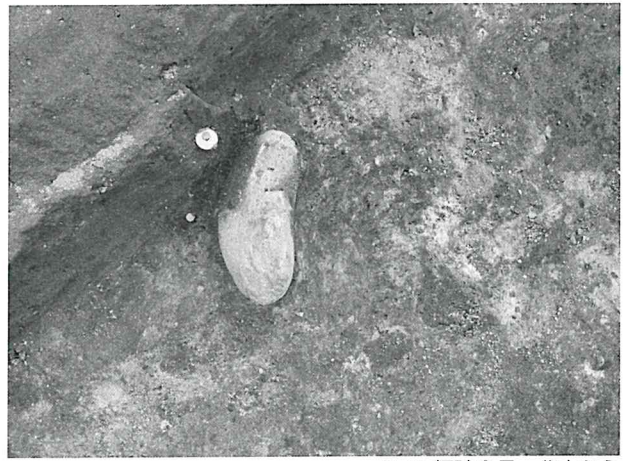


SI-01 炉跡痕跡全景 東から

写真図版 2



SI-02 全景 南東から



SI-02 炉跡全景 北東から



SI-02 土層断面 CC 西から



SI-03 全景 西から



SI-04 全景 南西から



SI-04 遺物出土状況 南西から



SI-04 土層断面 AA 南西から



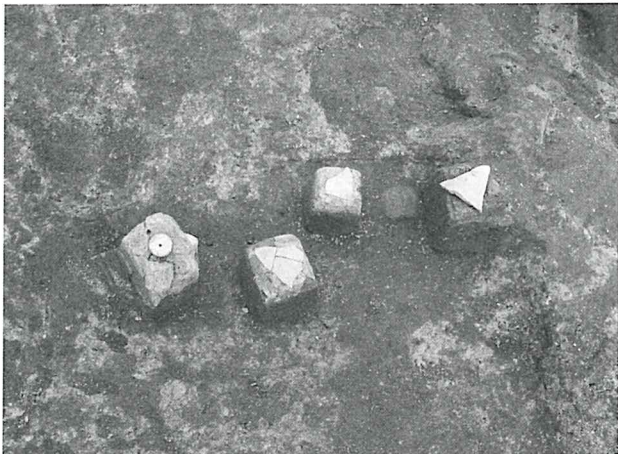
SI-04 土層断面 BB 南東から



SI-05 全景 西から



SI-05 遺物出土状況 西から



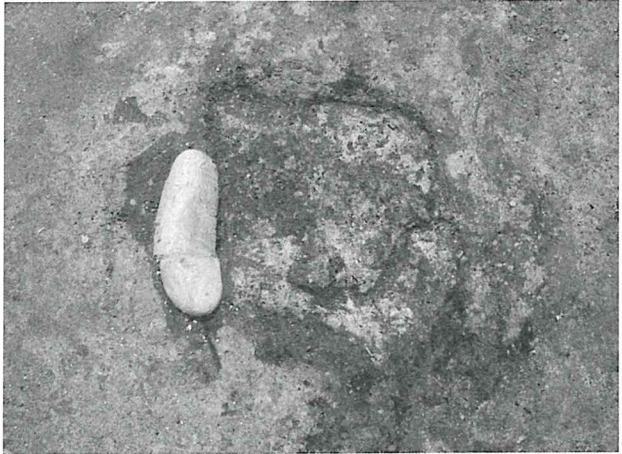
SI-05 遺物出土状況 UP(第10図4・5、第11図28) 西から



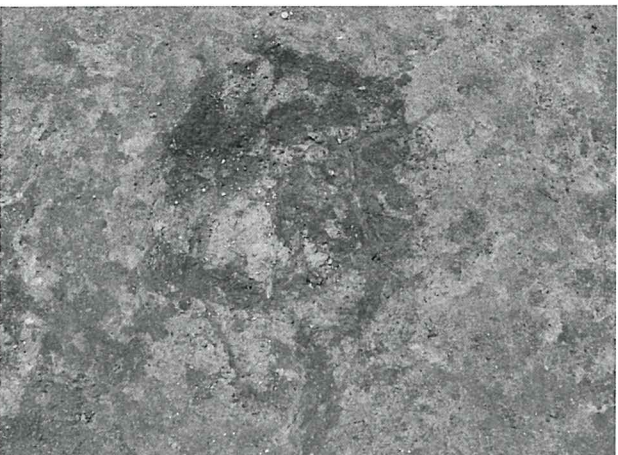
SI-05 土層断面 AA 西から



SI-06 全景 西から



SI-06 炉跡1 全景 東から



SI-06 炉跡2 全景 東から

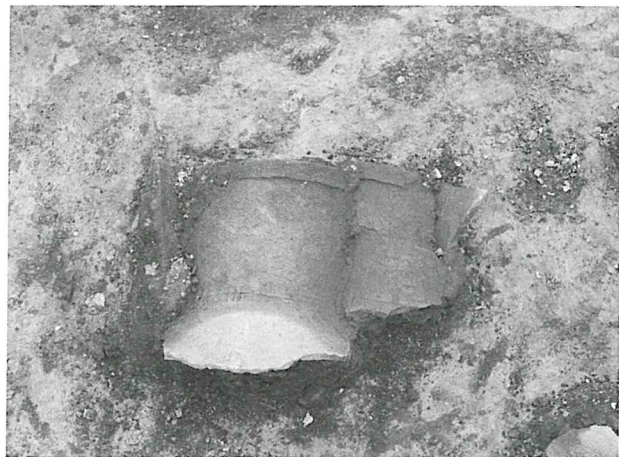


SI-06 遺物出土状況 西から

写真図版 4



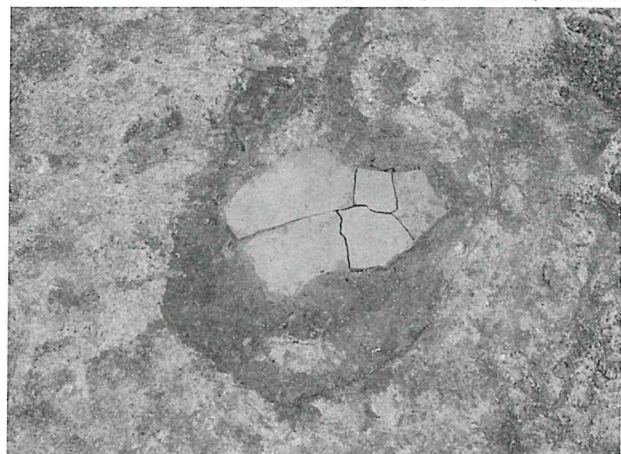
SI-06 遺物出土状況 UP(第13図10) 南から



SI-06 遺物出土状況 UP(第14図13) 東から



SI-06 遺物出土状況 UP(第13図4、第14図15) 西から



SI-06 炉跡2検出状況(第13図3) 西から



SI-06 遺物出土状況 UP(第14図14) 西から



SI-06 遺物出土状況 UP(第13図2) 東から



SI-06 p 3 遺物出土状況(第14図30) 西から



SI-06 土層断面 BB 西から



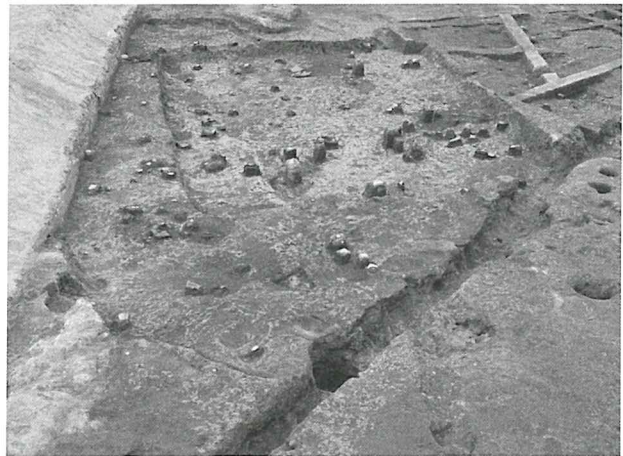
SI-07 全景 南西から



SI-07 遺物出土状況 南西から



SI-07 土層断面 BB 西から



SI-04~SI-07 遺物出土状況 南から



SI-08 全景 西から



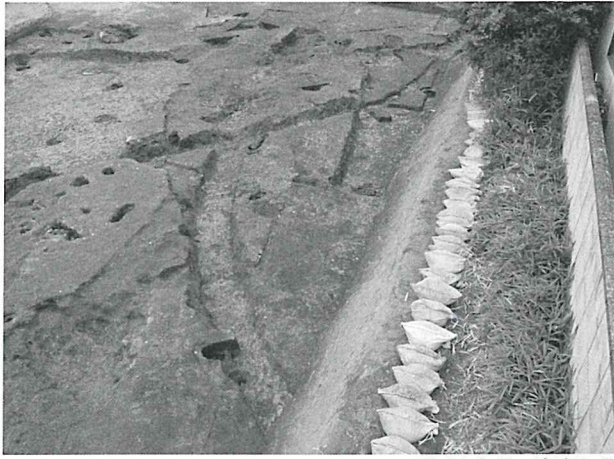
SI-08 土層断面 西から



SI-09 全景 西から



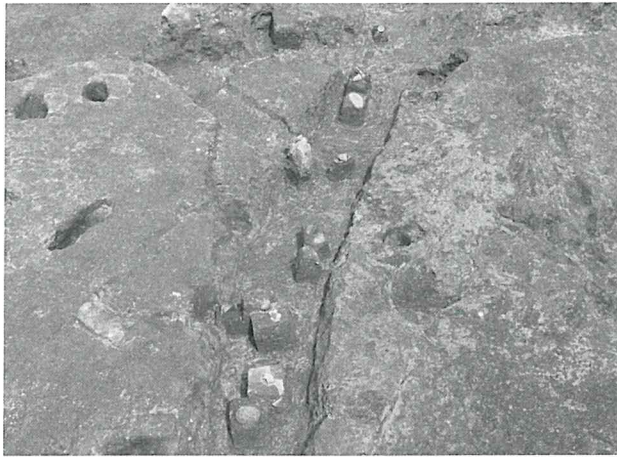
SI-09 土層断面 西から



SH-01 全景 南東から



SH-01 遺物出土状況 南東から



SH-01 遺物出土状況 UP 南東から



SH-01 遺物出土状況 UP(第20図1・8・12~14) 東から



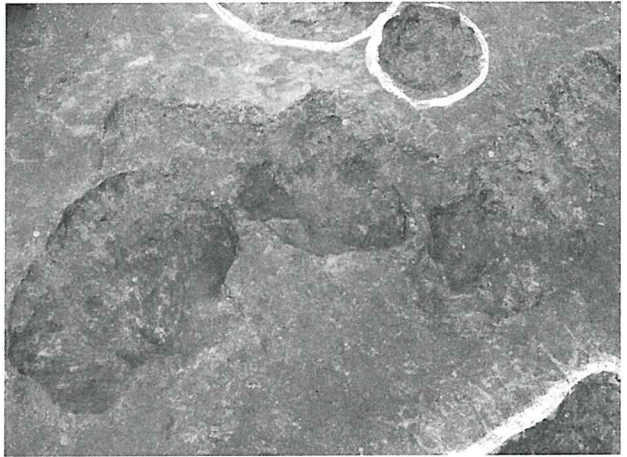
SH-01 遺物出土状況 UP(第20図8・12~14) 南東から



SH-01 遺物出土状況 UP(第20図7・15) 南から



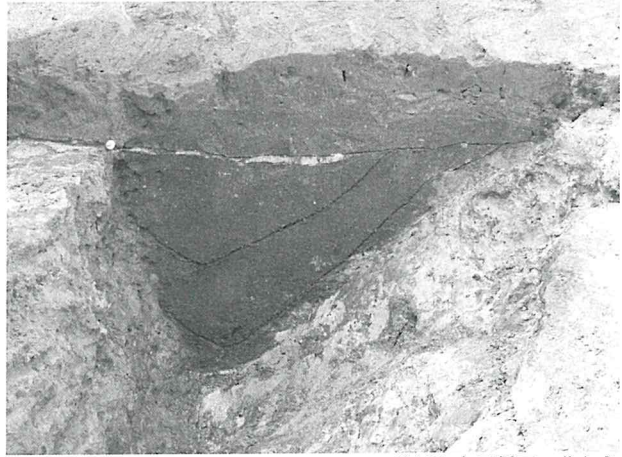
SK-01 全景 南から



SK-03・SK-12・SK-24 全景 南東から



SK-02 全景 北西から



SK-02 土層断面 北から



SK-04 全景 南から



SK-05 全景 南から



SK-06 全景 南から



SK-07 全景 南から



SK-08 全景 南西から



SK-09 全景 西から

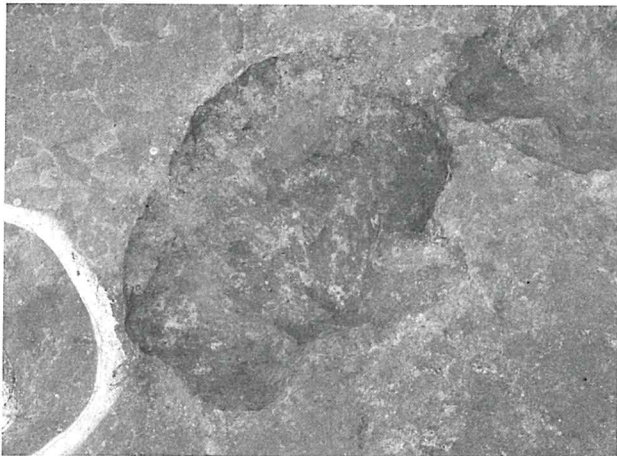
写真図版 8



SK-10 全景 南東から



SK-11 全景 東から



SK-12 全景 南東から



SK-13 遺物出土状況 (第 25 図 20 ~ 22) 西から



SK-14 全景 南から



SK-15 全景 西から



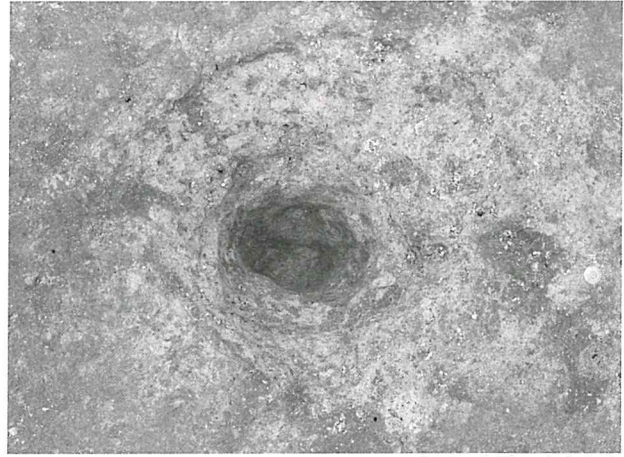
SK-16 全景 北東から



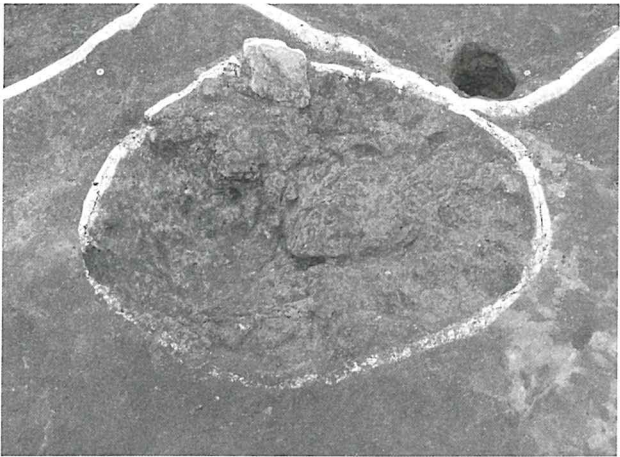
SK-17・SK-18 全景 東から



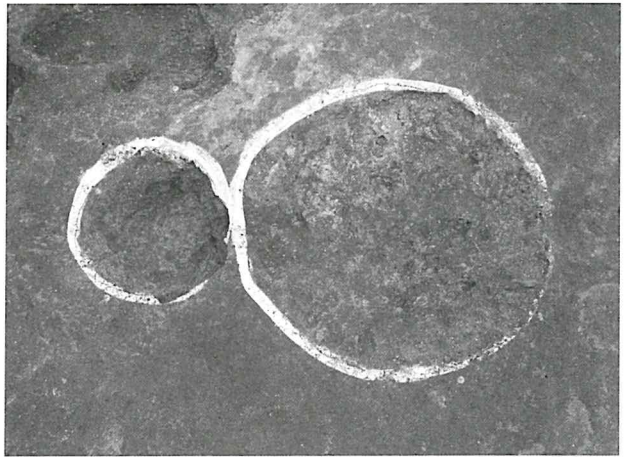
SK-19 全景 北東から



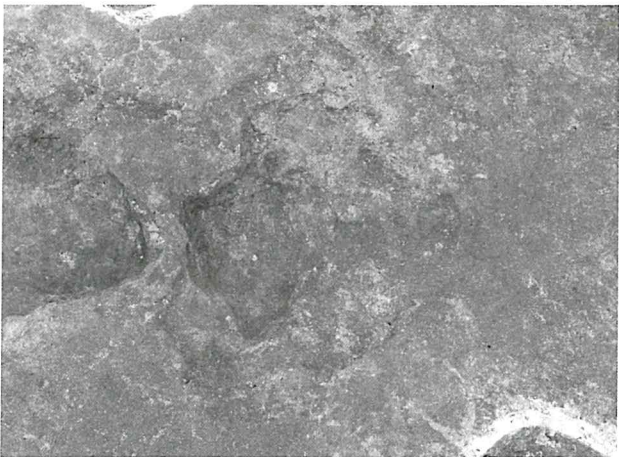
SK-20 全景 南東から



SK-21 全景 北東から



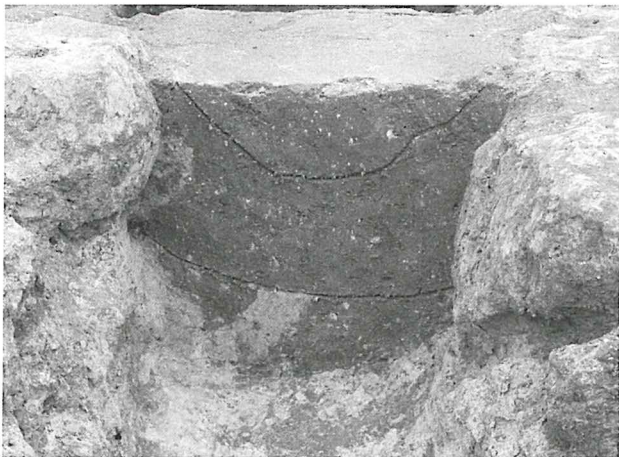
SK-22・SK-23 全景 北から



SK-24 全景 南東から



SD-03 全景 南西から



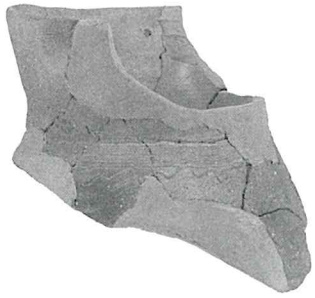
SD-03 土層断面 GG 南西から



作業風景

写真图版 10

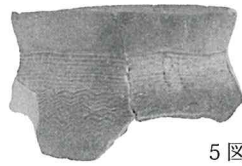
SI-01



5图1



5图2



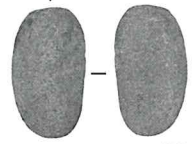
5图3



5图5



5图12

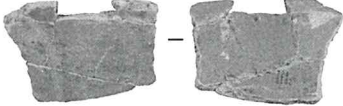


5图14

SI-02



6图2



6图4

SI-04



8图1



8图2

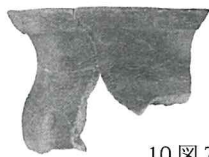


8图3

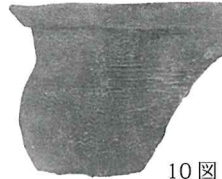
SI-05



10图2



10图7



10图8



10图11



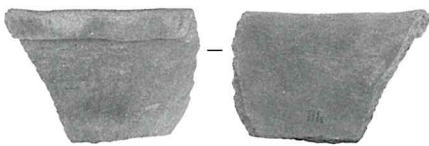
10图10



10图14



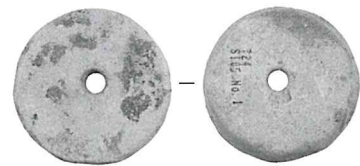
10图15



11图22



11图26

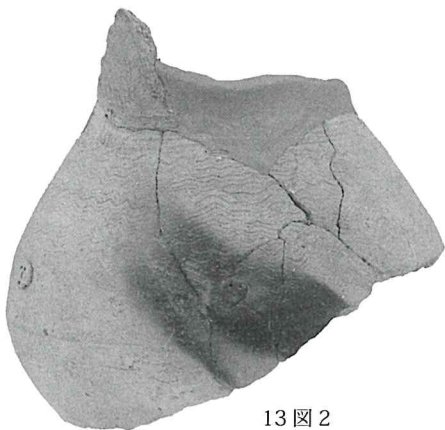


11图28

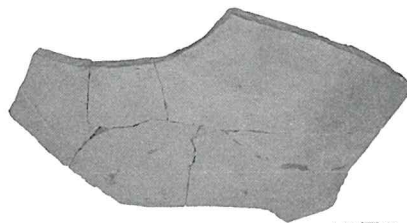


11图25

SI-06



13图2



13图3



15图40



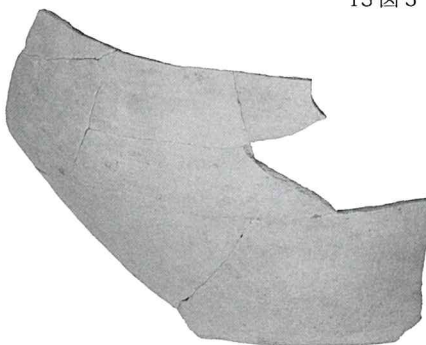
15图41



13图6



13图8



13图4



15图45

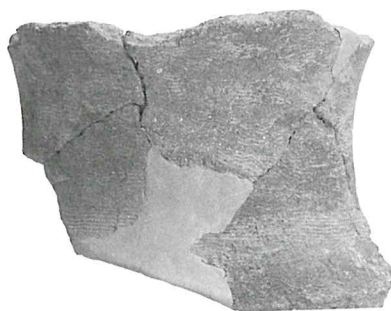


15图46

SI-06



13图 10



13图 11



13图 12



14图 13



14图 14



14图 16



14图 17



14图 19



14图 20



14图 21



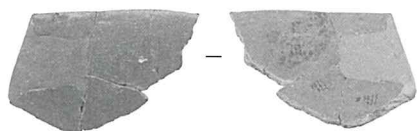
14图 32



14图 30



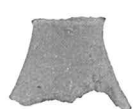
14图 31



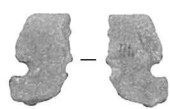
14图 25



14图 26



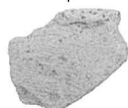
14图 29



14图 33



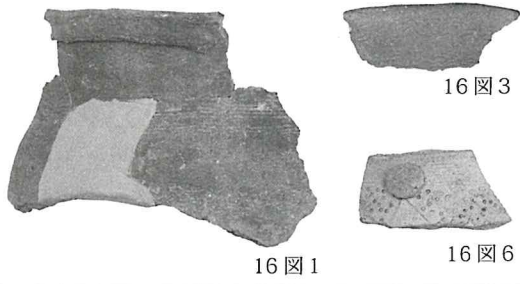
14图 34



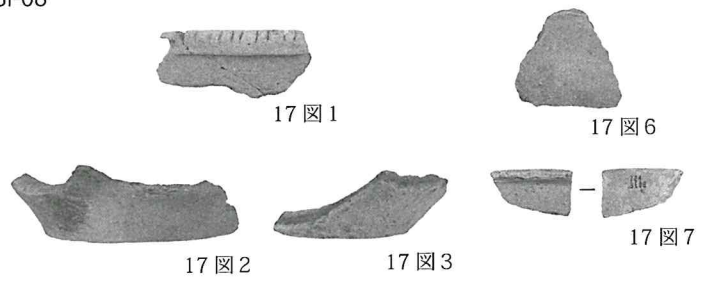
14图 35

写真图版 12

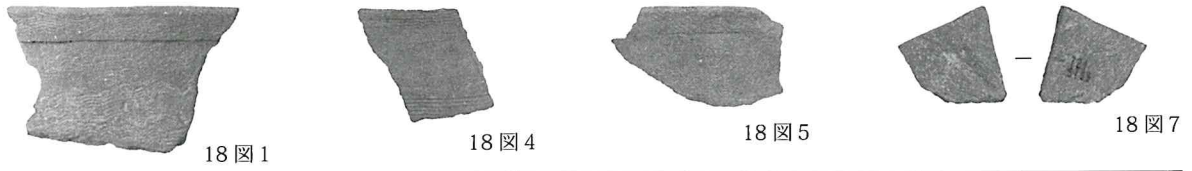
SI-07



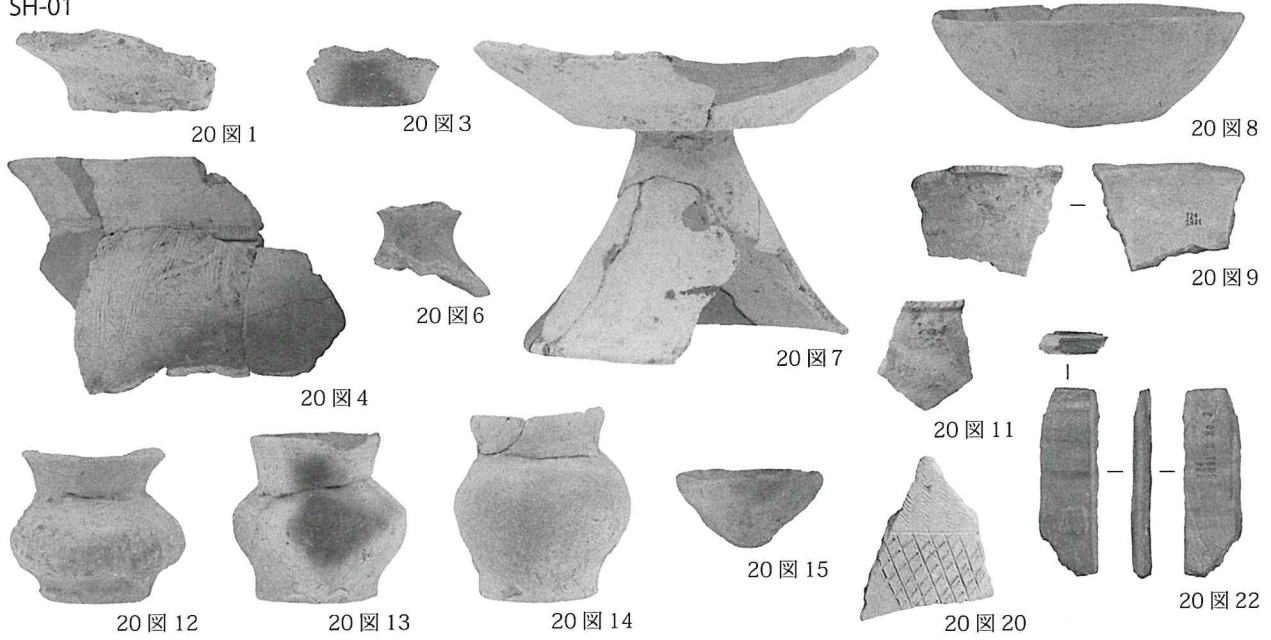
SI-08



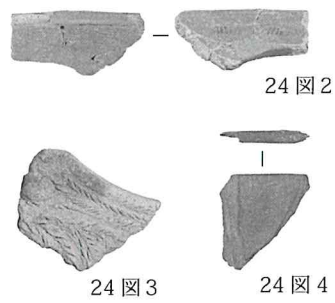
SI-09



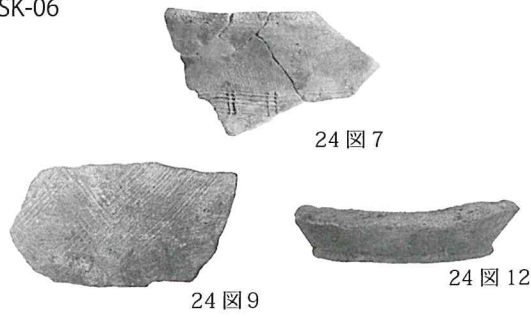
SH-01



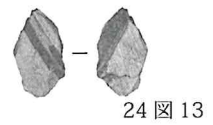
SK-02



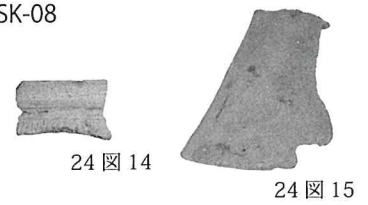
SK-06



SK-07



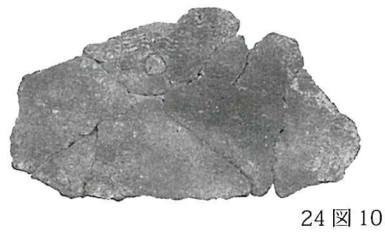
SK-08



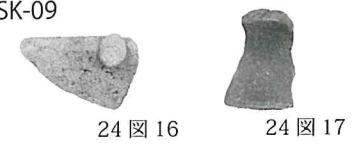
SK-04



SK-09



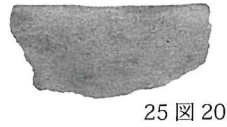
SK-09



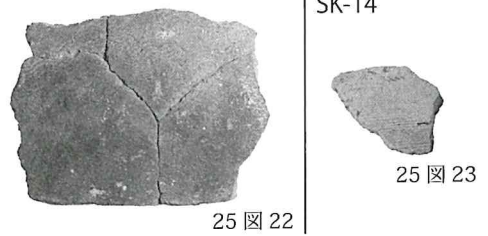
SK-11



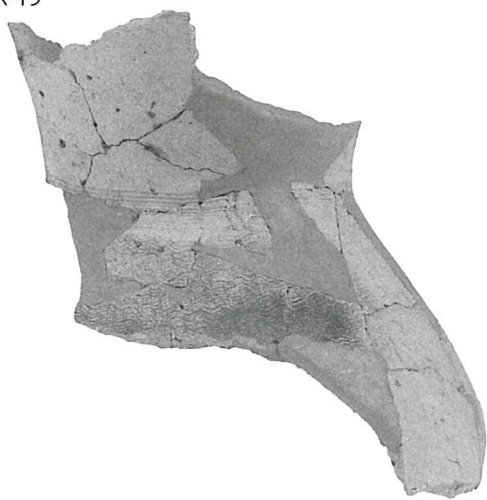
SK-13



SK-14

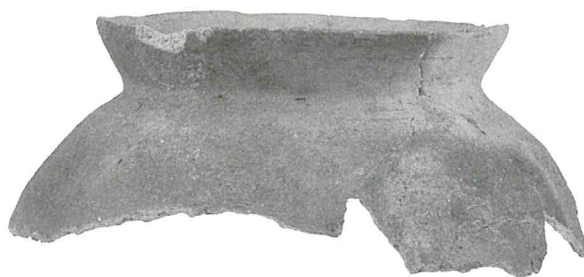


SK-19

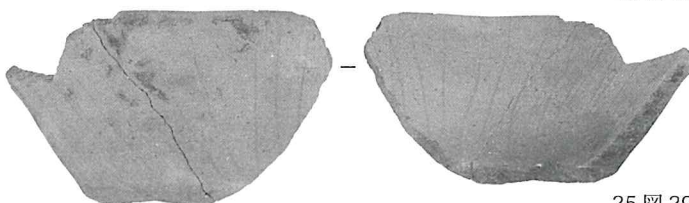


25 図 25

SK-21

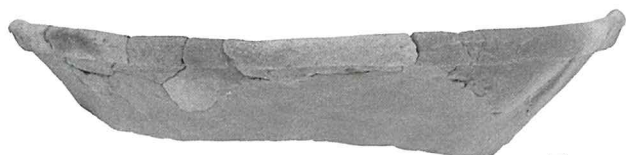


25 図 26

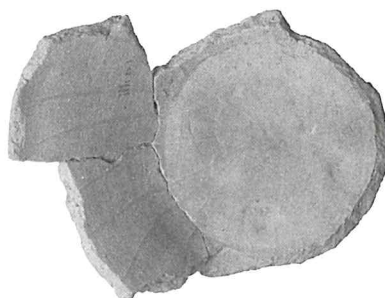


25 図 29

SK-23



25 図 31



25 図 27

SD-03



27 図 2



27 図 4



27 図 8



27 図 10



27 図 16



25 図 28

遺物包含層



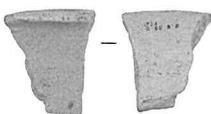
29 図 1



29 図 5



29 図 12



29 図 15



29 図 21



29 図 22



29 図 4



29 図 8



29 図 16



29 図 17



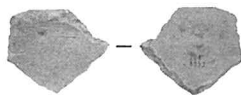
遺構外



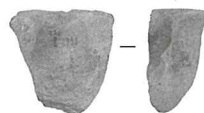
30 図 1



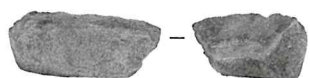
30 図 7



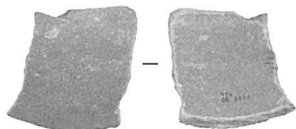
30 図 10



30 図 19



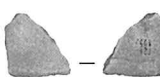
30 図 2



30 図 8



30 図 13



30 図 14



30 図 3



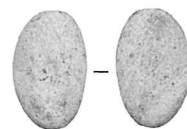
30 図 12



30 図 18



30 図 20



30 図 23

高崎市文化財調査報告書第 420 集

日高村主遺跡

—事務所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018 年 11 月 30 日 印刷

2018 年 12 月 21 日 発行

発 行 株式会社 高崎測量

高崎市教育委員会

株式会社 測 研

印 刷 上毎印刷工業株式会社
